

平成26年度（平成25年度対象）

逗子市教育委員会 点検・評価に関する報告書

逗子市教育委員会

【 目 次 】

○はじめに

1 趣旨	1
2 点検・評価の対象	1

○学校教育

1 点検・評価の実施方法	3
2 点検・評価の記載方法	3
3 報告内容の構成	4
4 点検及び評価の結果	

I	子どもたちの学力向上	5
	1 個に応じた指導の充実	5
	① 「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実	5
	② 「読解力」向上の取り組みの推進	9
	③ 読書活動の推進	13
	④ 校内支援体制を活用した支援教育の推進	17
	〈教育委員会分析結果〉	21
	〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉	25
	2 健やかな心と身体の育成	27
	① 基本的な生活習慣の育成	27
	② 豊かな心を育む道徳教育の推進	31
	③ 豊かな体験活動の推進	35
	④ 食育と体力づくり・健康教育の推進	39
	〈教育委員会分析結果〉	43
	〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉	46
II	課題に迅速に対応する学校づくり	48
	1 多様な教育的課題への対応	48
	① 学校安全の推進	48
	② 問題行動等への対応の推進	52
	③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	56
	④ 国際教育の推進	60
	⑤ キャリア教育の推進	64
	⑥ 福祉教育の推進	68
	⑦ 環境教育の推進	72
	⑧ 情報教育の推進	76
	〈教育委員会分析結果〉	80
	〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉	85
	2 地域に開かれた学校づくり	87
	① 地域への情報発信と学校公開の工夫	87
	② 地域教育力の活用	91
	③ 学校評価を生かした学校の改善	95
	〈教育委員会分析結果〉	99
	〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉	102

Ⅲ	教員の指導力向上	104
	1 教員研修・研究の充実	104
	① 授業研究の充実	104
	② 授業評価の活用	108
	③ 研修事業の充実	112
	〈教育委員会分析結果〉	116
	〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉	118

○社会教育

1	点検・評価実施方法	121
2	点検・評価の記載方法	121
3	報告内容の構成	121
4	点検及び評価の結果	
	各種講座事業	123
	学校開放事業	124
	人権・同和教育等事業	125
	家庭教育推進事業	126
	小坪公民館まつり事業	126
	小坪公民館図書貸出事業/沼間公民館図書貸出事業	127
	小坪公民館学級講座事業/沼間公民館学級講座事業	128
	社会教育委員会議からの意見、助言	129

○参考資料

	平成25年度の教育委員会の活動状況	132
	逗子市学校教育総合プラン全体図	135
	平成23年度～平成25年度 学校による点検及び評価の推移	
	逗子小学校	136
	沼間小学校	142
	久木小学校	148
	小坪小学校	154
	池子小学校	160
	逗子中学校	166
	久木中学校	173
	沼間中学校	179
	地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）	185
	地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律について （抜粋）	186

〇はじめに

1 趣 旨

平成 19 年 6 月に公布された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、平成 20 年 4 月 1 日から、すべての教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。

本報告書は、この法律の規定に基づき、委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、教育に関する学識経験者の意見及び助言をいただき、点検及び評価を実施し、結果を報告するものです。

本市の特色ある教育施策を広く市民の皆さまにお知らせすることにより、教育現場における課題や取り組みの方向性を明らかにし、また、社会教育の講座等の充実を図り、より一層効果的な教育行政の推進を図り、逗子のよりよい教育施策の実現に資するよう努めてまいります。

2 点検・評価の対象

点検・評価の対象については、学校教育に関わる対象事業は、「21世紀を生きる子どもの育成、未来を切り拓く子どもの成長を支えるために」を基調に策定された「逗子市学校教育総合プラン(第Ⅲ期)」(平成 25 年度改定)を対象とし、学校の教育活動に焦点をあてています。

また、平成 24 年度から社会教育に関わる事業について、「すし生涯学習推進プラン」2011～2014 に基づく、社会教育に関する講座等の事業を対象としており、今年度につきましても引き続き対象としています。

○学 校 教 育

1 点検・評価の実施方法

学校教育に関わる対象事業は、「逗子市学校教育総合プラン（第Ⅲ期）」に基づいて実施しています。

本計画は、「21世紀を生きる子どもの育成、未来を切り拓く子どもの成長を支えるために」を基調に、逗子の公立学校の取り組む方向性を示す「逗子市学校教育総合プラン」を平成18年3月に策定しました。その際、変わり行く社会情勢や教育改革に対応できるよう、プランの期間を3年とし、2年経過後見直しを図ることとしました。

平成24年度中に改訂作業を進め策定した第Ⅲ期のプランも、第Ⅰ期・第Ⅱ期同様、さらなる学校教育の充実に向け、これまでの本市の教育施策や各学校の取り組みを整理するとともに、理念的なプランではなく、「子どもたちの学力向上」「課題に迅速に対応する学校づくり」「教員の指導力向上」と大きく三つの柱を立て、これからの子どもたちに培う力、そのための学校教育の進め方などについて具体的・実践的なプランとなっています。

この三つの柱を中心に、基礎学力の定着、豊かな体験活動の推進、健康教育の推進、地域全体で学校を支援する体制づくりなどに重点がおき、平成25年度の取り組みについて点検・評価を実施しました。

* 予算や決算審査では見えにくい各学校の教育活動に焦点をあて、「逗子市学校教育プラン」の平成25年度における取り組みを点検・評価するものです。

2 点検・評価の記載方法

(1) 「逗子市学校教育総合プラン」の三つの柱に基づいて定めた各行動プランについて、平成25年度に各小・中学校が取り組んだ状況を明らかにするとともに、教育委員会が各小・中学校が取り組んだ事項を総合的に分析した結果を記載しています。

(2) 点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する方の意見、助言を記載しています。意見をいただいた方々のお名前は、次のとおりです

久保田 貢 氏（元鎌倉女子大学非常勤講師 元鎌倉市立西鎌倉小学校長）

福田 幸男 氏（横浜国立大学教育人間科学部教授）

3 報告内容の構成

(1) 項目

点検・評価の対象を「逗子市学校教育総合プラン」の「三つの柱」をさらに次の五つに分けた項目ごとに点検・評価を行っています。

- ア 個に応じた指導の充実
- イ 健やかな心と身体の育成
- ウ 多様な教育的課題への対応
- エ 地域に開かれた学校づくり
- オ 教員研修・研究の充実

(2) 目標

項目及び行動プランごとの目標を掲げています。

(3) 各小・中学校の実施計画取り組み概要

各小・中学校ごとの行動プラン「平成25年度の取り組み目標」を「達成した」かどうか、「達成した」とした場合、その判断をした状況、「達成できなかった」とした場合、その目標への取り組み状況や明らかになった課題を、「評価と課題」としてまとめています。

(4) 教育委員会分析結果

各小・中学校の取り組みの進捗状況（項目別達成率）などを踏まえ、教育委員会が評価を行い、今後の課題や対応の方向をまとめています。

教育委員会の自己評価のうち評価は、市立全校の実践評価での項目別達成率が90%を超え、顕著な成果が見られるものをS、同じく実践評価での項目別達成率が80%を超え、多くの成果を挙げていると判断できるものをA、同じく実践評価での項目別達成率が70%を超え、一定の成果を挙げていると判断できるものをB、同じく実践評価での項目別達成率が60%を超えているものをC、同じく実践評価での項目別達成率が60%に満たないものをD、としています。

(5) 学識経験を有する者の意見、助言

外部からいただいた意見を掲載しています。

4 点検及び評価の結果

I 子どもたちの学力向上

<目 標>

学校が、子どもたちの学力向上を果たすために、子どもの実態を踏まえた教育課程を編成し、個に応じた指導の充実を図り、指導法・評価活動の工夫をすすめるとともに、基本的な生活習慣の育成を家庭とともに連携し、進めていきます。

1 個に応じた指導の充実

① 「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実

【 目 標 】

「確かな学力」を育むためには、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成及び主体的に学習に取り組む態度の育成が求められます。このためには、授業の工夫・改善に取り組み、一人ひとりの子どもにどのように指導していくのかを考えていくことが大切です。

具体的には、各教科等の指導にあたり、基礎的・基本的な知識・技能の活用を図る学習活動を重視し、言語活動の充実を図ります。また、学習評価を通し、授業のあり方の見直しや個に応じた指導の充実を図るなど、指導と評価の一体化を進めます。

その際、一斉学習だけでなく少人数指導・チームティーチング等の多様な学習形態も活用し、個に応じた指導ができるよう取り組みます。また、子どもたちの学習習慣が確立するよう、家庭との連携を図ります。

各小中学校における平成 25 年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校

【目標】

- I 基礎・基本の定着に向けた授業改善
- II 言語活動の充実に向けての研究推進
- III 外国語活動の計画的な実践の推進

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- I 校内研究を通して、学年を単位とした教材研究や指導法の検討を進め、授業改善につとめた。
- II 委託研究と並行して思考力・判断力を育て高めるための言語活動の充実について取り組みを進めた。また、体育科授業研究を進め11月に研究発表を行った。
- III 担当を中心に研修会を行い、時間割表の位置づけと年間計画を作成、実践に取り組んだ。

沼間小学校

【目標】

- I 基礎・基本の定着に向けた「わかる授業」への工夫改善
- II 発達段階に応じた学習の仕方の指導

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 校内研究や授業研究の実施に伴い、「わかる授業」への工夫改善は進んだが、今後も継続する必要がある。
- II 発達段階に応じた学習の仕方についても学年で共通理解を図りながら、今後も継続していく。

久木小学校

【目標】

- I 単元計画に基づき、毎時間の授業展開の工夫改善を図る
- II 少人数指導、ティームティーチング、小集団等、多様な学習形態を活用し、基礎・基本の定着を図る

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 継続的な課題であり、取り組みを続けたい。
- II 児童の学力向上に取り組むべく、学習形態の工夫、スクールライフサポーターなどを活用し基礎学力の定着を図った。人的環境の充実を望む。

小坪小学校

【目標】

- I 校内研究で得られた成果を具体的な授業の中で活かす実践を積み上げる
- II 基礎・基本の習得のための指導の工夫に取り組む

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 「コミュニケーション力の育成」を目指した研究の成果を授業実践に活かすことができた。
- II 基礎・基本の習得に向け、児童の実態把握から、指導法の工夫・改善に努めた。

池子小学校

【目標】

- I 学習状況調査などのデータや日々の見取りに基づいて子どもの実態を把握し、授業研究の取り組みを通して指導方法の工夫と改善を図る
- II 少人数やチームティーチング等、多様な学習形態を工夫し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る

【評価】

- I 達成できなかった
- II 達成した

【成果と課題】

- I 児童の実態を見ながらブロック間でも情報交換し、研究授業を通して指導方法の改善を図った。今後も学力向上を目指し、学習状況調査などのデータも活用し、学校全体で取り組みたい。
- II 多様な学習形態を活用し、学習の定着を図った。

逗子中学校

【目標】

- I 指導法の工夫改善を図り、効果的な少人数・習熟度別・チームティーチングの実践・検証
- II 学習支援情報（個人学習カルテ）の作成と、教科相談等の支援活動の実施
- III 校内研究と連動した研修の実施と授業改善

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- I 数学、英語を中心に単元や授業のねらいとの関連で、少人数習熟度別授業やチームティーチングを実施した。
- II 個人学習カルテを作成し、保護者面談や教科相談に活用した。
- III 横浜国立大学の両角准教授をスーパーバイザーとして、年間2回の公開授業と11月

の授業研究（3クラス）を中心に校内研究を進めた。

久木中学校

【目標】

- I 指導法の工夫改善を図る（わかったから定着・活用へ）
- II 少人数指導での習熟度別指導の充実（成果の明確化）
- III 個人カルテ（学習支援シート）の利用の推進

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- I 年間を通じて教科毎に計画的に授業研究を行い授業改善を行った。
- II 数学は2，3年生で少人数指導を行った。外国語では全学年で少人数指導とチームティーチングを効果的に用いることができた。
- III 支援を要する生徒について作成・活用ができた。

沼間中学校

【目標】

- I 夏季休業中に実施する発展的・補充的学習（サマーチャレンジ）を保護者・生徒に周知し、参加を促す
- II 少人数学級での指導が有効となるよう指導の工夫・改善を行い、検証する

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 定着してきた。
- II 次年度も継続して研究する必要がある。

② 「読解力」向上の取り組みの推進

【目標】

読解力を「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考し、これに取り組む能力」（文部科学省2010）とするならば、この力を高めていくためには、テキストを理解・評価しながら読む力を高めること、様々な文章や資料を読む機会をもつこと、自分の意見を述べたり書いたりすることが必要になります。

新しい学習指導要領においては、言語活動の充実を図ることにより、これからの時代を担う子どもたちに、思考力、判断力、表現力等を身につけさせ、社会の変化に対応する能力やそれに伴う課題を自らの力で解決する能力を育成することを目指しています。これらの能力は、国語科のみならず各教科等においてその育成が重視されています。

どれも短期間で育成されるものではなく、長期的な視野を持ち、継続して取り組んでいくことが重要です。

各小中学校における平成 25 年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校

【目標】

- I 言語活動・コミュニケーション力向上に関する研究推進
- II 思考力・判断力・表現力の向上に向けての取り組みの検討

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I・II 委託研究において思考力・判断力を育てるという視点から効果的な言語活動の在り方について研究を進め、研究成果については研究発表を行った。
- II 授業参観等で管理職も積極的に指導に当たった。

沼間小学校

【目標】

- I 各教科での言語活動の充実
- II 自分の考えを表現できる子の育成
- III 「学び合い」を大切にした授業づくり

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- 本校の校内研究のテーマに沿って全教員が取り組んだが、継続することで読解力のさらなる向上を図る。

久木小学校

【目標】

- 国語科、各教科、道徳、総合的な学習の時間を通して、言語活動の充実を図る

【評価】

- 達成した

【成果と課題】

- 各教科・領域において言語活動の充実を目指す授業づくりを進めた。特に、校内研究において算数科に取り組み、授業実践を通し研究を深めた。次年度も継続する。

小坪小学校

【目標】

- I 各教科等における「言語活動の充実」のあり方について再確認する
- II コミュニケーション能力の育成に取り組んできた成果を授業を通して検証する

【評価】

- I 達成できなかった
- II 達成した

【成果と課題】

- I 研究のまとめとして成果と課題を共有するため、提案授業の教科を絞ったため、各教科における「言語活動の充実」については全体で確認することができなかった。
- II 2年間の研究のまとめとして成果を授業を通して検証することができた。

池子小学校

【目標】

- I 学習状況調査などの結果を踏まえ、本校児童の特性を分析し、読解力向上のために各教科や教科外の活動において言語活動の活性化を図る
- II すべての教育活動の中で、コミュニケーション能力の育成を意識して取り入れることをめざす

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 学習状況調査などの結果から、本校児童の特色を知り、各学年で言語活動の活性化に努めた。
- II 各学年、各学級で行う教育活動の中で意識的に言語活動の場を設け、コミュニケーション

ョン能力の育成をめざした。

逗子中学校

【目標】

- I 言語活動の充実を重視した各教科での年間指導計画の作成
- II 社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力の育成（生徒の自己評価）
 - ・言語、シンボル、テキストを活用する能力
 - ・知識や情報を活用する能力
 - ・テクノロジーを活用する能力

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 校内研究のテーマと関連付けて年間指導計画を作成した。
- II 6月と1月の年間2回全生徒に自己評価をしてもらい、過半数を超える肯定的な自己評価を得た。

久木中学校

【目標】

- I 久木中学校としての言語活動の充実を教科指導全体を通じて計画的に推進する
- II 様々な文章や資料を読む機会や、自分で意見を述べたりする機会を充実させ、コミュニケーション能力の育成を図る（教科の課題としてレポート作成、プレゼン発表を推奨する）

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 朝学活から教科等において時期的に取り組むことができた。
- II 総合的に学習や行事等において計画的に取り組むことができた。

沼間中学校

【目標】

- I 各教科指導の場で、言語活動を基に思考力・判断力・表現力等を身につけさせる取り組みを実践するように、全校体制で研究していく
- II 総合的な学習の時間や特別活動の場で、「読解力」向上の取り組みを取り入れるよう、全校体制で研究していく

【評価】

I 達成した

II 達成した

【成果と課題】

I 研究授業を全員実施し、研究テーマにせまり全校体制で研究することができた。

II 各自課題解決学習を実施し、資料活用能力を発達し、まとめ学習などで発表する力を
培う。

③ 読書活動の推進

【 目 標 】

読書活動は「考えながら読む」「考えたことを表現する」という言語に関する能力を育むことに不可欠であり、本に接し読書に親しむことは、いろいろな考えに触れ、知識を蓄え、豊かな心を育むことの基盤となります。

学校においては、読書活動につながる教育内容・指導方法の工夫により、子どもたちに読書の楽しさを伝えるとともに、家庭・地域と連携し、読書の習慣付けを促進することが大切です。

また、学校生活をおくる子どもたちにとって、学校図書館は読書活動の重要な拠点と言えます。子どもの読書習慣の定着と読書意欲の向上のために、学校図書館を核として、市立図書館や地域の方々との連携を図り、子どもたちが活発に図書館を活用し読書に親しむことができるようネットワークの充実を図る必要があります。

各小中学校における平成 25 年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校

【目標】

- I 学校図書館の整備と充実
- II 読み聞かせボランティア、図書館ボランティアの活用推進
- III 市立図書館との連携の推進

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- I 学校図書館指導員の指示のもとで図書委員・図書館ボランティアにより、図書室の整理整頓を進めた。
- II 各学年と連絡調整を行い、年間実施計画を立てて取り組みを進めた。
- III 使用学年・学級が増え活用が進んだ。

沼間小学校

【目標】

- I 読書活動の日常化
- II 読書環境の充実
- III 学習活動に読書活動を位置づける

【評価】

- I 達成した

Ⅱ 達成した

Ⅲ 達成した

【成果と課題】

- 本校の読書活動が全教職員の共通理解の下で進められていることや、児童による図書委員会の取り組み、学校支援地域本部事業での取り組みが定着していることが児童の読書環境の充実に役立っている。

久木小学校

【目標】

- Ⅰ 読書活動推進全体計画に基づき、児童の成長を踏まえた指導の充実を図る
- Ⅱ 司書教諭、学校図書館指導員、学習支援ボランティアを活用し、読書活動を推進する
- Ⅲ お話会による読み聞かせ等の活動を行う

【評価】

- Ⅰ 達成した
- Ⅱ 達成した
- Ⅲ 達成した

【成果と課題】

- Ⅰ 計画通り実施できた。引き続き、学年に応じた読書指導の充実を目指していきたい。
- Ⅱ 児童の間に読書活動が定着している。図書委員会の活動も自主性を増している。
- Ⅲ 学年の実態に応じた内容を設定することができた。

小坪小学校

【目標】

- Ⅰ 読書活動につながる教育内容・指導方法を工夫し実践する
- Ⅱ 家庭との連携を図り、読書の習慣づけを図る

【評価】

- Ⅰ 達成した
- Ⅱ 達成した

【成果と課題】

- Ⅰ 朝の一斉読書等、読書活動の充実については計画的に取り組んだ。
- Ⅱ 読み聞かせボランティアの活動を通して保護者にも読書の習慣づけの重要性を啓発した。

池子小学校【目標】

- Ⅰ 図書室の利用指導を行うと同時に、各教科の中で、図書室を利用した学習を推進する
- Ⅱ 蔵書のよりよい充実を図り、学習情報センター及び読書センターとして、学校図書館の機能向上をめざす

【評価】

I 達成した

II 達成した

【成果と課題】

I 各教科の学習における調べ学習で図書館を積極的に利用した。図書室でそろわない資料については、図書館での団体貸し出しや図書館のパックでの貸し出しなどを活用した。

II 絵本、理科や社会、総合的な学習の時間等の調べ学習に活用できる資料まで整理、購入し、図書室の整備、充実に努めた。

逗子中学校

【目標】

I 学習情報センターとしての学校図書館機能の充実

II 朝読書を中心とした読書活動の充実

III 市立図書館との連携

【評価】

I 達成した

II 達成した

III 達成した

【成果と課題】

I 総合的な学習の時間を中心に活用した。

II 年間2回の読書週間で「朝読書」を行い、校長・教頭も含めて「読み聞かせ」を行った。

III 市立図書館の図書への借り受けを中心に連携を図った。

久木中学校

【目標】

I 学習情報センターとしての学校図書館の機能を高める

II 学校図書館指導員、学校支援ボランティアを活用し学校図書館の機能を活性化させる

III 朝の読書を推進する（学校支援地域本部事業の活用）

【評価】

I 達成した

II 達成した

III 達成した

【成果と課題】

I 学習利用としての学校図書館の機能は高まった。

II 指導員を中心として読書指導や調べ学習の場として活性化ができた。

III 年間を通じて計画的に取り組むことができた。

沼間中学校

【目標】

- I 図書委員会を中心に、読書活動の活性化のための新企画を提案し、実行を図る
- II 市立図書館等との連携・協力の下に、カリキュラムのねらいを把握し、学習情報センターとしての機能の充実に努める

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- 市立図書館等の連携・協力の下、学習情報センターとしての機能の充実はさらに確立していくよう努める。

④ 校内支援体制を活用した支援教育の推進

【 目 標 】

支援を必要としている子どもたち一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切に対応するために、学校を中心とした総合的な支援体制の充実が求められています。

それに応えるために、学校では教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制の充実を進め、ケース会議や校内委員会で検討した支援を具現化する必要があります。また、学校だけでは解決できない課題に対しては、専門家や専門機関と連携し協働することが大切です。

よりよい支援を行うために「支援シート」₁を活用し、子どもたちのライフステージ₂を見通した指導の継続と様々な機関との連携による「縦」と「横」の支援が必要です。

各小中学校における平成 25 年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校

【目標】

- I 校内支援会議等を通して情報共有と組織的な取り組みを推進
- II 保護者との密な連携による支援の実践
- III 校内支援体制を確立し外部専門機関との連携を推進

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- I 年3回の児童理解研修会を行うとともに、毎月の職員会議で情報交換を行った。また、校内支援会議では教育相談コーディネーターを中心に具体的な支援の手立て等を検討し、実施した。
- II 支援が必要な児童の保護者と心理の専門家や外部機関と連携を図り、支援の方法や内容について職員間で共通通解を行い、巡回指導員の手も借りて実践した。
- III 心理の専門家や外部機関と連携を取り、支援の方法や内容についてアドバイスを受けた。また、保護者の対応についても支援してもらった。

沼間小学校

【目標】

- I 校内支援体制の構築
- II 支援ニーズの把握と指導の充実
- III 児童理解に基づいたきめ細かな支援と保護者との連携・協働の推進

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- I 校内支援体制づくりへの共通理解は進み、学年協働、学校内支援が進んでいる。
- II 支援シートを記入する取り組みでは保護者との連携が欠かせない。
- III 保護者と信頼関係を結び、連携・協働をさらに推進していきたい。

久木小学校

【目標】

- I 教育相談コーディネーターを中心に校内支援体制の充実を図り、子どもたちの教育的ニーズに応じ、具体的支援を行う。
- II 教育研究所、子育て支援課、児童相談所等の外部機関と連携を深める。
- III 幼・保・小・中連携を深め、情報交換を密にする。

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- I 定期的に児童を見取り、情報共有を行い、必要に応じてケース会議等を設定することができた。引き続き、児童・保護者への支援や対応の充実を図りたい。
- II 支援教育推進巡回指導員・スクールカウンセラーと連携し、支援に役立てることができた。
- III 特に、幼稚園・保育園、療育相談との連携を深めることができた。今後も継続していきたい。

小坪小学校

【目標】

- I 支援教室立ち上げ、教育相談コーディネーターを中心に校内支援体制の機動性を高める
- II スクールカウンセラー・支援教育推進巡回指導員・うるおいフレンドの活用をすすめ、保護者と学校が子どものニーズに対して共通理解を深め、協働して支援の充実を図る

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 教育相談コーディネーターを中心とした支援教育の組織的な取り組みの充実を図ることができた。

- Ⅱ 支援教育推進巡回指導員による各教室の見取りを充実させ、必要に応じて支援会議を行い、組織的な支援の充実を図った。

池子小学校

【目標】

- Ⅰ 教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制の充実を進め、組織の連携を図るとともに、児童のニーズを適切に把握し、ケース会議・チーム会議等を開いて支援に向けた具体的対応を進める
- Ⅱ 支援教育推進巡回指導員を中心とした支援教室を確立させる

【評価】

- Ⅰ 達成した
- Ⅱ 達成した

【成果と課題】

- Ⅰ 年に2回児童指導研修会を実施し、支援や配慮が必要な児童理解ができた。何か問題が起きたときに、早急・適切に対応できた。
- Ⅱ 支援が必要な児童に支援教育推進巡回指導員による支援教室で学習することによって、ソーシャルスキルが高まった。教材も増え、活用できた。

逗子中学校

【目標】

- Ⅰ 教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制の充実
- Ⅱ 学習支援員、スクールカウンセラー、心の教室相談員、ボランティア等の人的リソースを有効に活用した、支援教室等、個に応じた支援の実施
- Ⅲ 学習環境・授業のユニバーサル化を図るための、スクールスタンダードの検討

【評価】

- Ⅰ 達成した
- Ⅱ 達成した
- Ⅲ 達成できなかった

【成果と課題】

- Ⅰ 二人の教育相談コーディネーターを中心に、毎月の校内支援委員会及び関係諸団体とのネットワーク会議等機能した。
- Ⅱ 取り組みの成果として不登校生徒数の減少（18名から14名）をみた。
- Ⅲ 教室前面の掲示板にカーテンを設置し、教室環境の構造化を図ったが、まだ緒についたばかりである。

久木中学校

【目標】

- I 生徒の正しい見立てに基づき、一人ひとりの生徒の状況に応じた支援方法、指導体制の研究を進める
- II 生徒が安心して学べる学習集団を形成するとともに、生徒が授業に意欲的に参加できる授業づくりを進める
- III 学校支援地域本部などとの連携を進め、学校支援ボランティアの協力を得る

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- I 支援教育委員会を中心に全職員が生徒理解できる体制を作っている。
- II 授業のユニバーサル化に絡めて取り組が進んでいる。
- III 地域との連携に計画的に進めることができている。

沼間中学校

【目標】

- I 支援を必要とする生徒について校内リソースを活用しながらの支援プランを作成検討し、実行に移せる方法を確立させる
- II 困り感を持つ生徒と特別支援学級との共同学習のあり方を検討していく

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- 学年職員や支援時間担当が対応しても同時に複数の生徒に支援が必要な場合人材不足だったので人的リソースの再配置を考える必要がある。

〈教育委員会分析結果〉

1 平成 25 年度に教育委員会が実施した主な「●事業」と学校への「▲指導内容」

(1) 主な実施事業

- 少人数指導教員・教育指導教員派遣事業（13人）
- 学校教育支援ボランティア〈学校支援地域本部事業〉（7,985人）
- 授業研究推進校委託
 - 逗子小学校⇒伝え合う心を育てよう
 - 沼間小学校⇒自分の考えを表現できる子をめざして
 - 久木小学校⇒協同的・創造的な学び合いをめざして
 - 小坪小学校⇒コミュニケーション力の向上を目指した授業研究
 - 池子小学校⇒生き生きと自主性のある子にするために
 - 逗子中学校⇒学ぶ意欲を引き出し、自ら学び考える力を育成する授業をめざして
 - 久木中学校⇒授業のユニバーサル化
 - 沼間中学校⇒意欲・自己肯定感を高め、言語活動を基に思考力を高める授業づくりをめざして
- 学校図書館指導員派遣事業（8人）
- 日本語指導講師派遣事業（9人）
- 特別支援教育充実事業
（学習支援員49人、特別支援補助教員3人、ことばの教室補助指導員1名）
- 支援教育推進巡回指導員（1名）、市費スクールカウンセラー（1名）の配置

(2) 主な指導内容

- ▲児童・生徒一人ひとりの課題に沿った学習指導のための教材や指導方法の工夫・改善
- ▲学習指導要領の実施にあたっての課題把握と改善
- ▲学習評価の妥当性、信頼性の向上
- ▲「読書活動推進計画」の実施
- ▲教育相談コーディネーターを中心とした校内児童・生徒支援体制の確立
- ▲校内支援体制の構築に向けた各校の課題把握
- ▲教育相談コーディネーター、心の教室相談員、学校図書館指導員、学習支援員等への研修会の実施
- ▲支援教室の運営等に関する支援

2 各学校の自己評価を総合した市立全校の実践評価と主な成果

(1) 市立全校の実践評価 (項目別達成率 96.1%)

(2) 主な成果等

【「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実】

- ・中学校では数学と英語で少人数指導を実施した。小学校では一部の学年において、算数をティームティーチング又は少人数指導で実施した。中学校の少人数指導ではいずれも習熟度別グループで実施した。小学校では、単元や授業内容によってはT2がオープンスペース等で習熟度に応じて個別・グループ指導を行ったり、子どもたちに恣意性を感じさせないよう、担任が習熟度に配慮した編成で少人数指導を行ったりした。
- ・全ての小・中学校で夏季休業中に児童・生徒の実態に応じた補充的学習の機会を設定し取り組んだ。また、学校によっては、発展的な内容を扱うサマースクールの取り組みを学校体制として実施した。
- ・全ての中学校で、学習カルテ作成の取り組みが行われ、それを基に教育相談の場で保護者・生徒に具体的な話ができた。

【「読解力」向上の取り組みの推進】

- ・思考力・判断力を育てるという視点から効果的な言語活動の在り方について校内で研究を進めた。

【読書活動の推進】

- ・地域住民や保護者のボランティアとの連携で、読み聞かせやお話会など、読書の習慣づけのきっかけになる活動を積極的に行った。
- ・学校図書館指導員は司書教諭と連携して、保護者のボランティアの協力も得ながら、学校図書館が子どもの学習する際の望ましい環境となるように、整備や研修に努めた。

【校内支援体制を活用した支援教育の推進】

- ・支援教育推進巡回指導員と市費スクールカウンセラーが、小学校を中心に巡回し、支援の必要な児童の実態把握や教員へのアドバイス、保護者との面談等を行い、各学校の支援教育の推進を図った。
- ・教育相談研修講座や夏季研修会を通じて、児童・生徒理解や対応方法について、研修を深めることができた。
- ・支援の必要な児童・生徒の課題の把握と情報共有を教職員間で行うことができた。
- ・外部の専門機関とのネットワークづくりと教育相談・ケース会議の充実を図った。

3 教育委員会の自己評価と主な成果等

(1) 教育委員会の自己評価〔A〕

コメント 学習指導要領に対応した学力を育てるため、個に対応した学習指導の充実へ向けて努力した。

(2) 主な成果等

【「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実】

- ・全普通教室に設置されているエアコン（平成 22 年度中に設置完了）により、夏休み前後の猛暑時における学習環境の改善が図られている。
- ・全ての学校において夏休み中の児童・生徒への学習支援が行われた。

【読書活動の推進】

- ・子ども読書推進担当者会（2回）と学校図書館指導員研修会（6回）を開催し、児童・生徒の読書活動に寄与するための情報交換や研修を行った。
- ・市立図書館との連携が進んだ。

【校内支援体制を活用した支援教育の推進】

- ・小学校に支援教育推進のために巡回指導員を派遣し、支援教室の教材配布や活用の仕方について説明した。
- ・各学校において、学校の実態に合わせた研修を適宜実施した。
- ・幼・保・小連携推進連絡調整会議における情報交換、小学校・中学校教員による情報交換、指導主事による就学相談および教育研究所の教育相談などを通じて、小1プロブレムや中1ギャップ解消に向けて取り組んだ。

4 平成 26 年度に向けて必要とされる主な事業及び指導内容

(1) 「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実

- ・平成 26 年度も県の学習状況調査が小学校 4 教科、中学校 5 教科で実施されるので、その調査用紙を活用し逗子市学習状況調査を実施する。また、全国学力・学習状況調査も、全国悉皆で実施されるので、各学校におけるそれぞれ児童・生徒の学力把握のための一つの手段とし、個に応じたきめ細かい指導がより一層充実するように指導を継続して行く。
- ・教職員の職務の合理化を図り、児童・生徒に直接向き合う時間を確保する。
- ・「確かな学力」を育むために必要な教員の指導力の向上に努める。

(2) 読書活動の推進

- ・小学校、中学校それぞれの実態に即して、読書活動の推進を行う。
- ・学校図書室蔵書貸し出し数の推移
(H25年度 小学校 年間平均27冊/人、中学校6冊/人)
(H24年度 小学校 年間平均30冊/人、中学校6冊/人)

(H23年度 小学校 年間平均30冊／人、中学校6冊／人)

(3) 校内支援体制を活用した支援教育の推進

- ・教職員一人ひとりが共通理解を持ち、児童生徒・保護者に対し適切な対応を図るためにも、校内支援体制を整え、チーム支援が十分できるように、人的配置や研修が必要である。
- ・小・中学校9年間の支援教育が一貫性を持ち、小学校入学時および中学校卒業時における接続期の機関連携を含めて、児童・生徒・保護者が安心して学校生活を送ることができるよう個に応じた支援や予防的な関わりをめざし、子育て支援課をはじめとする関係機関との連携を含めた環境調整を行い、問題の未然防止を図る。
- ・支援教室を効果的に運営するために、教材の有効な活用方法やソーシャルスキルトレーニングなど、指導方法の改善に取り組む。
- ・授業のユニバーサルデザイン化などの工夫を充実させ、「だれにでも分かりやすい授業」の実現に向けて取り組む。
- ・援助ニーズのある児童・生徒を含め、「お互いに認めあう学級」づくりに取り組み、通常学級における合理的配慮を実践する。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉〈久保田 貢 氏〉

新学習指導要領の完全実施から、小学校は2年、中学校は1年が経過した。各学校とも、改訂の趣旨を踏まえ確実に取り組んでいることが伺える。今回の改訂の基本姿勢は前回の改訂と変わらず、「生きる力」の更なる充実、とりわけ「確かな学力」の形成に重点が置かれている。その要素の一つとして、「個に応じた指導の充実」「言語活動の充実」「読解力の充実」などが指摘されている。

「基礎学力定着のための個に応じた指導の充実」について、各学校とも、個人差が表れる教科について、引き続き、習熟度に応じた少人数指導やチームティーチングに力を入れ、一定の成果を上げていることが伺える。

今後とも、指導内容や学習効果、グループ分け等の面で評価・改善を図ると共に、指導方法や指導形態、更には、学習の個別化・個性化についても検証・研究し、「子供に育成すべき学力」「子供にとって必要な学力」「今求められている学力」とは何かを追究し、少人数指導やチームティーチングに偏らず、「一斉指導における個に応じた学習指導」のあり方について研究を深めることを期待する。

「読解力」向上の取り組みの推進については、各学校共に、言語活動の充実に重点を置き、読書活動を始め、各教科等で様々な工夫を図りながら取り組んでいることが伺える。

「読解力」は、思考力、創造力、表現力、判断力、コミュニケーション能力など「生きて働く学力」の素地であり、そのためには、日々の学習活動での言語活動が極めて重要である。子どもの思考力や表現力や書字能力の低下等が指摘されている中で、子どもが活字や映像等を通して、子どもが何を感じ、何を思い、それをどう表現するかを引き出す役割が教師であることを認識する必要がある。

「読書活動の推進」については、各学校とも充実に向けて一定の成果を上げていることが伺える。今後は、学校図書館としての機能の充実を図るよう、子供のニーズに応えた蔵書の充実や市図書館とのオンライン化などのハード面の充実が求められる。

「校内支援体制を活用した支援教育の推進」については、各学校とも、「子ども一人ひとりに寄り添う支援体制」を目指して、教育相談コーディネーターを始め、支援教育推進巡回相談員や地域ボランティア、保護者、関係諸機関との連携を密にした取り組みがなされ、一定の成果を上げていることが伺える。今後とも、子どもにとって、安心・充実した学校生活が過ごせるよう、学校運営の充実を期待する。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉 〈福田 幸男 氏〉

「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実

学力向上の取り組みは、児童・生徒の為であると共に、その保護者にとっては、逗子市の教育成果を評価する格好の判断材料となる。したがって、各学校や教育委員会は、その成果を具体的なデータに基づいて説明する（evidence based）責任を有している。また、成果に上げるに至った取り組みを全市で共有する仕組みを構築する必要がある。

全中学校で取り組んでいる「学習カルテ」の作成とその活用を期待する。今後に予想される小中連携、小中一貫教育に向けて、9年間を見据えた児童・生徒の学びを関係者で共有できる取り組みとしてもらいたい。

「読書活動の推進」

読書活動については、その基盤となる学校図書館の整備と充実に加えて、活動を支える学校図書指導員やボランティア等の人的な協力が不可欠である。その一層の充実を期待する。また、「貸し出し数」の推移は量的な指標の一つであるが、児童・生徒の読書活動の多様化や質の向上にも配慮した評価の導入も検討すべきである。

「校内支援体制を活用した支援教育の推進」

校内支援体制の構築、保護者との連携協力、外部専門機関との連携など、「縦」と「横」の支援ネットワークが構築されつつあり、成果につながってきている点を評価する。

校内支援体制の充実は今後とも求められるが、学校の取り組みには自ずと限界があり、専門機関との密接な連携、教育委員会による積極的な人的資源の配置が必要と考えられる。また、保護者との連携・協働力も不可欠であり、日頃からの信頼関係の醸成が求められる。

幼・保・小・中連携を図る中で、相互に情報の共有化をはかり、支援に関する予防的な関わりを一層深める努力が求められる。

2 健やかな心と身体の育成

① 基本的な生活習慣の育成

【 目 標 】

子どもたちの心身の健康問題は、深刻かつ多様化してきており、気力や学習意欲の低下による、学校生活全般への影響が問題指摘されています。

基本的な生活習慣を確立し、子どもたちが活力ある生活を送るためには、健康3原則(食事・運動・休養及び睡眠)を十分に意識しながら、自らの生活課題を改善させるとともに、学校・家庭・地域が密接に連携し、実りある取り組みを進めることが大切です。

学校では子どもたちが規則正しい生活習慣を身に付けるよう、学校全体で協力し子どもに関わっていくことが求められています。

「食事をしっかり食べる」「外遊びを推進する」「睡眠時間を十分とる」をはじめ、「あいさつをする」「ルールや時間を守る」など、子どもたちの暮らしの根底づくりに関心を向けた取り組みを進めます。

各小中学校における平成 25 年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校

【目標】

- I あいさつ運動の推進
- II 基本的な生活習慣育成について学校から発信していく
- III 学級懇談、個人面談等の機会を利用して保護者との連携を深める

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- I 児童会中心に取り組みを進めた。学校評価アンケートでも保護者に評価を聞き指導に生かしている。
- II 児童への指導をやPTAと連携は進めてきたが、保護者を巻き込んだ取り組みは今後さらに進める必要がある。
- III 各クラスで取り組んでいる。

沼間小学校

【目標】

- I 学校でのきまりや暮らし方の指導を学校全体で計画的に進める
- II 学校だより・保健だより・給食だより等を発行して積極的に啓発活動を進める

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- 各グループの担当が適切な話題を取りあげて進めることができ、保護者への啓発活動も保護者に理解されている。

久木小学校

【目標】

- I 学級指導の中で基礎的な生活習慣等の指導を行う
- II 学校・保健だより等を通して情報を発信する
- III 学級懇談、個人面談等の機会を利用し、保護者と連携した取り組みを進める

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- I 全職員の一致した取り組みが重要である。特に、全校集会での話の聞き方の向上が見られた。日常的な指導の継続の必要を感じる。
- II 学校だより、保健だよりなどの通信は、実態に応じ計画的・意図的に発行することができた。
- III 各クラスで取り組んだ。保護者の理解には差があり、一層の努力を必要とする。

小坪小学校

【目標】

- I あいさつ運動を推進し、規律正しい生活の中で基本的な生活習慣の向上をめざす
- II 家庭と連携し、食習慣や家庭学習を含めた生活習慣の確立をめざす

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I あいさつの重要性を折りに触れて指導し、行動目標としてあいさつの定着に取り組んだ。
- II 給食便り、保健便り等を定期的に発行し、基本的な生活習慣の定着の重要性を伝え、意識の向上を促した。

池子小学校

【目標】

- I あいさつ運動を推進し、規律正しい生活を心がけることで基本的な生活習慣の育成をめざす
- II 保護者・地域・関係諸機関と連携し、情報交換や協同事業を通して家庭教育力・地域教育力の向上を図る

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 正門前で朝の交通指導で、校長があいさつ運動を推進することにより、学校全体のあいさつ運動も活性化したと考える。
- II 学校支援地域本部事業など、保護者・地域・関係諸機関との連携も密に行い、特に地域教育力を十分に活かすことができた。

逗子中学校

【目標】

- I 保護者等と連携した、生徒の基本的な生活習慣の育成
 - ・毎日の朝食を必ずとる（80%以上）
 - ・「孤食率」の低下を呼びかける（35%未満）
 - ・家庭でルールをつくり、子どもに家族の一員としての自覚を促す
- II 学校からの多様な手段による情報発信と、保護者・地域との密な連携

【評価】

- I 達成できなかった
- II 達成した

【成果と課題】

- I 朝食は全校生徒の9割以上がほぼ毎日取っているが、他は半数以下であった。
- II 学校便り、学年便り、学級通信に加え、校長通信を月2回程度発行し、ホームページにも掲載した。

久木中学校

【目標】

- I 家庭・学校・地域との連携を基に基本的な生活習慣の育成を図る
- II 学校からの情報発信をはじめとする保護者・地域間での情報の共有化、課題の明確化により、課題解決のための家庭・学校・地域の協働の取り組みを進める

【評価】

- I 達成した
- II 達成できなかった

【成果と課題】

- I 学年、学級懇談会を通して家庭との連携で基本的な生活習慣の育成が図れた。
- II メーリングサービスや各便りによる共有化は図れたがホームページの更新が今後の課題である。

沼間中学校

【目標】

- I 各種おたより、保護者会等で家庭での基本的な生活習慣を依頼する情報発信していく
- II 学校生活で睡眠不足等で体調が悪い生徒については、保護者と密に連絡をとりあう
- III 教職員からすすんであいさつをする

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- 基本的な生活習慣の育成については、特別活動や総合的な学習なども活用していけるとよい。

② 豊かな心を育む道徳教育の推進

【 目 標 】

小・中学生のいじめや自殺等の問題が大きく伝えられている現在、学校だけにとどまらず、社会や家庭生活において、人を思いやり、相手の立場に立って考えることが求められています。目上の人を敬い、自分より弱い立場にいる人を大切にする心を育てるとともに、集団としての規範意識を高めることが大切です。また、集団の一員としての自覚を養うために、忍耐力や協調性などの社会性を身に付けさせることも大切です。

学校では道徳教育の重要性を教職員間で共通理解し、教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うように努めることが重要です。特に、道徳教育の要となる道徳の時間においては、他の学習活動と連携を図りながら、計画的・発展的な指導によって、道徳的実践力を高めていくように取り組みを進めます。

「いのち」を大切にする心、人を思いやる心、規範意識を持たせることなど、児童・生徒一人ひとりの豊かな心を育むために、学校・家庭・地域と連携を密に図りながら、心に響く教育を進めていくことが、より大切になってきています。

各小中学校における平成 25 年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校

【目標】

- I 各教科や総合的な学習の時間、特別活動などと内容の関連を図る
- II 児童会活動を活性化させていく
- III 異年齢集団の交流を推進する

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- I 各学級における道徳の時間や学級生活での道徳的な実践は行われ、成果も上がっている。各教科・特別活動指導における道徳との関連についても配慮できた。
- II 児童会担当教員がよく児童を指導し、縦割り集団やユニセフ募金、マダガスカル小学校支援活動などにも取り組むことができた。
- III 縦割り集団活動の内容充実を図ることができた。

沼間小学校

【目標】

- I 各教科、総合的な学習の時間、外国語活動と連携を図りながら、計画的に道徳教育を進める

- Ⅱ 学校・家庭・地域が一体となったあいさつ運動を推進する
- Ⅲ 学校内の縦割り活動を通して異年齢交流を進める

【評価】

- Ⅰ 達成した
- Ⅱ 達成した
- Ⅲ 達成した

【成果と課題】

- Ⅰ 道徳教育への関心も高いが、教職員全員が適切な指導を進めていくために研修等を進め、共通理解を促したい。
- Ⅱ あいさつ運動は校内での指導が反映されているが、定着するまでには至っていない。継続指導が望まれる。

久木小学校

【目標】

- Ⅰ 道徳教育全体計画に基づき、他の学習活動と関連させながら計画的・発展的な指導を行う
- Ⅱ 日常のあいさつを心掛けたり、コミュニケーションを深めたりする取り組みを行う

【評価】

- Ⅰ 達成した
- Ⅱ 達成できなかった

【成果と課題】

- Ⅰ 道徳教育の全体計画に基づき、日常化を目指す取り組みが進んだ。
- Ⅱ 朝会、学級指導等を通して取り組んだ。日常化を図るべく、保護者・地域の協力を得ながら継続していきたい。

小坪小学校

【目標】

- Ⅰ 道徳の時間を要として様々な学習活動の中で、発達段階に応じた人権意識の育成に取り組む
- Ⅱ 異年齢集団の活動を通して、規範意識の向上を図り互いに思いやる心情や、奉仕的な心情を養う

【評価】

- Ⅰ 達成した
- Ⅱ 達成した

【成果と課題】

- Ⅰ 道徳の時間を要として人権に関わる指導を意図的に進めてきたが、教育活動全体に関わる必要があるので、今後さらなる充実を目指していく。
- Ⅱ 全校で「たてわり班」を構成し年間をとおして「たてわり活動」に取り組み、成果を上げた。

池子小学校

【目標】

- I 道徳の授業を要として、様々な学習活動の中にも道徳的な内容を積極的に取り入れることで、道徳教育の充実を図る
- II 各種体験活動の充実を図り、その活動を通じた心に響く道徳教育を実践する

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 各教科と道徳との関連が示されるように担任が働きかけ、道徳の授業だけでなく、様々な学習の場面の中で、道徳的価値を見なおすように努めた。
- II 様々な体験の中で、心に響き生活に活かされる授業の充実を図っていく。

逗子中学校

【目標】

- I 道徳の時間における指導と、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育との連動
- II 全校道徳等、道徳の時間の新たな手法についての検討（全校道徳年間3回以上実施）
- III 地域人材活用の授業実践（年間2回以上）

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- I 学習情報で連携を図っている。今後、一覧表を作成する。
- II 年間3回の全校道徳を実施した。
- III 全校道徳で地域人材を活用した。

久木中学校

【目標】

- I 道徳教育の重要性を共通理解し全ての教育活動を通じて道徳性を養う
- II 発達段階に応じた指導内容の重点化を行い、道徳教育推進教師を中心に全教師が全教育活動の中で協力して道徳教育を推進し、規範意識の向上に努める
- III 学校が保護者・地域の協力を得ることにより地域社会や家庭において、相手の立場に立って考え、人を思いやれる心を育てる

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

Ⅲ 達成した

【成果と課題】

- I 学校生活の流れの中で教科を絡めて取り組むことができた。
- Ⅱ 各学年毎に年齢に合わせて3年間の見通しを持って取り組みを行った。
- Ⅲ 学年に応じて地域講師を呼び、生徒の興味関心を持てるように取り組んだ。

沼間中学校

【目標】

- I 行事や体験学習の関連を利用しねらいの深化が可能な、道徳教育カリキュラム及び教材の情報共有を図る
- Ⅱ 地域講師や地域機関等との連携を利用した授業や体験学習の情報共有をしていく

【評価】

- I 達成した
- Ⅱ 達成した

【成果と課題】

- I 道徳教育カリキュラム及び教材の情報共有を図る。
- Ⅱ 地域講師や地域機関等との連携を利用した授業は、計画的に実施し研究することができた。

③ 豊かな体験活動の推進

【 目 標 】

少子化や地域社会における人間関係の希薄化などが進む中で、子どもたちの豊かな成長に欠かすことのできない、多くの人々との出会いや触れ合い、社会・自然・芸術などと直接ふれ合う体験が乏しくなっています。様々な体験活動を通して、人や社会等とのつながりを自覚し、他者への関心や愛着、思いやりや信頼感を高めるようにすることが大切です。

体験活動は文字どおり、自分の身体・五感を通して実際に経験する活動のことです。子どもたちが、学校・家庭・地域社会を含めた生活空間の中で、他者、社会、自然、環境と直接的なかかわりを持ち、豊かな体験を重ねていくことが必要です。そして子どもたちが自分自身の体験の中から課題を見つけ、その課題解決に向けて自主的に取り組んでいけるように、体験活動を計画的に位置付け、その充実を図ることが大切です。

各小中学校における平成 25 年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校

【目標】

- I 優れた芸術体験事業など芸術鑑賞事業を進める
- II 校内に作品等を展示し、文化的要素を高めた掲示を行う
- III 宿泊行事などを通じて児童の人間関係を深める

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- I 文化庁巡回体験事業や市のアウトリーチ事業などに応募し芸術体験行った。また学年独自で邦楽鑑賞なども行ってきた。
- II 職員室前の廊下や階段等に、児童の作品や地域の方々の作品を展示した。
- III 高学年で行った宿泊行事は児童間の人間関係を深めるなどの成果を上げた。

沼間小学校

【目標】

- I 逗子の豊かな自然にふれ、自然の大切さを学ぶ自然体験学習を進める
- II 集団宿泊体験を通して、互いのつながりを自覚し、他者への関心や愛着、思いやりや信頼感を高める機会とする
- III 校内において芸術鑑賞会を開催する

【評価】

- I 達成した

Ⅱ 達成した

Ⅲ 達成した

【成果と課題】

○ 各学年とも意図的な取り組みを進め、豊かな体験活動が展開されている。

久木小学校

【目標】

Ⅰ 稲作り、大豆づくり等、地域と連携した体験活動を行う

Ⅱ キャンプ、修学旅行の取り組みを通し、自然・文化にふれあう体験を行う

【評価】

Ⅰ 達成した

Ⅱ 達成した

【成果と課題】

Ⅰ 学習支援ボランティアを活用し、体験学習に取り組んだ。稲作、大豆づくり、味噌作りは、久木小の体験学習として位置づいている。継続的な取り組みを大切にしていきたい。

Ⅱ 計画通り実施することができた。特別活動の改善点である「よりよい人間関係を築く力」「本物の自然や文化の価値や大切さを実感する機会」を意識し、一層の活動の充実を図りたい。

小坪小学校

【目標】

Ⅰ たてわり集団を組織し、学校行事の中で活用していく

Ⅱ 学校行事・児童会行事を通して育てたい力を明確にし、内容の充実を図る

【評価】

Ⅰ 達成した

Ⅱ 達成した

【成果と課題】

Ⅰ たてわり班を活用し、運動会、遠足等の学校行事を企画することができ、リーダーシップとフォロワーシップの育成に取り組んだ。

Ⅱ 学校評価の充実を目指す中で、学校行事での「つけたい力」を学校全体で共通理解するように努めた。

池子小学校

【目標】

Ⅰ 地域の特性を生かした体験活動（自然体験、福祉体験、勤労体験、遊び体験等）を通して、社会性や協調性を育成する

Ⅱ 社会見学・校外学習・宿泊行事・異学年との交流行事などを通して、集団生活のマナ

ーや責任感を育むとともに、思いやりや信頼関係を育成する

【評価】

I 達成した

II 達成した

【成果と課題】

I 地域の教育力を活用し、社会性や協調性を育成することができた。

II ふれあい遠足・ふれあい集会・たてわり活動などを通して異学年が交流しお互いに思いやり、信頼関係を育成することができた。

逗子中学校

【目標】

○ キャリア教育・市民性教育を柱として、総合的な学習の時間や特別活動を中心に、地域に根ざした体験活動の実施

- ・現代的な教育課題
- ・学校行事の縦割りブロック活動
- ・自然体験活動
- ・職業体験
- ・修学旅行

【評価】

○ 達成した

【成果と課題】

○ 次年度3年生が、市への提言を行う予定。

久木中学校

【目標】

I 行事を通じた生徒会活動や、総合的な学習の時間における体験的学習を進める

II 地域との連携による社会奉仕活動やボランティア活動の体験的な学習を積極的に進め社会性や協調性を育てる

【評価】

I 達成した

II 達成した

【成果と課題】

I 学年行事や生徒会地域行事を通じて進めることができた。

II 職業体験学習・進路学習に加えて地域清掃等での協力を得ることができた。

沼間中学校【目標】

I 自然体験学習、修学旅行がより有効な課題解決学習の場となるように深化を図る

- Ⅱ 職場体験の2日間を継続し、これまで以上にキャリア教育のねらいの深化が可能なよう工夫・改善する

【評価】

- I 達成した
- Ⅱ 達成した

【成果と課題】

- I 課題解決学習の場として取り組み、まとめ学習の形態を工夫した。
- Ⅱ 職場体験学習の定着をはかりキャリア教育のねらいにせまるよう工夫改善することができた。

④ 食育と体力づくり・健康教育の推進

【 目 標 】

社会状況の変化に伴い、子どもたちの健康を取り巻く問題が顕在化してきています。基本的な生活習慣の問題・心の健康の問題・食習慣の問題・飲酒や喫煙、薬物乱用などの問題・性に関する情報の氾濫・運動能力の低下など、様々な課題に対して、学校は家庭や地域と連携した教育を推進することが必要です。

学校においては、食に関する正しい知識と望ましい食生活・食習慣を身につけるための食育指導、体力づくり、及び心身の成長発達について正しく理解させるための取り組みを推進していく必要があります。これらの教育を、子どもたちの発達段階に合わせて進めていく中で、各課題に対する指導の充実を図り、子どもたちが生涯を通じて心身の健康を維持した生活が送れるよう、そのための知識・実践力を身に付けられるようにしていくことが大切です。

各小中学校における平成 25 年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校

【目標】

- I 保健便り等を発行して健康について積極的に啓発していく
- II 健康教育の全体計画に従い健康教育について学校として推進していく
- III 早寝・早起き・朝ご飯等、家庭生活の充実について保護者に働きかけていく

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- I 養護教諭や担任を中心に、学校として取り組むことができた。
- II 運動能力の測定等を行い、児童の実態を把握することができた。
- III 栄養教諭配置となり、学年ごとの食育授業やサマースクール講座なども開催して、保護者とも連携し進めることができた。

沼間小学校

【目標】

- I 健康教育を学校全体で推進する
- II 食の指導に関する年間指導計画に基づいて食育を実施する
- III 薬物乱用防止教育や安全教育を推進する

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- 各学年とも意図的な取り組みを進めていることから、成果が感じられる。

久木小学校

【目標】

- I 保健安全年間計画、給食指導年間計画等に基づいた指導を進める
- II 校庭芝生化に取り組み、子どもの体力向上について検討を進める

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 計画通りに実施することができた。
- II 芝を植えることで土壌の改良が進み、水はけが良くなっている。芝の管理は、地域の教育力を活用し、保護者・地域を中心に対応を図ることができた。年間を通した芝の定着を目めざしたい。

小坪小学校

【目標】

- I 食に対する正しい知識と望ましい食生活・食習慣を身に付けるための食育指導に計画的に取り組む
- II 発達段階に応じた禁煙・薬物・性教育等の健康教育を推進し、家庭へも情報発信する

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 各教科の指導内容から食育に関するものを洗い出し、意図的に取り組むことはできたが、学年ごとの段階等まだ、今後さらなる充実が必要である。
- II 養護教諭を中心に発達段階に応じた健康教育を推進することができた。

池子小学校

【目標】

- I 食育に関する全体計画に基づき、食教育を計画的に推進する
- II 健康教育について、児童の体力や健康状態を把握し、教職員間で共通理解を図るとともに、家庭や関係行政機関等との連携しながら計画的に推進していく

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 食育に関する全体計画に基づき、栄養士による食育の授業や、給食指導を計画的に行

うことができた。今後も各学年と連携をとり継続して実施していく。

- Ⅱ 児童の発達段階に応じた健康教育を様々な場面を通じて実践することができた。今後も教職員間の共通理解をはかりながら実践を継続していく。

逗子中学校

【目標】

- I 体力づくり、健康教育を授業や行事の中で実践、充実
 - ・体育授業のチームティーチング（教員3名による指導）
 - ・ラジオ体操
 - ・マラソン大会
- Ⅱ 地域やPTAと連携した食育の推進

【評価】

- I 達成した
- Ⅱ 達成できなかった

【成果と課題】

- I 三つの具体例をすべて取り組んだ。
- Ⅱ 1・2年生の技術家庭科で食育の授業を行ったが、PTAを巻き込むには至っていない。

久木中学校

【目標】

- I 食育の推進のために特別委員会を設置し、従来より行っている各教科の学習に基づき久木中学校としての食教育について指導方針を明確にし健康・体力作り等の発達段階に応じた推進をする
- Ⅱ 飲酒・喫煙、薬物乱用に関する問題など家庭と学校との連携を基にして外部機関等と連携して健康教育を積極的に進める
- Ⅲ 性教育について発達段階を踏まえた正しい指導を進める

【評価】

- I 達成した
- Ⅱ 達成した
- Ⅲ 達成した

【成果と課題】

- I 全体計画に基づいて取り組み推進ができた。
- Ⅱ 外部機関との協力連携により推進することができた。
- Ⅲ 全体計画に基づいて取り組み推進ができた。

沼間中学校

【目標】

- I 薬物乱用・喫煙防止等、発達段階に応じて学習させることと並行して、普段の食生活についてよりよく改善しようとする意識を持たせる
- II 部活動や家庭でのスポーツ体験に対しての意欲を喚起し、自らの健康管理が大切な能力であることを知らせていく

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 体育科としては授業で適切に扱い、普段の食生活については保健委員会などとタイアップし行えた。
- II 部活動において部活協議会を通じ、それぞれの部活動における意欲を喚起できた。自らの健康管理は保健体育科とし、適切に指導をおこなった。

〈教育委員会分析結果〉

1 平成25年度に教育委員会が実施した主な「●事業」と学校への「▲指導内容」

(1) 主な事業

- 就学時健康診断業務委託
- 児童健康管理事業（小学校）
- 生徒健康管理事業（中学校）
- 自然教室推進事業
- 学校支援地域本部事業（学校支援ボランティア 7,985人）
- 授業研究を柱とした特色ある学校づくり
- 芸術鑑賞推進事業
- 学校体育振興事業

(2) 主な指導内容

- ▲道徳教育全体計画作成
- ▲特別活動全体計画作成
- ▲食育に関する教育全体計画作成
- ▲健康教育に係る各種研修会の実施
- ▲学校支援地域本部実行委員会の開催

2 各学校の自己評価を総合した市立全校の実践評価と主な成果等

(1) 市立全校の実践評価（項目別達成率 94.6%）

(2) 主な成果等

【基本的な生活習慣の育成】

- ・基本的な生活習慣を育成するためには、家庭や地域との連携が不可欠なので、家庭や地域との連携に向けての情報発信を積極的に行った。規則正しい生活習慣の大切さを啓発する等一定の成果が見られたが、今後とも、生活習慣改善のための努力を続ける必要がある。

【豊かな心を育む道徳教育の推進】

- ・各教科・特別活動等における関連について配慮し、各学級における道徳の時間や学級生活での道徳的な実践が行われ成果も上がった。
- ・地域人材を活用した全校道徳を行った。
- ・異学年集団とのふれあい活動等、集団として及び集団の一員としての行動の在り方を育てる取り組みが活性化してきている。

【豊かな体験活動の推進】

- ・小学校では、文化庁芸術体験事業や市のアウトリーチ事業を活用し、優れた芸術鑑賞を体験した。
- ・小学校・中学校全校で友だち同士の共同生活を通して自然にふれあうことをねらいとした自然体験学習を実施した（1泊5校、2泊3校）。

【食育と体力づくり・健康教育の推進】

- ・栄養教諭が市内の小学校を巡回し、2年生を対象に食育の授業を行った。
- ・健康について積極的に啓発するために、養護教諭や学級担任が各種便り等を発行し、疾病やケガの予防に努めた。
- ・喫煙防止、薬物乱用防止等について、関係機関と連携した取り組みが定着している。

3 教育委員会の自己評価と主な成果等

(1) 教育委員会の自己評価 【A】

コメント 学校支援地域本部を軸にした家庭・地域との連携は、各本部の実情に合わせ定着が見られている。今後も多様化する社会の中で生じてくる新たな課題に常に対応できるように、関係諸機関と連携した取り組みを広げつつ、家庭や地域との連携を一層強化した取り組みを継続する必要がある。

(2) 主な成果等

【基本的な生活習慣の育成】

- ・「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」の結果分析から分かる本市の児童・生徒の生活習慣に係る特徴を踏まえての取り組みを進める必要がある。
- ・家庭や地域への啓発と連携、及び小・中学校の連携により、9年間を見通しての習慣づけを進める必要がある。
- ・「生活習慣と学力・気力・体力・健康」という演題で、市内の教員と保護者・地域対象の教育講演会を開催し、生活習慣と体力・健康等との関わりを啓発した。

【豊かな心を育む道徳教育の推進】

- ・各学校が推進できるよう必要な情報等を提供した。

【豊かな体験活動の推進】

- ・今以上に効果的な活動となるよう、各学年の体験学習のねらい、時期や期間の見直しを図り、特別活動全体計画の中でのそれぞれの活動の位置付けを確認する必要がある。

【食育と体力づくり・健康教育の推進】

- ・食育推進ネットワーク会議を行い、栄養教諭を中核に各学校と連携を図りながら食育に取り組んだ。

4 平成 26 年度に向けて必要とされる主な事業及び指導内容

【基本的な生活習慣の育成】

- ・基本的な生活習慣を育成するために、家庭や地域への啓発と連携を強化する必要がある。

【豊かな心を育む道徳教育の推進】

- ・児童・生徒の社会性育成につながる異年齢交流を進める。
- ・地域の人材を活用するよう支援していくため、学校支援地域本部事業の活性化を図る必要がある。

【豊かな体験活動の推進】

- ・「総合的な学習の時間」における体験活動の在り方を探る。
- ・地域の人材を活用するよう支援していくため、学校支援地域本部事業の活性化を図る必要がある。

【食育と体力づくり・健康教育の推進】

- ・食育と健康教育の推進のため、栄養教諭の活用の仕方を探る。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉〈久保田 貢 氏〉

子どもたちの学ぶ意欲や学習習慣の低下、規範意識の希薄化や社会性やコミュニケーション能力の不足等が指摘されている今日、基本的な生活習慣の育成や心の教育の充実をいかに進めていくか、学校や家庭、地域社会の基本的な姿勢がますます求められている。各学校共に、保護者、子ども、地域の実情に即して様々な取り組みを展開し、一定の成果をあげていることが伺える。今後とも、学校、家庭、地域社会の果たすべき役割を明確にし、幼少期から継続的な指導が必要である。

健康教育については、食育、安全教育、喫煙防止教育、薬物防止教育、性教育、体力づくり等を重点課題とし、学年の発達段階や子どもの実情に合わせて力点を定め指導の充実を図っていることが伺える。今後とも継続的な指導の充実を図る必要がある。特に、性情報が氾濫し、子どもの性被害が増えている現状を踏まえ、保護者、関係諸機関と連携し、低学年から情報教育の指導の充実を図ると共に性教育や薬物防止教育の充実にも努め、犯罪から身を守る指導の徹底を期待する。

道徳教育の取り組みについては、学校によって多少の差異はあるが、各学校共に道徳教育全体計画の充実を図ると共に、道徳の時間における教材・資料の整備と活用の充実を図っていることが伺える。また、地域の教育力を生かした道徳の時間にも力を入れていることが伺える。今後とも、全教育活動を通して、より充実した道徳教育の推進に努め、心身共に豊かな子どもの育成に努めることを期待する。

体験活動は、子どもの「生きる力」を育む上で重要な要素である。体験活動を通して、子どもに何が育ってほしいのか、また、身についたものをどう生かして欲しいのかを明確にして、全教育活動の中で展開することが大切である。ややもすると、イベントで終わってしまい、その場限りの体験活動になることもある。言語活動を含めてカリキュラムに意図的・計画的に位置付け、目的を明確にして実施することが大切である。

今、幼・小・中学生の虐待や性犯罪被害、いじめや不登校更には自殺等が問題視されている。これらは、大人社会のモラルの低下や家庭の教育力の低下が招いた事象といっても過言ではない。学校には「いのち」を大切にする心や相手を思いやる心や規範意識の高揚など社会性の育成を目指した教育がますます求められてきている。学校は、すべてにこたえる努力はしつつも、「できること・できないこと」を明確にし、家庭、地域社会の果たすべき役割を明確に発信し、三者が連携して、心身共に豊かな子どもの育成に努めることが必要である。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉 〈福田 幸男 氏〉

「基本的な生活習慣の育成」

ともすれば、「学力の向上」に関心が偏る中で、心身の健康に関する取り組みにもしっかりと向き合う必要がある。その取り組みの一つとしての「基本的な生活習慣の育成」は、学校のみならず、家庭や地域との緊密な連携が不可欠である。そのためには、学校からの情報発信と、常日頃からの連携協力が欠かせない要件となる。一連の取り組みについては、「全国学力・学習状況調査」や、「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」の結果等に基づく経年的な変化を参考にしてさらに改善を進めてもらいたい。

「豊かな心を育む道徳教育の推進」

「生きる力」の三要素の一つである、「豊かな心」を育むための道徳教育の着実な推進が認められる。各教科や総合的な学習の時間との連携を図りながら、かつ体験活動の充実を図りながら、計画的に道徳教育が進めてきていることを評価する。その成果が、教室の内外で、日々の生活の中で、実を結ぶことを期待する。

「豊かな体験活動の推進」

ともすれば希薄となりつつある多くの人々との出会いや触れ合い、本物の自然・芸術との出会い体験するためのプログラムが実施され、成果を上げてきている。今後、学校種や学年差に配慮しながらも、9年間を見通した、「逗子の体験活動」を提案していただきたい。中学校にあっては、キャリア教育を意識した取り組みが認められる。その活動の進展に注目したい。

「食育と体力づくり・健康教育の推進」

学校、教育委員会が一体となって健康教育の推進に取り組んでいることを評価する。養護教諭、栄養教諭の専門性を十分に活用しながら、日常的な取り組みを着実に実施することが成果につながると考える。その成果が自校のみならず、学区内の小中連携、さらには全市的な取り組みへと発展することを期待する。

一方で、家庭への情報発信、連携協力も必要である。特に食育に関して、家庭の協力は不可欠である。児童・生徒の発達段階を踏まえながら、小中の9年間を一貫する逗子の健康教育となることを期待する。薬物乱用防止教育、安全教育については全市を挙げた積極的な取り組みとなることを期待する。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり

<目 標>

学校は今、様々な教育課題への対応を求められており、本市では迅速で的確な対応を目指します。また、教育は学校のみで完結するものではなく登下校の安全面なども含め、家庭・地域との連携や協働参画することによってさらに充実が図られます。

1 多様な教育的課題への対応

① 学校安全の推進

【 目 標 】

現在必要とされている教育環境として、子どもたちが安全・安心な質の高い空間で学び、生活できるということが求められています。

防災・防犯・不審者対応では、学校や通学路等において子どもたちが安全に過ごせるよう、学校と地域のボランティアや関係機関との連携により地域ぐるみで子どもたちの環境を整備する必要があります。

また、防災・安全教育を推進し、児童・生徒が現在や将来において自他のいのちを守るために、的確な思考・判断に基づく適切な意思決定や行動選択ができる能力の育成に努めます。

さらに、子どもたちの安全・安心を確保し、質の高い教育環境を整備できるよう、放課後や週末に子どもたちが体験・交流活動をするための場づくりを進められるよう取り組みを進めます。

各小中学校における平成 25 年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校

【目標】

- I 学校、PTA校外委員会、外部関係諸機関との連携の充実を図る
- II 安全点検、危険箇所の修理などの早期対応を図る
- III 大規模地震・大規模津波を視野に入れた総合的な防災計画を作成する

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- I・II PTA校外委員と連携し、危険箇所の点検をし、改善要望を市等にあげた。また、

関係機関との合同点検を実施できた。

Ⅲ 防災アドバイザーの助言のもと津波避難の在り方を検討し具体化させた。

沼間小学校

【目標】

- I 学校防災計画に基づいた安全体制の整備
- II 教職員、保護者による通学路の点検
- III 自分の命は自分で守ることができるように安全への啓発活動を実施

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- 防災アドバイザーを活用して安全教育の評価を進め、より良い計画案ができています。

久木小学校

【目標】

- I 防犯教室、不審者対応訓練を行い、子どもたち、教職員の防犯意識を高める
- II P T A, 地域パトロール体制と連携し、子どもの安全確保に取り組む
- III 防災アドバイザーによる地域の状況確認と防災・減災の在り方について検討を進める

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

成果と課題

- I 年間計画通り訓練等を実施した。継続的指導により防犯意識を高めた。
- II 地域と連携した取り組みは継続している。P T A 予算から学校用備蓄品（水、ビスケットなど）を購入し、教室棟屋上入口に保管することができた。
- III 防災アドバイザーを活用し、防災体制の見直しを図った。それにより、震度5弱以上（津波警報）の際の避難について確認することができた。引き続き、防災体制について研究・検討及び整備を図っていきたい。

小坪小学校

【目標】

- I 児童自らが体験を通して危険予測・危険回避の能力を培うため、安全教育を計画的に実施する
- II 児童の安全な学校生活の確保と緊急避難所としての機能向上のため、環境整備に努める

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 訓練だけに終わらない防災教育のあり方を意識し日々の教育活動の中に位置づけてきた。
- II P T Aと連携し、避難路の整備、非常食の備蓄に取り組んだ。

池子小学校

【目標】

- I 児童自らの危機予測・危機回避能力の育成を目指し、安全教育を計画的に実施し、日々の教育活動の中で意図的に取り組む
- II 交通安全教室・誘拐防止教室・自転車教室・安心安全教室実施し、地域と連携し、児童の安全に対する意識の向上を図る

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 防災・安全指導年間計画に基づき、避難訓練や道徳活動の中で危機予測・危機回避能力を培う指導を行ってきた。さらに、様々な場面を想定した避難訓練を実施し、実際の行動に結びつけるようにしていきたい。
- II 警察等の外部機関と連携し、安全教室等を開催した。また、教職員の研修も行い安全に関する意識を向上することができた・今後も継続して実施していきたい。

逗子中学校

【目標】

- I C A P（子どもへの暴力防止プログラム）等を活用した不審者対策、安全教育の充実と逗子中学校防災計画の見直し
- II 大地震・津波を想定した避難訓練・災害時伝言ダイヤル訓練等の充実
- III 地域と連携した防災訓練における、中学生が主体的に活動する場面設定

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- I C A P（子どもへの暴力防止プログラム）以外にも県警の安全教育を実施し、本校の

防災計画も見直した。

- Ⅱ 年間3回の避難訓練、年間3回の災害時伝言ダイヤル訓練を実施した。
- Ⅲ 池子小学校で行った「避難所運営訓練」に中学生がボランティアとして参加した。

久木中学校

【目標】

- Ⅰ CAP（子どもへの暴力防止プログラム）をはじめとする安全教育や防犯教室などに
加え携帯電話、PCに関する新たな課題に関して積極的に取り組んでいく
- Ⅱ 学校防災計画を見直し、市の防災マニュアルに連携できるよう取り組んでいく
- Ⅲ 校内の防災訓練を計画的に実施し、地域避難所訓練や地域機関との連携を深める

【評価】

- Ⅰ 達成した
- Ⅱ 達成した
- Ⅲ 達成した

【成果と課題】

- Ⅰ 年間計画に基づいて各教室を実施した。
- Ⅱ 市防災計画に基づき見直しを進めた。
- Ⅲ 地域保育園等や市地域防災訓練と連携した訓練を行う事ができた。

沼間中学校

【目標】

- Ⅰ 防災アドバイザー、逗子警察等の連携の下に、事故防止及び安全点検、危険箇所の除去を定期的・継続的に行う
- Ⅱ 沼間小学校区避難所運営委員会との連携下、生徒が自らの命を守ろうとする危機管理意識の向上を図る

【評価】

- Ⅰ 達成した
- Ⅱ 達成した

【成果と課題】

- Ⅰ 生徒の手による防災マップの取り組みをおこなうことができた。
- Ⅱ 継続的に実施したい。

② 問題行動等への対応の推進

【 目 標 】

都市化や少子化、情報化などが進展し、社会全体で様々な課題がある昨今、子どもたちの問題行動等が生じています。その背景には、規範意識や論理性の低下が関係しているとも指摘されています。このような社会情勢の中で、学校は一人ひとりの子どもの人格を尊重し、個性の伸張を図りながら、子ども自ら現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指します。

いじめや不登校、器物破損や暴力行為等はその子にも、どの学校にも起こり得るものであることを十分認識し、地域・保護者とともにもその未然防止や早期発見・早期対応への取り組みが、今各学校において求められています。さらに、いじめについては、学校は毅然とした態度で「いじめは許されない、いじめる側が悪い」ということを明らかにして、子どもの立場にたって、親身に、適切な指導を行う必要があります。

また、不登校児童・生徒など支援を必要としているすべての子どもたち一人ひとりの教育的ニーズを把握し、学校を中心とした総合的な支援体制の確立が望まれています。学校では子どもたちの心の問題に迅速に対応できるよう相談体制を充実させるとともに、校内の支援体制の充実と外部の専門機関との連携を図り、協働することが大切です。

各小中学校における平成 25 年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校

【目標】

- I 差別やいじめを許さない学級づくりを行う
- II 教育相談コーディネーターを中心とする組織的な対応をはかる
- III 外部専門機関との連携を密にしていく

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- I 毎月の校務分掌会議や職員会議の中で確認し合った。
- II 支援教育の推進と同様に考えている。
- III 支援教育の推進と同様に考えている。

沼間小学校

【目標】

- I 問題行動への組織的対応を図る
- II 定期的な実態把握に努めるとともに、早期発見・早期対応を進める

Ⅲ 教育ニーズの把握に努め、総合的な支援体制の確立を図る

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- 児童指導に関わる一次支援として、各学級とも学級を開き、スクールカウンセラーや巡回指導員を積極的に受け入れて問題行動への対応を進めていることから、未然防止・早期対応が進められている。

久木小学校

【目標】

- I 「久木小学校いじめ防止基本方針」に基づいた指導の充実を図る
- II 教育相談コーディネーターを中心とした支援体制の充実を図り、子どもや保護者のニーズに具体的支援が行えるよう努めていく
- III 外部機関やスクールカウンセラー、巡回指導員等との連携を深める

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- I 基本方針に基づいた指導を実践した。
- II ケース会議等を踏まえ、課題を抱える児童（保護者）への対応を進めることができた。校内での共通理解も進んだ。
- III 巡回相談員、スクールカウンセラー等を活用し、児童支援を進めることができた。今後も一層の連携を図りたい。

小坪小学校

【目標】

- I 教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制を確立するとともに、様々な場面をとらえ、児童の規範意識や温かい人間関係作りを推進する
- II 児童理解を深めるための研修を実施し、問題行動への対応について、教職員の共通理解を図る

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 朝会や学級指導を通して、ルールの大切さを指導し、規範意識の醸成に努めた。
- II 児童指導に関する研修を年間を通して実施し、児童の様々なニーズへの対応力の向上に努めた。

池子小学校

【目標】

- I 教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制を確立し、スクールカウンセラー・巡回指導員・うるおいフレンド等を活用しながら組織的対応を図る
- II 個人情報の保護に配慮しつつ、幼稚園・保育園や中学校との連携を深め、支援に役立っている

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I スクールカウンセラーや巡回指導員、うるおいフレンド、外部機関等と連携し早急・適切に対応ができた。
- II 幼稚園や保育園との連携を深め、入学予定の支援体制の充実に努めた。また、中学校とも連携を強化し、入学後の支援に役立つようにした。

逗子中学校

【目標】

- I スクールカウンセラー、うるおいフレンド（心の教室相談員）、学習支援員の効果的な活用と、継続的な校内相談体制の再検討
- II いじめ・不登校への予防的な相談の実施と研究所等他機関との密な連携

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 教育相談コーディネーターを中心に、人材の活用と情報の共有化を推進した。
- II 研究所にお願いして「構成的グループエンカウンター」の手法による学級づくり、研究所スーパーバイザーによる研修会を実施した。

久木中学校

【目標】

- I 生徒指導を充実させ、生徒の規範意識や温かい人間関係づくりを高め、全教職員が意図的・組織的に教育活動を進める
- II 生徒指導担当・教育相談コーディネーターが中心となって管理職・全職員が連携を取りながら組織的な指導体制を確立し対応していく

Ⅲ 関係諸機関との連携を密に図り生徒一人ひとりの課題に応じた支援を行う

【評価】

I 達成した

Ⅱ 達成した

Ⅲ 達成した

【成果と課題】

I・Ⅱ 支援教育委員会を中心に学校全体での取り組みを行い生徒・職員の意識の向上を図れた。

Ⅲ 地域諸機関との連絡連携を計画的に取り問題解決を図ることができた。

沼間中学校

【目標】

I 共生社会に向けて生徒が互いの困り感を認め合い助け合える温かい学級づくりに努める

Ⅱ 道徳の時間や生徒会活動を通して、規範意識を培い生徒自らがいじめを許さない集団を作っていけるよう指導していく

【評価】

I 達成した

Ⅱ 達成した

【成果と課題】

I 生徒会活動を通して規範意識を高める指導は課題である。

Ⅱ 教員だけでなく社会福祉協議会などの関係団体にも協力してもらう。

③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進

【目標】

幼稚園・保育園から小学校に入学した子どもたちが、新しい環境になじめなかったり、授業中に立ち歩いたり騒いだりする問題を「小1プロブレム」といいます。

同様に、中学に入学した際に生じる問題を「中1ギャップ」といい、近年大きな問題となってきました。

これらの問題を解決し、子どもたちが希望に満ちた学校生活を送れるよう支援していく必要があります。

そのためには、幼稚園・保育園と小学校の連携、さらに小学校と中学校の連携を図り、子どもや保護者が、学びや生活が連続していると安心できるように、相互の教育活動を理解し、協力していくことが大切です。

各小中学校における平成 25 年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校

【目標】

- I 幼稚園・保育園との情報交換を密にしていく
- II 幼稚園・保育園との交歓行事を実施していく
- III 中学校との交流行事を検討する

【評価】

- I 達成した
- II 達成できなかった
- III 達成した

【成果と課題】

- I 就学予定園児について、幼稚園・保育園と連携ができた。
- II 次年度就学予定の園児との交流を行い高い評価を頂いているが、こちらから出かけていく交歓行事は行えていない。
- III 職業体験事業で中学生を受け入れ、外国語活動の授業では中学の英語教員の指導を受け、一部部活動の見学を行うなど、交流を進めることができた。

沼間小学校

【目標】

- I 担当者が年間計画を立てて進める
- II 小中9年間の学びの連続性に向けて情報交流を進める
- III 幼・保との連携では授業交流や行事での子ども同士の交流を推進する

【評価】

- I 達成した

Ⅱ 達成した

Ⅲ 達成した

【成果と課題】

- 幼・保・小・中連携の意義は浸透し、継続し取り組みとなっている。今後は組織的な分掌として統合整理する方向で進めている。

久木小学校

【目標】

- I 小・中の連携を目指し、協議しながら取り組みを進める
- Ⅱ 幼稚園・保育園と連携した、支援教育に取り組む

【評価】

- I 達成した
- Ⅱ 達成した

【成果と課題】

- I 中学校教諭による6年各クラスでの授業（算数・外国語・体育）を2月ごろに行ったり、夏休みにバレーボールとバドミントンの部活体験を実施したりした。また、中学校教諭の学校参観による児童理解なども実施することができた。
- Ⅱ 新入学児童を迎える集会を開いたり、各幼稚園・保育園への参観など、職員交流の手立ての充実を図った。

小坪小学校

【目標】

- I 個人情報の保護に十分配慮しつつ、幼保小中の連携を進め、学校生活の安心安全の向上を図る
- Ⅱ 小中連携では、体育や外国語活動、行事等で交流を推進する中で、中1ギャップの解消をめざす

【評価】

- I 達成した
- Ⅱ 達成できなかった

【成果と課題】

- I 学習面からの幼保との連携を深めると同時に、新入学児童に対しては実際に見学する等して実態把握に努め、いわゆる小1プロブレムの回避に努めた。
- Ⅱ 卒業にあたっては着実な引継ぎに努める等したが、日常的な教科での連携は難しかった。

池子小学校

【目標】

- I 幼稚園・保育園と相互の参観等をさらに推進し、課題を共有しつつ個々の役割の明確化を検討する

Ⅱ 9年間を見通したカリキュラム上の連携や児童指導の情報交換を推進する

【評価】

I 達成した

Ⅱ 達成した

【成果と課題】

I 幼・保・小担当者会において、情報交換や公開行事参観などを通して、教育内容等の相互理解と幼児・児童間の交流を推進することができた。今後も継続的な連携をはかりたい。

Ⅱ 中学校の学校訪問や出前授業など連携をはかり、中学校入学に向けて、支援体制の充実に努めた。今後も、継続的な連携をはかっていく。

逗子中学校

【目標】

I 小・中学校間で、教員の授業交流の実施

Ⅱ 小・中学校、9年間を見通した「学び方」のカリキュラム作りの検討

Ⅲ 湘南保育園との連携の模索（職業体験）

【評価】

I 達成した

Ⅱ 達成した

Ⅲ 達成した

【成果と課題】

I 池子小学校で体育教員が、逗子小学校で英語教員が授業を行った。

Ⅱ モデルを提示した。

Ⅲ 湘南保育園をはじめ、沼間愛児園、桜山保育園、双葉保育園、聖マリア幼稚園で職業体験を実施した。

久木中学校

【目標】

I 入学してくる生徒がスムーズに中学校生活のスタートができ、安心して学校生活が送れるよう、子ども一人ひとりの成長を支え、個に応じた指導を進めるため情報の共有と連携を推進する

Ⅱ 小学校と協働して義務教育9年間を見据えたカリキュラムの工夫、授業体験、部活体験などの活動を進める

【評価】

I 達成した

Ⅱ 達成した

【成果と課題】

- I 教育相談コーディネーターを中心に小学校との情報交換を行い中学校の指導に結びつけることができた。
- II 各小学校の研究授業・研究発表などへの参加を積極的に行うことと小学校への出前授業を行う事ができた。

沼間中学校

【目標】

- I 教職員研修等で小中連携を深め、学びの連続性を追及し家庭学習の定着を図っていく
- II 学校間の信頼関係を構築し、9年間の学習や生徒指導を意図的、効果的に行っていく
- III 授業参観等に参加していく

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- 中学校へ授業参観にきてもらうことはできたが小学校の授業参観をすることはなかなか時間調整が難しかった。

④ 国際教育の推進

【 目 標 】

今日、わが国では様々な面で多様な文化との接触や国際化が進展し、国際社会に生きる日本人としての資質の向上が重要な課題となっています。

これからの国際教育は、多様な文化や生活様式を知ることにとどまらず、多様な文化との共生に向けて、多様性を尊重し、多様な価値観を受容したり、ぶつかり融合したりする中、新しい価値観を創造したりすることができる等、国際社会においても自らの力を発揮できる資質や能力を育てることが必要です。

また、自分たちが生活している日本と世界の国々の現状や課題について、自分たちの思いや考えをもち、それらを自ら発信し、かつ多様な文化的背景をもった人々を理解し国際平和の実現に努める態度の育成とコミュニケーション能力の向上に努めます。

各小中学校における平成 25 年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校

【目標】

- I 外国語活動の在り方について職員研修を行う
- II I E A（国際教育指導助手）との連携について検討を進める
- III 評価等について検討を進める

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成できなかった

【成果と課題】

- I・II 校内で研修を進め、また、I E A（国際教育指導助手）とのコミュニケーションも担当が調整しながら、担任を中心とした授業実践を進めている。
- III 各学年で検討をし試行しているが、学校全体としての計画を定めるには至っていない。

沼間小学校

【目標】

- I 外国語活動を生かしコミュニケーション能力の育成を図る
- II 外国語活動ガイドラインに沿った授業の充実を図る
- III I E A（国際教育指導助手）と協力して日常的な交流や教材開発を進める

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

Ⅲ 達成した

【成果と課題】

- 外国語活動の趣旨を理解した授業づくりが進んでいて、I E A（国際教育指導助手）と担任が連携・協力して児童の学ぶ意欲が向上してきている。

久木小学校

【目標】

- I 小学校外国語活動の授業を通し、コミュニケーション能力の育成を図る
- II I E A（国際教育指導助手）の効果的活用を図る

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 逗子市外国語活動ガイドラインに基づいて、外国語活動の実践に取り組んだ。
- II I E A（国際教育指導助手）とのコミュニケーションに努め、より良い指導を考えることができた。課題は、I E A（国際教育指導助手）が毎年替わってしまうことである。

小坪小学校

【目標】

- I 多様な文化を理解するための学習活動を各学年の発達段階に応じて取り入れる
- II I E A（国際教育指導助手）の効果的な活用をはかり、諸外国の文化や歴史・自然等に関心を深めるような取り組みをする

【評価と課題】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I I E A（国際教育指導助手）を活用し、各学年の発達段階に応じた国際教育の推進に努めた。
- II 海外の行事について学習の中に取り入れ、楽しみながら諸外国の文化への理解を深めた。

池子小学校

【目標】

- I 多様な文化に触れる内容の学習活動を各学年の発達段階に応じて取り入れる
- II I E A（国際教育指導助手）の効果的な活用をはかり、諸外国の文化や歴史・自然などに関心を高めるような取り組みをする

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I それぞれの学年の発達段階に応じて、I E A（国際教育指導助手）との協力の下、全学年が国際教育に取り組んだ。
- II I E A（国際教育指導助手）と事前に話し合い、I E A（国際教育指導助手）の出身国の話から、様々な国の文化や特徴について取り上げ、授業づくりをした。

逗子中学校

【目標】

- I 異文化を理解し、多文化と共生するために、地域人材の活用を図りながら、授業や行事を通じた、コミュニケーション能力の育成
- II I E A（国際教育指導助手）の効果的な活用による生徒のコミュニケーション能力の育成及び国際教育の実施

【評価】

- I 達成できなかった
- II 達成した

【成果と課題】

- I 地域人材の活用まで及ばなかった。
- II I E A（国際教育指導助手）を活用し、「日本の学校、オーストラリアの学校」を紹介した。

久木中学校

【目標】

- I 国際社会に生きる日本人としての資質の向上を目指し、学校に派遣されているI E A（国際教育指導助手）を様々な教育活動において積極的な活用を推進する
- II 総合的な学習の時間や特別活動において、外国人留学生や海外の団体等との交流を行い国際社会に生きる子ども達の育成を進める

【評価】

- I 達成した
- II 達成できなかった

【成果と課題】

- I 外国語の学習だけでなくI E A（国際教育指導助手）を活用して外国の生活習慣なども学習した。
- II 対外的団体などを活用して国際教育を図る必要がある。

沼間中学校

【目標】

- I 多様な文化を理解し共生できるよう小学校外国語活動との連携の下に、意識を育てていく

Ⅱ I E A（国際教育指導助手）のより効果的な活用を研究していく

【評価】

I 達成できなかった

Ⅱ 達成した

【成果と課題】

○ 外国語の授業だけでなく I E A（国際教育指導助手）が学校行事などにかかわりをもつことができた。このことを継続したい。

⑤ キャリア教育の推進

【 目 標 】

キャリア教育とは一人ひとりの社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促す教育です。

新学習指導要領における『生きる力』には『社会的・職業的自立、学校から社会・職業への円滑な移行に必要な力』が含まれるとした上で、その力について具体化されている要素を学校生活のあらゆる場面で育てていくことが必要です。

子どもたちそれぞれの発達段階に応じて勤労観や社会性を養い、将来の職業について正しく理解できるよう、学校・家庭・地域など関係機関の協力を得て、キャリア教育を進めていきます。

また、キャリア教育は職業学習だけでなく、将来を見据えた「生き方の教育」であり、子どもの発達に応じたさまざまな生き方の学習に取り組んでいきます。

各小中学校における平成 25 年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校

【目標】

- I 小学校におけるキャリア教育の在り方について職員の研修を行う
- II 2分の1成人式など、生き方を見通した学習等について検討する

【評価】

- I 達成できなかった
- II 達成した

【成果と課題】

- I 一定程度のキャリア教育に係る個別の研修も行い教職員間の共通理解が進んでいるが、校内研修で取り上げて研修を深めるまでには至っていない。
- II 2分の1成人式の取り組みが定着し、児童や保護者にも好評である。

沼間小学校

【目標】

- I 発達段階に応じたキャリア教育を実践する
- II 子どもたちに望ましい職業観、勤労観を育むために各教科や体験学習等を有効に活用する
- III キャリア教育への保護者の理解を促す

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- いろいろな教育活動場面を活用してキャリア教育が進められている。特にゲストティーチャーを招いた授業ではキャリア教育の幅が広がっている。

久木小学校

【目標】

- I 子どもの発達段階に応じたキャリア教育の在り方について研究・実践を図る
- II 教育活動全般を通じて、児童が自尊感情を高め、より良い人間関係を築くことに努める

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 社会科や生活科、総合的な学習の時間等の中で、ゲストティーチャーを招いて実践することができた。
- II 教育活動全般を通し、全職員で全児童を育てる視点を持って指導に当たることができた。日常的な取り組みの継続が必要と感じている。

小坪小学校

【目標】

- I キャリア教育について、研修を実施し、子どもの発達段階に応じて、自己の生き方について考える学習を体験的に取り入れる
- II 総合的な学習の時間の全体計画を見直す

【評価】

- I 達成した
- II 達成できなかった

【成果と課題】

- I 総合的な学習の時間等で自己の生き方について考える取り組みはなされてきたが学校全体での共通理解を図るための研修の設定は今後の課題である。
- II 3～6年の取り組みは全体計画に沿って実践されたが、小規模校の中で、組織的な見直しを図ることは難しかった。

池子小学校

【目標】

- I 子どもの発達段階に応じて、自己の生き方について考える学習を体験活動を通して取り入れる
- II 保護者や地域の協力を得て、調べ学習や体験学習を充実させる

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 4年生での2分の1成人式 6年生のラーメン作り・八景島シーパラダイス飼育員体験・市長との話をとおして自己の生き方や今後の職業選択について考えることができた。
- II 保護者や地域のお店（畳店 豆腐店）の協力を得て調べ学習や体験学習が充実した。

逗子中学校

【目標】

- I 職業体験学習の実施等によりキャリア教育の推進
- II 学校行事・生徒会活動の充実
- III キャリア教育・市民性教育のカリキュラムづくり

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- I 例年通り59箇所以上の事業所の協力で職業体験を実施した。
- II P T A及び学校支援地域本部の協力の下、取り組んだ。
- III 取り組みの2年目ということで、カリキュラム作りを行った。

久木中学校

【目標】

- I 職業の選択を始めとし、自分の将来を見据えた有意義な人生のあり方を自らが体験し学ぶための中学校での指導計画を作成する
- II 地域・保護者・関係諸機関との連携を図り職業についての理解を図り、発達に応じて地域での職業体験を行う

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 3年間を見通した進路指導計画を作成し推進できている。
- II 職業体験学習やキャリア学習会などを地域・保護者を活用して取り組んだ。

沼間中学校

【目標】

- I 1年「将来の夢」、2年「職場体験」、3年「義務教育終了後の進路」と、段階的に

自分の生き方を考えさせる

Ⅱ 職場体験2日間実施し、よりねらいを深化していく

【評価】

I 達成した

Ⅱ 達成した

【成果と課題】

I 学年別に計画的に自分の生き方を考えることができた。

Ⅱ 職場体験は定着し、ねらいにせまることができた。

⑥ 福祉教育の推進

【 目 標 】

私たちの周りには、障がいを持つ方や高齢の方々が多く、ともすると福祉とはそのような方々のために何かをすることと、子どもたちはとらえられがちです。しかし、福祉は特別な人の誰かのためのものという限定されたものではなく、一人ひとりの

「 ふだんの くらしの あわせ 」

を願うものという観点で、福祉教育を進める必要があります。

年齢の違い、障がいの有無にかかわらず、お互いに相手の立場を思いやり、声をかけ合える温かい人間関係をつくり、心を育てる教育を進め、誰もが住みやすい社会をつくる担い手を育成していくことが、これからの社会において大切です。

各小中学校における平成 25 年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校

【目標】

- I 地域講師やボランティアを活用し、福祉教育の実践を行う
- II 児童の生活に根ざした福祉教育について検討する

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 外部講師を活用し実施した。
- II 福祉教育担当者会で確認されている「ふつうの・くらしの・しあわせを」を踏まえて実践を進めた。

沼間小学校

【目標】

- I 日常的に人を思いやる教育から始める
- II 外部人材を活用したりして、指導方法の工夫改善を図る
- III 社会福祉協議会と連携し、体験的な学習活動を推進する

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成できなかった

【成果と課題】

- 信頼に基づく指導を大切に取り組んでいることから、学級運営では人を思いやる教育が基本となっている。福祉学習における体験的な学習についても工夫して取り組んでい

るが、学年によって今年度は、社会福祉協議会との連携事業を見送った学年もある。

久木小学校

【目標】

- I 福祉学習年間計画をもとに、教科・総合的な学習の時間等を通して、福祉学習に取り組む
- II 社会福祉協議会との連携を図り、福祉教育の推進を図る

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 年間指導計画に基づき、取り組みを行った。次年度も継続して取り組みたい。
- II 福祉学習（車いす介助体験学習など）の計画・実施に関わって連携を図ることができた。今後も連携を続けたい。

小坪小学校

【目標】

- I 市の社会福祉協議会等の機関と連携を図り、発達段階に応じた体験的な福祉教育を実施する
- II 学校生活のあらゆる場面で、発達段階に配慮した人権教育を実施し、人権感覚の醸成を図る

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 総合的な学習の時間において、各学年の発達段階に即した福祉学習の取り組みが推進され地域、外部団体との連携が深まった。
- II 日頃から教職員の人権意識の向上に努め、教育活動全体の中で人権教育がなされるよう努めた。

池子小学校

【目標】

- I 市の社会福祉協議会等の機関と連携を図り、発達段階に応じた体験的な福祉教育を実施する
- II NPO等の外部団体や保護者と連携し、発達段階に配慮した福祉教育・人権教育を推進する

【評価】

I 達成した

II 達成した

【成果と課題】

I 市の社会福祉協議会と連携する活動はなかったが学年ごとに体験的な福祉教育を実施した。

II 学年の発達段階に応じた様々な活動をとおして地域教育力を生かして日常に生きる福祉を学ぶ機会を増やした。

逗子中学校

【目標】

I 福祉体験学習の実施による豊かな心の育成

II 市民性教育の一環として、社会福祉の理解を深め、地域と協働した生徒の社会性の伸長

【評価】

I 達成できなかった

II 達成した

【成果と課題】

I 社会福祉協議会と連携して中学生にできるボランティアを模索したが、実現に至っていない。

II 市役所福祉部の協力の下、1年生を対象に講演会を実施した。

久木中学校

【目標】

I 発達段階に応じた福祉教育を推進し体験学習を通して理解を深める

II 地域・仲間との活動を通して思いやりの心、社会奉仕の精神などを育成する

【評価】

I 達成した

II 達成した

【成果と課題】

I 福祉体験学習を計画的に行い理解・関心を深める取り組みをした。

II 生徒会活動の一つとして地域清掃活動や餅つき大会・募金活動を通じて育成できた。

沼間中学校

【目標】

I 学校生活のあらゆる場面で実践することで、福祉・人権への意識を高め、差別、偏見を許さない集団をつくっていく

II 外部機関を積極的に導入し、性教育、精神障害やストレス回避について学習をさせる

【評価】

I 達成した

II 達成した

【成果と課題】

- 外部講師を招いて授業を実施し福祉・人権への意識を高めることができた。

⑦ 環境教育の推進

【 目 標 】

逗子市では、今日、世界的に大きな課題となっている環境に関する諸問題の解決に向けて、逗子市環境基本計画がつくられています。

逗子市立小・中学校においても、一人の市民として自然と共生できる明るい未来の実現のために、身近な環境問題について自ら考え判断できる子どもたちを育てます。

さらに、子どもたちが自然に、環境にやさしい行動が取れるようになることを目指して、環境教育に取り組んでいきます。

また、環境教育の取り組みが、子どもたちだけの活動にとどまらず、各家庭・各地域へと広がっていくことを目指して、地域・保護者の方と、子どもたちとともに活動できるような具体的な取り組みを推進していきます。

各小中学校における平成 25 年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校

【目標】

- I 授業だけでなく、児童会活動等に盛り込み、学校生活全体で取り組める内容を検討する
- II 家庭との連携を図り児童の活動の充実を図る

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 児童会の「ミックスペーパー回収」など児童が参加する取り組みや気温の計測などの取り組みを行った。
- II 5年生を中心に家庭と連携してのエコノートやエコクッキングの取り組みを進めた。

沼間小学校

【目標】

- I 環境教育の推進に向けて、学年に応じた体験活動を進める
- II 子どもたちの実践活動を通して、家庭や地域での環境に関わる理解を深める

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 家庭科や理科、総合的な学習で環境教育に取り組み、児童の意識改革が進んだ。

- Ⅱ 夏休みの課題として取りあげ、実践的な取り組みを進める等主体性も見られる。

久木小学校

【目標】

- I 教科・総合的な学習の時間等を通して、環境学習に取り組む
- Ⅱ 逗子市の施策（グリーンカーテン等）を環境教育に生かす

【評価】

- I 達成した
- Ⅱ 達成した

【成果と課題】

- I 総合的な学習全体計画に基づき、各学年で取り組むことができた。
- Ⅱ 地域の方々と連携し「いのちの森事業」に取り組んだ。

小坪小学校

【目標】

- I 各学年の年間指導計画の中で環境教育に関わる活動を洗い出す
- Ⅱ 地域教育力を活用し、環境に関係する体験的な活動を取り入れる

【評価】

- I 達成した
- Ⅱ 達成した

【成果と課題】

- I 総合的な学習の全体計画の中で、環境教育については4年生に特設されているが、他学年の教科・道徳指導の中でも実施されていることを全体で共有した。
- Ⅱ 支援地域コーディネーターを活用し、ワカメの刈り取り等地域の特性を活かした体験的な活動が設定された。

池子小学校

【目標】

- I 環境教育の全体計画を作成し、各学年での取り組みを整理し、積極的に活動を行う
- Ⅱ 環境教育担当者会での情報交換や、関係諸機関のと連携を進め、日常的な活動として環境教育に取り組む

【評価】

- I 達成した
- Ⅱ 達成した

【成果と課題】

- I 全体計画に基づき、各学年や委員会・全校で活動を行った。
- Ⅱ 関係機関と連携し学習を行ったり、全校行事などで日常的に環境教育に取り組んだ。

逗子中学校

【目標】

- I 生徒会活動を中心とした、ホタルの里づくりの推進
- II 市民性教育の一環として、地域と協働した環境教育の実践

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 6月に本校裏の川で合計十数匹の蛍を確認した。
- II 学校支援地域本部及び池子地区の住民と一緒に地域清掃を実施した。

久木中学校

【目標】

- I 地域・保護者との連携から環境に対する意識、熱意、見識を育てる
- II 環境学習の指導計画に基づき目標を明確にし積極的に推進する
- III 身近にある太陽光発電の施設を利用し、それを理解し環境に対する意識の向上を図る

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- I ずし市環境会議会員を講師に環境教育を計画的に取り組んだ。
- II リサイクルセンター見学やミックスペーパー等計画的に取り組んだ。
- III ずし市環境会議会員の環境学習においてデータを活用する取り組みを行った。

沼間中学校

【目標】

- I 環境委員会を中心に、学校の自然環境を自らの手で守っていく姿勢を育てる
- II 学校支援地域本部、P&T（本校保護者と学校との連携組織）の方々の協力を仰ぎ、地域の大人たちが自然を守ろうとする姿勢をみせることで、自然を守る大切さを知らせる

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 環境委員会の生徒の手により生物の飼育や学校の自然環境を大切にする取り組みをおこなった。

Ⅱ 学校支援地域本部、P&T（本校保護者と学校との連携組織）の方々との連携をとり、学校の自然環境づくりに努めることができ、生徒に自然を守る大切さを知らせることができた。

⑧ 情報教育の推進

【 目 標 】

逗子市では市内全校でコンピュータやインターネット、電子黒板、書画カメラ、プロジェクター、デジタルカメラなどのICT（情報コミュニケーション技術）が、多様な学習のための有効な手段として活用できる環境が整いました。ICTの急速な進歩により、情報社会に主体的に対応できる「情報活用能力」を身に付けた子どもの育成が、授業の中でも重要な課題となってきました。

また、携帯電話やパソコンを持つ小・中学生が増加してきたことにより、ネット上の様々なトラブルに巻き込まれるケースも出てきています。このようなことを回避するためには、ネット上での情報交換の場におけるマナーやモラルの教育を図ることが求められてきています。

各小中学校における平成 25 年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校

【目標】

- I 発達段階に応じた系統性のある学習計画の検討を行う
- II 必要に応じて情報モラルについて外部機関との連携を進める

【評価と課題】

（評価）

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 情報教育担当者を中心に取り組んでいる。
- II 資料を基に高学年で指導した。今年度は外部機関を招へいしての学習は行うことができなかった。

沼間小学校

【目標】

- I 情報機器活用能力の育成に努める
- II 情報リテラシーの育成や情報モラル教育に努める
- III 情報機器を有効に活用し、授業効果を高める

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- 積極的に情報機器の活用は進められていることから、授業効果を高めることができている。
- 情報リテラシーや情報モラルについては基本的な指導は学校で行うが、家庭との連携を積極的に進めていきたい。

久木小学校

【目標】

- I 発達段階に応じた情報機器操作内容を明確にし、情報機器活用能力の育成を図る
- II 情報リテラシーの育成に向けて、パソコン環境の整備を行うとともに、情報モラルの育成も図る

【評価】

- I 達成できなかった
- II 達成した

【成果と課題】

- I 情報教育指導計画（全体計画）に基づいた指導を継続することで、全校の児童への指導の確実な定着をめざしたい。
- II 情報教育担当者を中心に、総合的な学習の時間を通して取り組んでいる。次年度への継続課題としたい。

小坪小学校

【目標】

- I 教員が積極的にICTを活用した授業に取り組むことにより、発達段階に応じた情報リテラシーの育成に取り組む
- II 情報を取捨選択し、正しく利用する能力を養うとともに、情報の発信者としてのモラルの育成を図る

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 各教室のICT環境を活用し、授業場面で多くの実践がなわれた。
- II 携帯電話・スマートフォンなど新しい情報機器における情報モラルの醸成について課題を把握し、保護者の意識向上に努めた。

池子小学校

【目標】

- I 教員が積極的にICTを活用した授業に取り組むことにより、発達段階に応じた情報リ

テラシーの育成に取り組む

- Ⅱ 情報を取捨選択し、正しく利用する能力を養うとともに、情報の発信者としてのモラルの育成を図る

【評価】

- I 達成した
- Ⅱ 達成した

【成果と課題】

- I 情報教育の推進と、教職員の共通理解を図るため、来年度の「情報教育年間指導計画」の作成を行った。
- Ⅱ 今後はできあがったものを基に単元研究に取り組んでいきたい。

逗子中学校

【目標】

- I 市民性教育の一環として、ICT を活用したプレゼンテーションを取り入れた授業を学年ごとに編成
- Ⅱ ICT の「光と闇」に関する情報セキュリティーについて、生徒・保護者の理解促進

【評価】

- I 達成した
- Ⅱ 達成した

【成果と課題】

- I 1年生はデジタルカメラ、2年生はオーバーヘッドカメラ、3年生はパワーポイントを活用して発表会を実施した。
- Ⅱ 県警の協力の下、7月に全校生徒を対象として携帯電話の危険性について講演会を実施した。

久木中学校

【目標】

- I ICT 機器を用いた授業や映像を活用したプレゼンテーションを取り入れ、発達段階に応じた「情報活用能力」を育成する
- Ⅱ 情報モラル教育の育成を図り、あふれる情報を取捨選択し正しく活用できる力を育てる

【評価】

- I 達成した
- Ⅱ 達成した

【成果と課題】

- I 各学習計画の中で計画的に機器利用を取り入れ育成している。
- Ⅱ 技術の授業及び地域機関を利用して情報モラル・携帯電話の学習を実施した。

沼間中学校

【目標】

- I ICTを活用した指導の充実を図り、「分かる授業」を研究する
- II 教科におけるICTを活用した生徒の発表を指導していく

【評価】

- I 概ね達成した
- II 概ね達成した

【成果と課題】

- I ICTを活用した授業は継続して取り組む必要がある。
- II ICTを活用した生徒の発表は継続指導が必要である。

〈教育委員会分析結果〉

1 平成 25 年度に教育委員会が実施した主な「●事業」と学校への「▲指導内容」

(1) 主な事業

- 児童生徒安全確保事業（CAP〈子どもへの暴力防止〉プログラム）
- 教育相談事業
（非常勤職員 4 人、スーパーバイザー 6 人）
- 適応指導教室運営事業（非常勤職員 2 人）
- 心の相談・援助事業（心の教室相談員各校 1 人 非常勤職員）
- 国際教育推進事業（国際教育指導助手[IEA]各校 1 人）
- 教育用コンピュータ維持管理事業（コンピュータリース）

(2) 主な指導内容

- ▲教育相談コーディネーターを中心とした校内児童・生徒支援体制の確立
- ▲小学校外国語活動・中学校英語科の授業づくり研修
- ▲「逗子市学校防災計画」に基づく各学校の防災計画の作成

2 各学校の自己評価を総合した市立全校の実践評価と主な成果等

(1) 市立全校の実践評価（項目別達成率 92.5%）

(2) 主な成果等

【学校安全の推進】

- ・保護者、地域、外部関係機関との連携の下に子どもの安全確保に取り組んだ。
- ・小学校 3 年と中学校 1 年の市内全クラスにおいて CAP ワークショップを実施した。
また、保護者対象のワークショップも 1 回開催した。
- ・学校防災アドバイザーを活用し、防止体制の見直しをはかることができた。
- ・東日本大震災以降、各学校において見直された防災計画を基に、平成 24 年度に引き続き国の「実践的防災教育総合支援事業(学校防災アドバイザー活用事業)」を活用し、中・長期的に取り組むべき課題について各学校が教育委員会との連携の下で取り組んだ。

【問題行動等への対応の推進】

- ・未然防止・早期発見のために、全校が、児童・生徒の生活実態について、聞き取り調査や質問紙調査を行うなど、きめ細かく把握に努めた。
- ・教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制構築し、組織的な対応をはかることができた。

- ・外部機関と連携した取り組みを進めることができた。

【幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進】

- ・小学校・・・幼・保・小連携推進会議において、グループ協議を行い「顔の見える連携」を進めた。また、年度末に関係幼稚園・保育園・中学校との情報交換を実施し、学びの連続性を意識した情報連携を図った。
- ・中学校・・・小・中の連携を図るため、合同研修会や情報交換の機会をもった。また、中学校の教員が小学校へ赴いて行う出前授業や部活体験(クラブ指導)等を実施した。

【国際教育の推進】

- ・各校に1名ずつの国際教育指導助手(中学校へはネイティブスピーカーを派遣)が配置されたことで、教職員との連携や児童・生徒との交流を行う時間を確保でき、より深めることができた。
- ・単なる語学指導に終始することなく、コミュニケーションや人権、異文化理解、国際教育に発展させることができた。

【キャリア教育の推進】

- ・中学校における職業体験は定着しており、生徒にとって地域教育力を活用した貴重な体験となっている。(1日実施・・・2校、2日間実施・・・1校)

【福祉教育の推進】

- ・各教科・生活科及び総合的な学習の時間の中で計画的に実践された。
- ・社会福祉協議会(地域の教育力)との連携が定着しており、児童・生徒の実態に応じ、学校ごとに取り組みが行われた。

【環境教育の推進】

- ・総合的な学習の時間、生徒会・児童会活動の中で計画的に実践された。
- ・子どもたちの環境に対する意識を高めるために、地域教育力を活用した環境学習授業が行われた。

【情報教育の推進】

- ・小・中学校において、外部関係機関と連携しての携帯電話教室や情報モラルに関する授業を実施した。
- ・ICT機器を活用した授業を行う教員が増え、授業内容の充実も見られる。

3 教育委員会の自己評価と主な成果等

(1) 教育委員会の自己評価〔A〕

コメント 東日本大震災の発生以降、学校の防災体制に様々な課題を投げかけられたが、

昨年度に引き続き今年度も国の「実践的防災教育総合支援事業（学校防災アドバイザー活用事業）」を活用し、中・長期的に取り組むべき課題について各学校が教育委員会との連携の下で取り組んだ。その他の今日的な課題についても、それぞれの学校が創意工夫により対応に力を入れているが、成果としてはなかなか表れにくいというのが現状である。とくに、児童・生徒の問題行動等については、早期発見、早期解決に向けて委員会としても継続的な支援を行っていく。

（２）主な成果等

【学校安全の推進】

- ・学校防災アドバイザー事業を継続し、各学校の防災計画の改善に向けて支援した。
- ・交通安全・不審者対応等の防犯に関わる諸機関との連携を密に行うことができた。また、不審者に係る情報をFAXやメールで速やかに提供し、注意を喚起することができた。
- ・全小学校3年生と中学校1年生を対象にCAPプログラムを実施し、あらゆる暴力からの身を守る意識を高めることができた。
- ・県教育委員会が作成した自転車事故防止資料「チリリン・タイム」を市内グループウェアに掲載し、活用を促した。

【問題行動等への対応の推進】

- ・各学校において早期発見・早期対応の取り組みを進めるよう働きかけた。
- ・教員と児童・生徒、保護者とのよりよい信頼関係を構築する必要性から、『信頼に基づいた指導推進担当者会』を立ち上げ、信頼に裏打ちされた、罰に寄らない指導の在り方を検討し、情報交換を行った。
- ・校内の情報共有の徹底と、適切な指導に向けた教員個々の指導力向上を引き続き目指す。

【幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進】

- ・幼・保・小連携の取り組みを進めるために、幼・保・小連携推進連絡調整会議を年間3回開催した。
- ・小・中連携の取り組みを進めるために、年間5回開催された教育課程担当者会で、中学校区における情報交換を行うとともに、小・中連携のあり方や方向性について話し合った。

【国際教育の推進】

- ・年間9回の小学校外国語活動指導者研修会（兼 教育研究所国際教育・英語教育研究会）や夏季研修会を開催するなどして、逗子市小学校外国語活動ガイドラインに基づいた指導のあり方について共通理解を図った。また、小学校外国語活動・中学校英語科の授業づくりについて連携した。

- ・1校に1名ずつの国際教育指導助手を配置し、国際教育・英語教育の推進を図った。

【環境教育の推進】

- ・環境教育に係る諸機関との連携を密に行うことができた。

【情報教育の推進】

- ・ICT機器（PC、プロジェクター、電子黒板、実物投影機等）の授業における活用を、情報教育研究員会で研究し推進を図った。
- ・情報モラルに関する研修会を実施し、情報モラル等に関しての意識向上に取り組んだ。

4 平成26年度に向けて必要とされる主な事業及び指導内容

（1）学校安全の推進

- ・大規模地震及び津波の発生に備えて「逗子市学校防災計画」の見直しに引き続き取り組む。
- ・「チリリン・タイム」等を活用し、自転車での事故防止のための啓発に取り組む。

（2）問題行動等への対応の推進

- ・教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制を構築するため、特別支援教育充実事業を充実させる。
- ・各学校と教育研究所や子育て支援課・児童相談所等の関係諸機関との有機的連携を進める。
- ・不登校の未然防止に向けた具体的な手立てを講じ、出現率の低下に努めるため、各学校の教育相談体制を充実させるとともに、居心地のよい学級づくりに取り組む。

（3）幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進

- ・幼・保・小連携の取り組みを進めるために、幼・保・小連携推進連絡調整会議を継続する。
- ・小・中の教職員間に顔が見える関係を構築し、互いの教育への理解を深める。
- ・小・中9年間を通して育てる「逗子の子ども像」について、教職員間の話し合いを深める。
- ・小・中統一した書式の支援シートの作成と活用を進める。

（4）国際教育の推進

- ・中学校英語科の授業との接続と指導法の工夫・改善も視野に入れて、小学校外国語活動の授業づくり研究を継続する。

（5）情報教育の推進

- ICT機器（PC、電子黒板、プロジェクター）の授業における効果的な活用を推進する。
- 「情報モラル」についての一貫性を持った指導を検討する。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉〈久保田 貢 氏〉

各学校共に、子どもの命を守るため、学校防災計画を整備し、防災教育を日々の教育活動に位置付けると共に、避難経路の安全点検・整備に努め、訓練等を通して、子どもたちに「自らの命は自分で守る」ことを意識づけていることが伺える。今後とも、学校、家庭、地域社会が連携して、より充実した取り組みを期待する。

不審者対応については、ここ数年、声掛け事犯や連れ去り事犯などの状況を踏まえ、各学校共に、CAPを始め防犯教室や安全教室等を開催し、子どもを犯罪から守る活動が展開されている。今後とも、学校、家庭、地域社会、関係諸機関が連携して、子どもを守る体制作り（子ども110番の充実を含む）に努めることを期待する。

「いじめ・不登校」については、各学校共に、「出現率0%」を目指して様々な取り組みがなされていることが伺える。中でも「いじめ」は、いかなる理由があろうとも人権侵害であり、犯罪であることを子どもや保護者に指導し、「ダメなものダメ」といった毅然とした学校の姿勢は極めて大事なことと伺える。

「不登校」についても「いじめ」についても、大事なことは、子ども一人ひとりが「学校生活が楽しい」「自分の居場所がある」「自分の存在が認められている」などといった安心感やゆとり感が味わえるような学級経営・教科経営を運営することが大事である。

そのためにも、教師は、子ども一人ひとりに寄り添い、信頼関係を構築すると共に、「わかる授業」に努め、「人権教育」「福祉教育」を推し進め、心豊かな子どもの育成に努めることが大切である。

「幼・保・小・中学校連携の推進」については、今後の国の動向を見据えて、「学び方等のカリキュラムの開発」に焦点を当てた取り組みを期待する。

「キャリア教育の推進」については、体験活動を通して「何が身につき、子どもがどう変わっていったか。また、これからの生き方にどう役立てていくか。」等の視点を明確にした取り組みが必要である。

「情報教育の推進」については、子どもの発達段階に応じた取り組みがなされていることが伺える。子どもたちの多くがスマホを携帯し、ラインやSNSなどネット社会に依存する傾向が見られ、時には、「出会い系サイト」等に登録し、「性被害」や「いじめ」に会うこともある中で、学校として、今後ますます子どもへの質の高い指導、保護者への啓発・協力、関係諸機関との連携強化を図り、ネット社会に依存しない心身共に豊かな子どもの育成に努める必要がある。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉 〈福田 幸男 氏〉

多様な教育課題に対して、全校がしっかりと取り組んでいることを評価する。その中で、以下の項目に絞って意見を述べる。

「問題行動等への対応の推進」

問題行動に対しては、教職員間、校内で情報を共有し、さらに、スクールカウンセラーや巡回指導員を積極的に受け入れる等の対応が求められる。また、小中学生の「規範意識の低下」等が指摘されていることから、問題行動を特に示さない児童・生徒に対しても、丁寧な指導が求められる。未然防止・早期対応を教職員の共通の取り組み目標とすることを期待する。幼稚園・保育園との連携を進める池子小学校の取り組み、また地域諸機関との連携を推し進めている久木中学校などの取り組みに注目したい。

「幼・保・小・中連携の推進」

「学びの連続性」のみならず、「児童・生徒の生活指導の連続性」からも、幼・保・小・中連携の一層の推進を期待する。今後、国から小中一貫教育の推進を求められると予想されるが、その鍵を握るのは教職員の意識である。校種の枠を超えて、相互理解を深化させる活動や仕掛けがこれまで以上に必要となる。

「国際教育の推進」

地域特性として、保護者や地域は「国際教育の推進」に期待を寄せる傾向にある。IEA の活用に関しては各校とも成果を上げているが、異文化理解や多文化共生に関しては、特に中学校において取り組みに物足りなさを感じる。国際教育の核心の活動であることから、今後の強化を期待する。また、英語教育の小中連携も取り組むべき課題である。

「キャリア教育の推進」

計画的な進路指導の推進や、職場体験などの実践を通して、将来を見据えた「生き方の教育」を展開している。学校の取り組みに加えて、保護者や地域との連携が不可欠であり、積極的な情報発信と協働を期待する。

「情報教育の推進」

ICT 機器の授業における効果的な活用が図られてきている点を評価する。その一方で、情報モラル教育を徹底する必要がある。日々進化するテクノロジーに対応するためにも、外部関係機関との連携を図りながら、児童・生徒を守る姿勢を明確に打ち出す必要がある。

2 地域に開かれた学校づくり

① 地域への情報発信と学校公開の工夫

【目標】

学校が様々な教育課題の解決に向けて取り組むとき、家庭や地域社会との連携はますます重要になってきています。

学校教育目標や重点課題等を積極的に公開し、開かれた学校運営に努めることや、保護者、地域住民に向けた学校説明会や授業公開の定例化を進め、学校を地域に十分に開くよう取り組みを進めていきます。

また、個人情報保護に十分注意しつつ学校から積極的に情報発信を行い、さらに保護者や地域住民の声に耳を傾けるなかで、地域と学校とが適切に相互理解を深めていくことを目指します。

各小中学校における平成 25 年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校

【目標】

- I 学校ホームページの更新・発信を行う
- II 学校便り・学年便り・学級便り等による保護者への情報発信
- III 保護者だけでなく地域への情報発信（掲示板等の活用）

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- I 教務部が担当し発信・更新を行った。
- II 学校・学年・学級の便りの充実が図れた。
- III 行事等で保護者アンケートを実施し意見の反映を心がけた

沼間小学校

【目標】

- I 年間通した学校状況の適切な公開を進める
- II ホームページの更新を月1回程度とする
- III 地域と学校の相互理解が進むよう、コミュニケーションの場を大切にする

【評価】

- I 達成した

- Ⅱ 達成できなかった
- Ⅲ 達成した

【成果と課題】

- 学校だよりや学年だより等ではきめ細かな学校からの発信が進められたが、担当者が変わり月1回程度のホームページの更新は難しかった。今後は役割分担の引き継ぎを確認し、組織的な対応の継続を図る。

久木小学校

【目標】

- Ⅰ 地域教育協議会を通して、地域に対して学校運営に関する理解を深める
- Ⅱ 学校だよりやホームページ等で、学校の情報を広く伝える

【評価】

- Ⅰ 達成した
- Ⅱ 達成した

【成果と課題】

- Ⅰ 地域教育協議会の運営が円滑に進められた。学校への理解・協力が進んでいると感じる。継続して取り組みたい。
- Ⅱ 学校だよりを地域に回覧することにより、本校の教育活動等の理解が地域にも広がってきたと感じる。ホームページの更新を定期的に行うことができなかったため、次年度に向けて改善を図りたい。

小坪小学校

【目標】

- Ⅰ 学校の教育活動を積極的に公開し、保護者・地域と課題を共有することで学校運営の充実を図る
- Ⅱ 個人情報の保護に十分配慮しつつ、学校だよりやホームページで情報の発信を進める

【評価】

- Ⅰ 達成した
- Ⅱ 達成した

【成果と課題】

- Ⅰ 行動目標について具体的な実践からの実効性について話し合いをもち、今後の方向性を決めることができた。
- Ⅱ 学校評価のためのアンケートを今後の教育実践の中で活かすことができるように工夫・改善を図った。

池子小学校

【目標】

- I 学校、学年、学級便り等による保護者、地域への適正な情報発信の改善を図る
- II 学校支援地域本部事業の継続性の確保と改善

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 学校からの情報は、各学級・学年・学校・分掌からのたよりを通して発信することができた。学校だよりは、発行日にほぼ地域へも配付することができた。
- II 学校支援地域本事業は、様々な活動が活発に実施された。しかし、学校が主導で動いているので、今後は、地域コーディネーターなどと密に連携し、地域コーディネーターが主体的に動ける場も増やしていきたい。

逗子中学校

【目標】

- I 毎日を「学校公開日」と設定し、家庭・地域との連携を図る
- II 授業を保護者・地域に授業公開する機会を年間5回以上設定
- III 情報を学校便り、ホームページ、校長通信等で積極的に発信し、「信頼される学校づくり」の推進

【評価】

- I 達成できなかった
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- I 毎日を学校公開日としたが、実際には参観者はいなかった。
- II 年間5回の授業公開を実施した。
- III 事例として挙げたものすべてに取り組んだ。

久木中学校

【目標】

- I 学校だよりを地域へ配布する。また、ホームページの構成を見直すとともに、更新を定期的に行う
- II 青少年育成推進の会を始めとする地域の団体との関係を深め、学校への理解を深め支援・協力を得る

【評価】

- I 達成できなかった
- II 達成した

【成果と課題】

- I たより等については計画的に行う事ができているがホームページの更新等できていない。
- II 各地域の青少年育成推進の会、地域行事に計画的・積極的に参加できている。

沼間中学校

【目標】

- I P&T（本校保護者と学校との連携組織）として、逗P連（逗子市PTA連絡協議会）に加入すべきか検討する
- II 学校公開等あらゆる場面での地域・保護者との学校課題の共有を図り、情報発信していく
- III 青少年育成推進の会、沼間小学校区地域連合会等との外部機関との連携を深める

【評価】

- I 達成できなかった
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- PTAへの加盟については議論が始まったばかりである。

② 地域教育力の活用

【 目 標 】

都市化や核家族化、少子化の進行は、地域の連帯感を希薄にし、地域の教育力を低下させる要因の一つとなっています。しかし本来、地域には多彩な人的・物的なリソース（資源）があり、それを教育に生かすことは重要です。

地域の貴重なリソースを学校に取り込み、教育活動の充実を図ること、また、地域の中の活動等を通して子どもが豊かに育つことを大切にしていきたいと考えています。

これまで、市として「学校教育支援ボランティア登録制度」を立ち上げるとともに、2009年（平成21年）度に市立小・中学校全校で立ち上げた学校支援地域本部を通してボランティアを募るなど、学校支援を広く求める取り組みを進めてきました。その結果、各学校の教育活動の様々な場面で保護者や地域住民による協力を得られるようになってきていますが、今後もこの取り組みの一層の充実を図ります。

各小中学校における平成25年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校

【目標】

- I これまでの学校支援地域本部事業の整理
- II サポート通信の発行
- III 地域コーディネーターを中心とした学校や児童のための支援についての検討と取り組み

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- I・II・III 学校支援地域本部事業の中で実施できた。今年度は『逗子小ガイド』の改定作業を行い、その中で地域との連携も進んだ。

沼間小学校

【目標】

- I 地域コーディネーターを活用して、開かれた学校支援地域本部事業を展開する
- II 学校支援ボランティアとの円滑なコミュニケーションに努める
- III 学校と地域との連携・協力関係のパイプを強くする

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

Ⅲ 達成した

【成果と課題】

- 学校支援ボランティアと適切なコミュニケーションができ、円滑な運用が進められている。

久木小学校

【目標】

- I 久木小サポーターシステムを活用し、学習支援、学校環境整備支援活動を進める
- II 校庭の芝生管理等の作業をサポーターシステムの協力を得て行う

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 大豆作り、味噌作り、稲作は継続して取り組んだ。教職員と保護者・地域とのコミュニケーションを目的とした「わくわくフェスティバル」は、大盛況で目的を十分果たすことができたと感じる。次年度も実施したい。
- II 課題は多いが、地域との協力・連携は十分に取れるようになっている。維持管理に関わって、より良い方法の研究・試行を進めたい。

小坪小学校

【目標】

- I 地域コーディネーターを中心に、学校支援地域本部と連携を図り、学校教育の一層の充実をめざす
- II 保護者や地域にボランティア登録をすすめ、地域本部のネットワークづくりを推進する

【評価】

- I 達成した
- II 達成できなかった

【成果と課題】

- I 学校支援地域協議会の充実を図り、積極的な問題提起を行い、コーディネーターを中心に積極的な活動を行った。
- II 地域人材の積極的な活用は図ったがボランティア登録の働きかけには至らなかった。

池子小学校

【目標】

- I 地域コーディネーターを中心とした地域支援活動の調整と改善
- II 地域ボランティアの活動の充実と、学校との双方向の交流の検討

【評価】

I 達成した

II 達成した

【成果と課題】

I 地域コーディネーターを中心に、ふれあい作品展の出展を呼びかけていただき、展示を積極的に協力していただいた。

II 学校の環境整備を中心に活動していただき、結果として、よりよい意義深い活動が展開された。

逗子中学校

【目標】

I 地域の担い手としての生徒の育成と、地域行事への積極的な参加（参加者数50人以上）

II 学校関係者評価委員・学校評議員・地域教育協議会・PTAとの連携の強化・学校支援地域本部における地域コーディネーターの目的別複数配置・小、中、高連携の模索

【評価】

I 達成した

II 達成した

【成果と課題】

I 避難時運営訓練や地域の運動会、せせらぎ祭りに延べ100人以上が参加した。

II 事例として挙げたものすべてに取り組んだ。

久木中学校

【目標】

I 学校支援地域本部に組織を統合して地域コーディネーターを中心とした学校支援の具体的な活動を進める

II 学校関係者評価委員会、学校評議員会、地域教育協議会、保護者・地域の個々の意見を十分に把握し、教育活動に反映していく

【評価】

I 達成した

II 達成した

【成果と課題】

I 地域コーディネーターを中心に地域と学校が連携協力して活動を取り組めた。

II 多くの意見を戴くことができ、次年度の計画に反映していく。

沼間中学校

【目標】

I 学校支援地域本部の協力で、教科の授業等にも地域講師、学校教育支援ボランティア

の活用を積極的に行っていく

Ⅱ 図書館ボランティアを継続し、開館時間を増やすとともに生徒の読書活動を保障する
【評価】

I 達成した

Ⅱ 達成した

【成果と課題】

○ 図書館ボランティアは継続できたが開館時間を増やすことはできていない。

③ 学校評価を生かした学校の改善

【 目 標 】

現在、学校はその教育活動全体について、絶えず自己点検・自己評価を行い、その結果を適切に分析、改善することで、教育の質を向上させていくことが求められています。そのためには、学校運営の状況について保護者や地域住民等に対して積極的に説明を行いまた保護者や地域住民の声を聞くなかで、社会の期待と信頼に応える学校づくりを目指していかねばなりません。

さらに、学校の自己評価に基づいた学校関係者評価に取り組み、評価の視点や重点をしぼり、児童・生徒・保護者・地域の方々による適切な評価を実施し、更なる教育活動の向上に取り組みます。

各小中学校における平成 25 年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校

【目標】

- I 学校評価の場面、内容、項目等についての再検討
- II 学校評価アンケートの結果を活用した教育活動の見直し
- III 学校・保護者・地域の三者協働による教育活動の推進

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- I・II 教務部を中心に評価について検討を行い、集約も行い、学校の教育活動に反映するようにした。
- III クリーンアップイベント、サマースクール・サマーコンサート等で実践できた。

沼間小学校

【目標】

- I 重点を絞った目標設定をして取り組む
- II 子どもたちの姿を通して学校改革・改善を進める
- III 学校評議員、学校関係者評価委員の学校理解を進め、積極的な支援を活用して学校改善を図る

【成果】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- I 学校評価について職員の理解が進みつつあり、保護者や児童アンケートの結果を分析的に見て活用しようとしてきてきた。
- II 学校評議員や学校関係者評価委員の学校理解が進み、現状把握と学校改善への提言が活用されるものとなってきている。

久木小学校

【目標】

- I 学校関係者評価委員会の評価を学校運営に生かす
- II 学校づくりアンケートを実施し、保護者・地域の意見・感想を踏まえ、学校運営の参考とする

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 年間3回の学校関係者評価委員会を開催し、学校運営についての助言を受けた。児童の学習・生活の様子分かるように開催時期を工夫したことで、より具体的な助言を得ることができた。
- II 学校づくりアンケートを11月に実施し、次年度への課題を整理することができた。また、教育活動で大切にすること、連携を図ることなどについて、学校・保護者・地域で確認を図ることができた。

小坪小学校

【目標】

- I 学校教育目標における重点目標や行動目標の自己評価を活かし、学校評価の実効性を高める
- II 学校評価を生かして改善点を把握し、教育条件の整備を行い、それを保護者・地域に発信していく

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 行動目標について具体的な実践からの実効性について話し合いをもち、今後の方向性を決めることができた。
- II 学校評価のためのアンケートを今後の教育実践の中で活かすことができるように工夫・改善を図った。

池子小学校

【目標】

- I 重点化した目標設定と、学校評価アンケートの実施場面と内容の検討
- II 学校評価アンケートを生かした教育活動の点検と見直し

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- 児童・保護者・地域による学校評価の他、学校関係者評価委員会での助言をもとに、教育活動の点検と見直しを図ることができた。今後は、児童・保護者による授業評価など、様々な評価方法を検討し工夫改善に努めたい。

逗子中学校

【目標】

- 年度の重点を明確にして評価のポイントを絞り、アクションにつながる学校評価を実施する

【評価】

- 達成した

【成果と課題】

- 年度の重点を校長通信でお知らせし、保護者へのアンケートも実施した。

久木中学校

【目標】

- I 生徒・保護者にアンケートを適宜実施し、自己評価に取り入れる
- II 自己評価に対する保護者・地域、学校評価委員会、学校評議員会等からの改善等の指摘を次年度の学校運営(計画)に反映していく

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 行事を行う毎に生徒・保護者・地域の方々にアンケートを実施し取り入れている。
- II 意見等を踏まえて次年度の計画実施に反映をしていく。

沼間中学校

【目標】

- I 学校関係者評価委員会での意見は必ず改善策を考え、実行していく
- II 授業参観保護者授業評価もマークシート方式に改善することで迅速に結果を出せるようにし、改善案を学年会で作成する

【評価】

I 達成した

II 達成した

【成果と課題】

○ マークシート方式に改善することで多様な集団の集計ができるようになった。

〈教育委員会分析結果〉

1 平成 25 年度に教育委員会が実施した主な「●事業」と学校への「▲指導内容」

(1) 主な事業

●学校支援地域本部事業

逗子小学校⇒学校図書館ボランティア、読み聞かせボランティア、サマースクール、サマーコンサート、逗子小ガイドの編集（更新） など

沼間小学校⇒草刈りボランティア、手縫いボランティア、長柄桜山古墳見学講師、七夕集会、ペンキ塗り事前準備、夏祭り灯籠づくり、校外学習支援、ミシンボランティア、視覚障がい者誘導体験、お店見学見守り、点字学習、被爆体験講演、邦楽鑑賞会、読み聞かせボランティア、図書貸し出しボランティア、グリーンボランティア（園芸飼育委員会支援） など

久木小学校⇒校庭芝生手入れサポーター、久木地区見守り隊、お話し会（読み聞かせ）、学習・生活支援ボランティア、図書館ボランティア、稲作プロジェクト（代掻き・田植え）、大豆づくりサポーター、ミシンサポーター、豆腐工場見学、豆腐づくり、味噌づくり、久小わくわくフェスティバル、鎌倉見学サポート、歴史学習ゲストティーチャー、もえぎ級ゲストティーチャー など

小坪小学校⇒読書活動支援（図書室当番、朝の読み聞かせ、夏休み図書室開放の当番、「図書ボランティアだより」の発行）、逗子音頭の講習（ズシップ連合長生会）、着衣泳（リヴィエラ逗子マリーナ）、登下校見守り（小坪見守り隊）、サマースクール、運動会前日清掃ボランティア、交通安全教室（逗子警察、見守り隊）、自転車安全教室（逗子警察、見守り隊）、家庭科ミシンボランティア、津波避難経路環境整備、社会科鎌倉めぐり、学校へ行こう週間受付とパトロール、小坪小まつり、敷地内花壇整備 など

池子小学校⇒ひろがり音楽、長柄・桜山古墳見学（長柄・桜山古墳を守る会）、邦楽鑑賞会（逗子三曲会）、自転車教室・防犯教室（逗子警察署）、田植え体験（名越里山の会）、稲刈り（名越里山の会）、お話し会（池小お話し会）、着衣泳（逗子マリーナ）、クリーンアップ作戦（池子体育会・消防団・地域ボランティア）、など

逗子中学校⇒図書ボランティア（図書館の貸し出し返却補助）、部活動指導補助、餅つき、敷地内草取り、マラソン大会、ディベート大会練習支援 など

久木中学校⇒部活動指導補助、情報モラル教室、美術館との連携による学習、ブレインジム講習会、環境学習、熱中症予防講習会、法律教室、地域清掃 など

沼間中学校⇒ふれあいデー（地域講師）、沼中花いっぱい計画、沼中ぴっかぴか計画、サマーチャレンジ、苗植付・芽かき など

●学校支援ボランティア（7,985人）

- 学校評議員事業
- 学校関係者評価事業

(2) 主な指導内容

- ▲学校評議員会報告書の提出
- ▲学校関係者評価の報告書の提出
- ▲学校支援地域本部実行委員会の開催
- ▲地域教育協議会の設置

2 各学校の自己評価を総合した市立全校の実践評価と主な成果等

(1) 市立全校の実践評価 (項目別達成率 90.9%)

(2) 主な成果等

【地域への情報発信と学校公開の工夫】

- ・ホームページや学校だより、メール配信、学校説明会等により情報発信に努めた。

【地域教育力の活用】

- ・各学校の地域教育協議会のメンバーが学校評議員の一員となり、学校長の求めに応じて学校運営に関する意見を述べる等、地域との協働による学校づくりに向けた取り組みが進んだ。
- ・学校支援ボランティアを活用した学習の取り組みが進み、ボランティアの延べ人数が前年度に比べて大幅に増えた(平成24年度 6,312人→平成25年度 7,985人)。
- ・学校支援地域本部実行委員会を年間3回開催し、情報交換や方向性の確認を行った。

【学校評価を生かした学校の改善】

- ・学校評価から見えてきた課題を、学校教育総合プラン実施計画に反映し学校運営の改善を図った。
- ・学校関係者評価を活用して学識経験を有する評価委員等の意見を自己評価の結果に加味して改善策を打ち立て、次年度の具体的な改善につなげることができた。

3 教育委員会の自己評価と主な成果等

(1) 教育委員会の自己評価 [A]

コメント 全ての学校支援地域本部の活動は活性化しており、地域との協働による学校づくりに向けた取り組みが進んでいる。

(2) 主な成果等

【地域への情報発信と学校公開の工夫】

- ・保護者向けのメール配信サービスを活用し、保護者や地域に向けてのきめ細かい情報

発信が行われた。

【地域教育力の活用】

- ・各学校にて学校支援地域本部事業が活性化し、学校教育支援ボランティアを活用した学習の取り組み等が定着し、ボランティアの数も年々増加している。また、実行委員会で情報交換や方向性の確認を行い課題を共有できた。
- ・地域との協働による学校づくりをさらに進め、学校のスリム化を図っていきたい。

【学校評価を生かした学校の改善】

- ・「逗子市学校教育総合プラン（第Ⅲ期）」で学校評価の整理を行った。

4 平成26年度に向けて必要とされる主な事業及び指導内容

（1）地域への情報発信と学校公開の工夫

- ・ホームページの定期的な更新を促す。

（2）地域教育力の活用

- ・学校支援地域本部が自立的な組織となることをめざす。
- ・活用がより充実するために、各学校がもっている情報やネットワークの共有化（市内の人材リストの作成）を図る。

（3）学校評価を生かした学校の改善

- ・より一層評価の具体化を図り、学校改善により良く生かす学校評価を推進していく。
- ・これまでの学校評価の結果を、学校教育総合プランの実施計画作成に反映する。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉 〈久保田 貢 氏〉

家庭や地域社会から信頼される学校運営を展開するためには、日々の教育活動の公開、地域の教育力を活用した教育活動の充実等が大切である。

地域への情報発信と学校公開の工夫については、各学校共に創意工夫を図った情報発信に努めていることが伺える。HPの更新、学校・学年・学級だより、校長だより、保健室だより等保護者を始め地域住民、関係諸機関等に配布するなどして、学校運営の理解が得られるよう努めていることが伺える。

HPを拝見すると、各学校共に様々な工夫をしており、例えば、児童・生徒の教育活動の様子を掲げているもの、月毎の教科指導や児童・生徒指導の目標を中心に作成されているもの、学校行事の様子を中心に作成されているもの、中には、非常災害が発生した際の対処の仕方などを掲げたものなど、子どもや家庭の置かれた環境に応じた工夫や配慮がなされていることが伺える。学校によっては、人手不足なのか、毎月の更新が難しいところもあるようである。昨年も指摘したが、教育委員会は、教職員の負担を軽減するためにも、専任のHP担当者の人的配置及びそれに係る予算の増額を考慮すべきである。

地域教育力の活用については、7,985人の学校支援ボランティアが子どもの教育活動に関わっており、近隣の市町の学校には見られない特筆すべき取り組みと言える。その人数は年々増加し、昨年より673名と大幅に増加している。こうした方々の教育力を生かした教育活動を展開していく上で、教育課程上の位置付けと共に教員と学校支援ボランティアとの役割分担を明確にすることも大切である。今後とも、学校支援ボランティア等の意見を学校運営に生かし、質の高い学校経営に努めることを期待する。

学校評価を生かした学校の改善について、各学校ともに学校運営の質的改善を目指して、学校評議員会や学校支援ボランティア、地域協議会、学校関係者評価委員等の意見を真摯に踏まえ、評価視点、評価項目、評価方法、評価時期等を明確にし、実効性のある評価活動に努めていることが伺える。こうした取り組みによって、教職員の学校経営参画意識、児童・生徒の教育活動への関わり方、保護者や地域住民の学校経営への関わり方がどう変容しているかを把握し、更に充実した学校になるよう、学校・家庭・地域社会が一体となって、学校運営を進めていくことを期待する。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉 〈福田 幸男 氏〉

「地域への情報発信と学校公開の工夫」

様々な教育課題の解決に向けての取り組みに対して、家庭や地域社会との連携が求められる。その為に、積極的な情報発信と保護者などからの声に丁寧に耳を傾ける姿勢が必要である。各校とも、その積極的に取り組んでいるが、一部、ホームページの更新などが十分でない学校もある。

担当者の負担など様々な理由が考えられるが、他の媒体を併用しながら対応していただきたい。逗子中学校の「毎日を学校公開日」とする試みは、目標を達成できなかったものの、評価できる提案である。できれば、定着を目指して継続していただきたい。

「地域教育力の活用」

地域の多彩な人的・物的なリソースを教育に生かす試みが定着し、それぞれの特色が発揮されてきていることを評価する。たとえば、沼間中学校における、「教科の授業に地域講師や学校教育支援ボランティアの活用」は、他校の参考となり得る。こうした活動の成果を各学校が共有できる仕組みが必要である。

「学校評価を生かした学校の改善」

自己点検・自己評価に加えて、学校関係者評価を実施し、次年度の学校運営に確実に反映する仕組みが定着してきたことを評価する。いわゆるPDCAサイクルを確実に実現するためには、明確な目標の設定、更には評価の手続きの精選、評価結果に基づく教育活動の見直しや改善が求められる。また、これに関わる関係者の共通理解も肝要である。

教育委員会にあっては、各校の学校評価を踏まえた、適切な支援、施設整備、人的な配置への迅速な対応が求められる。せっかくの改善案がタイミングを失って、絵に描いた餅にならないように配慮すべきである。

Ⅲ 教員の指導力向上

<目 標>

教育において、教員一人ひとりが専門家としての高い指導力と教育に対する情熱と使命感、そして豊かな人間性を持って教育に打ち込むことが大切です。一人ひとりの力量を高めることで教員、ひいては学校全体の信頼を高めることにつながります。

1 教員研修・研究の充実

① 授業研究の充実

【 目 標 】

学校教育において、中心となるのは授業です。授業は、教育の専門家である教職員が計画し、知識・技能の習得、活用そして子どもの自発的な探究活動を重視して展開されるものです。そのため、教職員には、具体的な授業計画の立案と優れた実践力が必要です。学習指導の充実に向けた校内研究は多岐にわたりますが、支柱をなすものは授業研究です。その成果の一つとして行う研究授業では、視点を明確にし、提案性のあることが重要なポイントとなります。また、研究授業は、授業者だけでなく全員が積極的にかかわり研究を推進し、成果を共有することに大きな意義があります。

授業研究の活性化を図り、質の高い授業を構築するためには、外部講師の招聘や他校の研究授業、研究発表会への積極的な参加が求められます。

各小中学校における平成 25 年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校

【目標】

- I 本校の研究テーマを踏まえた授業実践、又は、文化教育ゾーンの中にあるという立地条件を生かした授業実践を行う
- II 外部講師による授業評価等を参考にした取り組みを進める

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 体育を中心とした研究推進の中で授業公開・授業研究を行った。また、文化教育ゾーンの施設活用を行った。
- II 研究授業および事前検討等で指導助言等を受け、授業に活かすよう心がけた。

沼間小学校

【目標】

- I 授業研究の日常化をめざす
- II 外部講師を招聘し、授業研究を開いた形で進める
- III 授業研究を公開し、学校間の実践交流を進める

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- I 本校の学校文化として授業づくりは定着している。今年度も積極的に専門的な講師を招聘し進めていて、参加職員の満足度も高い。

久木小学校

【目標】

- I 委託研究推進校として、取り組んだ成果を研究発表会において発表する
- II 外部講師の活用を積極的に行う

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 全担任が算数科を中心に公開授業を実施した。研究を通して確認できた子どもの姿をもとに、次年度への課題を明確にすることができた。
- II 外部講師の研修を受けることで、授業づくりの具体について学ぶことができた。

小坪小学校

【目標】

- I 学習指導案の事前研究、研究授業、事後研究など、校内研究の充実を図る
- II これまでの取り組みを検証し、成果と課題を明確にし、次につながるまとめをする

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 学年・ブロックを主体とした授業研究が活発に行われた。
- II 市内だけでなく、近隣の地区にも呼びかけた研究全体会を実施し研究の成果と課題を発表することにより、次につながるまとめをすることができた。

池子小学校

【目標】

- I 中学校との連携による授業実践と6年間の指導体系の見直しを図る
- II 学校全体としての指導力向上に向けた取り組みの成果を検証し、改善を図る

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 学年ブロックごとにめざす子どもの姿や達成のための手立てを設定してブロックごとの事前研究を行い、縦のつながりを重視した校内研究をすすめた。
- II 外部の講師を招いて校内研究の内容に具体的な指導を受け、指導力の向上を図ることができた。

逗子中学校

【目標】

- I 学習評価の工夫による授業改善
- II 授業研究の積極的実践（1人年2回以上）の実施
- III スーパーバイザー、横浜国立大学附属横浜中学校を活用した研究の充実
保護者・学校関係者による授業評価の実施
- IV 教科会を中心とした組織的授業研究

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した
- IV 達成した

【成果と課題】

- I 校内研究の中で取り組んだ。
- II 一人年間2回の研究テーマに沿った授業公開を実施した。
- III すべて取り組んだ。
- IV 週1回の教科会を時間割に組み込んで取り組んだ。

久木中学校

【目標】

- I 研究授業の積極的な実践を推進し指導方法の工夫改善にや課題研修レポートの作成に役立てる
- II 指導助言に適切な講師を依頼し、研修の充実と指導力の向上を図る
- III 研修、研究会の成果を共有し教職員全体の資質向上を図る

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- I 研究授業後に授業案を見直し訂正したレポートの提出を義務化した。
- II 外部講師を招いての実践的研修会を計画的に行った。
- III 全体研修やグループ研究会を計画的に実施し成果の共有を図った。

沼間中学校

【目標】

- I グランドデザインを校内研究会で作成する
- II 年間1人2回は授業公開する

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I グランドデザインについて校内研究会で提案し、作成することができた。
- II 全員が授業公開をし、授業力向上に役立てることができた。

② 授業評価の活用

【 目 標 】

著しく変化する社会の中で、子どもたちの「確かな学力」を育むためには、日々の授業改善が必要です。多くの教職員が、よりよい授業を実践するためには、日々の不断の努力や研鑽を重ね、教職員一人ひとりの力量を高める必要があります。

それには、PDCAサイクルを意識した授業改善が大切です。つまり、授業のねらいを明確に示し(P)、実践し(D)、その過程や結果に対して適切な評価を行い(C)、次の計画や授業の改善を進めていくこと(A)です。

授業を適切に評価することが次の授業改善につながり、子どもたちの「確かな学力」の育成へと発展していきます。

そこで、日常の授業を質的・量的に評価し、指導に生かしていく体制づくりと、授業評価の活用に向けた教職員の取り組みを進めます。

各小中学校における平成 25 年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校

【目標】

- I 学校評価に関連した授業評価を実施する
- II 外部講師による授業評価を活用する
- III 児童の学力把握の調査を活用する

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- I 授業参観や学校へ行こう週間などの際に、授業に関する評価を保護者にしてもらった。
- II 研究授業の際の指導助言を授業に生かすよう取り組んだ。
- III 学年ごとに児童の学習状況を把握し活用を図った。

沼間小学校

【目標】

- I 学習状況調査の分析を活用する
- II 研究授業では授業評価も含めた観点から外部講師による指導助言を図る
- III 子どもの授業後の振り返りを活用した授業評価を進める

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- 授業評価の活用については児童の特性を生かし、視点を与えた感想記入等でも授業評価として活用している。

久木小学校

【目標】

- I 評価規準を生かした授業実践に取り組み、評価規準の見直し、検討を行う
- II 外部講師による授業評価のを生かした授業づくりを行う

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 指導と評価の一体化を踏まえ、評価規準を意識した授業づくりを進めることができた。
- II 研究授業の際の指導助言を授業に生かすように取り組んだ。

小坪小学校

【目標】

- I 指導と評価の一体化について教員の共通理解を深め、授業改善に努める
- II 校内研究を通し、授業評価を教員同士で行うことにより、研究に対する参画意識を高める

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 日々の授業参観や校内研究への取り組みにより、指導と評価の一体化については共通理解が図られ授業改善につなげることができた。
- II 学年、ブロックでの研究推進に意図的に取り組み、事前研、事後研の中で相互の授業評価が行われた。

池子小学校

【目標】

- I 授業評価に対する、教員の共通理解を深め、授業の改善に努める
- II 校内研究の中で、授業の評価を教員同士で行い、研究に全員で取り組む意識を高める

【評価】

I 達成した

II 達成した

【成果と課題】

I 学校関係者評価委員に校内研究の講師を兼ねていただくことにより、校内研究による授業改善をさらに進めることができた。

II 校内研究に取り組む意識が以前に増して高くなり、ブロックでの話し合いを活発に行うことができた。

逗子中学校

【目標】

I 保護者・関係者による授業評価の実施と授業改善

II 「生徒による授業評価」と「教員相互による授業評価」の実施と、課題を明確にした授業改善

【評価】

I 達成した

II 達成した

【成果と課題】

I 授業公開日に実施した。

II 校内研究と関連させて、すべて取り組んだ。

久木中学校

【目標】

I 校内研究における授業を中心として授業評価・改善活用を進める

II 生徒、保護者、外部関係者による授業評価を行い、より良い授業づくりに取り組み教育活動の向上につなげる

III 保護者・地域と連携した授業評価の取り組みを行い教育活動の向上につなげる

【評価】

I 達成した

II 達成した

III 達成した

【成果と課題】

I 全教職員が授業のユニバーサル化を意識して取り組むことができた。

II・III 授業アンケートを行い、評価を真摯に受け止め授業改善に繋げる取り組みをした。

沼間中学校

【目標】

I 生徒による授業アンケートは教科ごとに集計し、教科の課題として検証・改善をめざす

Ⅱ 授業参観では地域・保護者が評価しやすいように、新しい書式でアンケートを作成する

【評価】

I 達成した

Ⅱ 達成した

【成果と課題】

○ アンケート用紙は教員用保護者用と文言をわかりやすくする必要がある。

③ 研修事業の充実

【 目 標 】

一人ひとりの教職員がより一層専門性を高め、その力を最大限に発揮しながら学校の組織力を高めることが益々重要になってきています。そのため、各学校においては様々な研修が計画され、教育委員会においても教職員のニーズに応える研修事業を実施しています。教職員はこれら学校内外での研修会に積極的に参加し、質の高い授業を計画、実践することが大切です。

現在、教職員の大量退職と大量採用の時代にあって、ここ数年間で多くの教職員が入れ替わります。そのため、教職員のスキルアップを着実に図っていくために、学校内においてOJTを組織的に推進していくことが必要です。OJTは、勤務校で職務をとおして行う研修であり、すべての教職員を対象として、身に付けるべき力を、意識的・計画的・継続的に高めていくものです。教職員一人ひとりが専門性の向上を図ることで、学校全体として質の高い教育を提供することができます。

各小中学校における平成 25 年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校

【目標】

- I 各自が積極的に授業公開を行う
- II 自己研修の目的を明確にして研修を受ける
- III 初任者や経験の少ない教員を学校全体で育てる

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- I 校内研究推進においてほぼ全員が授業公開を行った。
- II 自己観察書研修目標で課題を明確にし、それに応じて研修を行うことができた。
- III 初任者の育成には学校全体で取り組んだ。

沼間小学校

【目標】

- I 校内研修体制を構築し、積極的に研修を進める
- II 児童理解、授業づくり等では学年会を日常的な研修の場としていく
- III 公開授業研究会等の研修の機会を生かし、期を逃さずに積極的な取り組みを促す

【評価】

- I 達成した
- II 達成した
- III 達成した

【成果と課題】

- 本校の学校文化として授業づくりは定着している。今年度も積極的に専門的な講師を招聘して進めている。

久木小学校

【目標】

- I 初任研、年次経験者研修において、校内協力体制を作り、研修指導に当たる
- II 校内及び校外の研修会、研究会への参加を促進する
- III 逗子市教育指導教員を積極的に活用する

【評価】

- I 達成した
- II 達成できなかった
- III 達成した

成果と課題

- I 計画的な研修が実施できた。
- II 校内研究において全担任が算数科を中心に研究授業を行った。教育研究所の各種研修会に積極的に参加した職員が増加した。しかしながら、校内における還流が課題である。
- III 臨任・非常勤だけでなく経験の浅い教員への指導にも活用することができた。

小坪小学校

【目標】

- I 自主的な教員研修が行われるよう、支援体制づくりをすすめ、時間の確保や機材等、環境の整備を図る
- II OJTを組織的に推進し、「チーム小坪」の協働を推進する

【評価】

- I 達成した
- II 達成できなかった

【成果と課題】

- I 各分掌の中から必要な研修について自主的に設定するようになり、必要な環境の整備に努めるようになった。
- II 年齢・経験年数のアンバランスから、ミドルリーダーの育成が難しく、組織的にOJTを推進するには至らなかった。

池子小学校

【目標】

- I 学校内のOJTを機能させ、自主的で活発な教員研修が行われるよう、時間の確保を図る
- II 授業づくりに直接つながるよう、研究研修部を中心に計画的に研究・研修を実施する

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 初任者に対しては、学校全体で指導・支援していく体制が作られている。
- II 他校の授業参観や発表会に参加することを通して、校内研究で課題となることや参考にしたことを明確にできた。また、研修会を設定し学力向上に向けてこれからの課題を明確にできた。

逗子中学校

【目標】

- I 計画的な校内研修会を通じた人材育成
- II 校内の人材育成（OJT）の取り組み強化・メンター制、BS制

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 1月に「コミュニケーション能力の向上」を目的に研修会を実施した。
- II 教員個々との面接を通して、メンター及びBS（Brother and Sister）を確認するとともに、メンタリングシートを対象者に配付した。

久木中学校

【目標】

- I 学校で行う教育活動全体において、教師が身につけておく必要性の高いものの研修を計画的に進め教職員の力量の向上を進める
- II 久木中「教師のスタンダード」づくりを推進する

【評価】

- I 達成した
- II 達成できなかった

【成果と課題】

- I 授業のユニバーサル化と関わって計画的に進め全教師の力量につながった。
- II 小中学校の教職員にアンケートを実施し、まとめている途中であり、来年度に向けて

取り組んでいる。

沼間中学校

【目標】

- I 支援が必要な生徒へのかかわり方や授業内での指導・支援方法について校内研修を企画し実践する
- II 研修に適切な日時を設定し、目的に応じて外部講師を活用し、研修の効果を高める

【評価】

- I 達成した
- II 達成した

【成果と課題】

- I 夏と年度末の休業中に研修を企画し、実践できた。
- II さらに学校の状況にあわせた研修を企画し、実践したい。

〈教育委員会分析結果〉

1 平成25年度に教育委員会が実施した主な「●事業」と学校への「▲指導内容」

(1) 主な事業

- 研究推進校委託事業
- 校内研究事業
- 教育講演会

「生活習慣と学力・気力・体力・健康」

講師 小澤 治夫 氏（東海大学体育学部体育学科教授）

- 少人数指導教員・教育指導教員派遣事業
- 学校教職員研修資料費

(2) 主な指導内容

- ▲初任者研修、経験者研修、OJTによる若手教員研修の充実
- ▲夏季研修、授業力向上研修
- ▲臨任・非常勤教員への研修

2 各学校の自己評価を総合した市立全校の実践評価と主な成果等

(1) 市立全校の実践評価（項目別達成率 94.8%）

(2) 主な成果等

【授業研究の充実】

- ・「言語活動」「コミュニケーション力」「自ら学び考える力」「学びあい」「人のかかわりあい」「自分の考えを表現できる子ども」といった内容を授業研究のテーマとして設定し、各学校において新学習指導要領に対応するための授業研究に取り組んだ。

【授業評価の活用】

- ・外部講師、保護者等の第三者からの視点を加味する等、多様な観点からの授業評価を行い、精度の向上を図っている。

【研修事業の充実】

- ・目的に応じた外部講師を活用し、研修の効果を高めることができた。

3 教育委員会の自己評価と主な成果等

(1) 教育委員会の自己評価〔A〕

コメント 教員の授業力向上のために、少人数指導教員・教育指導教員の各学校への派遣や、市内全小・中学校への授業研究委託をした。

(2) 主な成果等

【授業研究の充実】

- ・各学校において、校内OJTを推進し、特に若手教員に対する組織的・計画的なベテラン教員からの指導に取り組んだ。
- ・少人数指導教員・教育指導教員派遣事業による教員経験の浅い臨時的任用教員及び非常勤講師に対する研修を実施した。

【研修事業の充実】

- ・支援教育に関する研修は、「教育相談研修講座」や夏季研修会を通して、学校現場のニーズや今日的課題に対応した講座を設定した。
- ・教科等に関する研修は、夏季研修会や授業力向上研修を通して、実践的に進めた。

4 平成26年度に向けて必要とされる主な事業及び指導内容

【授業研究の充実】

- ・授業研究を柱とした校内研究を全ての学校に委託し、授業力の向上と授業研究の充実を図る。

【授業評価の活用】

- ・授業についての自己チェックリストの活用を促す。

【研修事業の充実】

- ・初任者研修のより効果的なあり方と内容を考える。また、校内OJTの一層の推進を図る必要がある。
- ・夏季研修、授業力向上研修等の一層の充実を図り、教職員のニーズや経験年数に応じた研修の質的向上を図る。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉〈久保田 貢 氏〉

昨年書かせていただいたが、平成17年に公表された中央教育審議会「新しい時代の義務教育を創造する」の中で、「教師のあるべき姿」の一つとして、「教育の専門家としての確かな力量」が指摘されている。その中核をなすのが教師の授業力である。「教師は授業で勝負する。」とあるが、まさに、授業の成否で、子どもの学習意欲や学習習慣や学び方、更には確かな学力の育成等に大きな影響を与える。

子どもにとって、「魅力ある分かる授業」「新鮮さを感じる授業」は、学習意欲が沸き、自ら考え自ら解決に取り組む姿勢をつくる。

そのためにも、日々の授業を振り返り、教師自身の自己評価や子どもの評価などを基に指導内容（教材を含む）や発問の仕方や子どもの声の取り上げ方、板書の仕方、指導の流れ等を見直し・計画し、より子どもにとって「魅力ある分かる授業」を展開していくことである。こうした日々の取り組みの繰り返しによって、授業力は高まり、子どもにとって「楽しい充実した授業」が味わえることになる。

このことが授業改善である。特別に何かを設ける必要もない。大事なことは、教師の授業に対する姿勢や価値観を高めるということである。日々の実践の中で、子どもの言葉や同僚や管理職の指摘等を踏まえて、自ら授業を振り返り、PDCAを繰り返しながら、より質的に高い授業を展開するかということである。

各学校共に、研究授業や授業研究や外部講師を招いた研究会等を年間の学校教育全体計画に位置付け、教師の指導力の向上に努めていることが伺える。要は、教師自身の構え方にかかっている。

その中で、管理職は、若い教師が増えている現状を踏まえ、研修の機会を設け、受講の機会を拡げると共に、管理職自らがきめ細かな指導に努め、教師の人間力や教師力等を高めることが大切である。

今、学校は、社会や保護者の要請を受けて様々な課題を抱え、ハイレベルの教育理念に裏打ちされた学校運営が求められている。そのためにも、教師一人ひとりの教育に対する意識の高揚が求められており、OJTによる研修は極めて効果的である。中堅教員が少ない中で、5年後、10年後を見据えて、将来、学校運営の核となる若手教員のキャリアアップを図るよう、管理職を始め教育委員会が、若手教員を様々な役職に積極的に登用すると共に、質的レベルの高い研修会や研究会に参加できる体制を組織化することである。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉 〈福田 幸男 氏〉

「教員研修・研究の充実」

学校教育の柱である教職員、その指導力の向上は各学校さらには逗子の教育への信頼に深く関わる問題である。特に、大量退職に伴い教職員の入れ替えが進む中で、保護者からの関心も強い。

授業研究の活性化を図るために、外部講師の招聘や他校の研究授業等への参加はもちろんであるが、沼間小学校の目標にある「授業研究の日常化」こそが基礎となると考える。その為の校内体制や教職員間の連携協力の強化が求められる。

「授業評価の活用」

本格的な授業評価も活用できるが、子どもの授業後の振り返り、指導の評価の一体化を進める中での授業改善が大事であり、日々の教育活動の教師の振り返りが求められる。児童・生徒さらには保護者の評価を真摯に受け止める姿勢が求められる。評価に関するアンケート調査で特に注意すべき点は、盛り込む項目と評価手続きである。評価が改善につながる仕組みをデザインすべきである。また、アンケート調査の限界を踏まえ、インタビューなど児童・生徒の生の声を聞く機会を設ける必要もある。「耳の痛い感想」こそ、真に求められる改善点である。

「研修授業の充実」

初任者を初めとする経験の浅い教職員の研修がともすれば話題となるが、経験を積んだ教職員に関しても、同様に研修が求められる。常に研鑽を重ねることが教職員の責務である。初任研など校外での研修が充実している初任者についても、基本はOJTを実施することが基本である。臨任や非常勤、経験の浅い教職員についても、同様の手厚い対応が求められる。

年齢構成の問題から、ミドルリーダー層が手薄である。次世代の育成についても、積極的な対応を考えなければ、組織的な運営に支障がでることも予想される。

久木中学校の提案している「教師のスタンダード」づくりを注目したい。逗子中学校のメンター制、BS 制も全市として取り組んでいくべき提案である。その拡がりを期待する。

○社 会 教 育

1 点検・評価の実施方法

逗子市教育委員会における社会教育の充実に向け、社会教育係の所管する事業のうち、事務的経費や維持管理費等を除き、講座等の事業を中心に平成25年度の実施状況について評価を実施し、お知らせするものです。

なお、埋蔵文化財保護や史跡整備を主とする文化財保護関連事業につきましては、文化庁の示すガイドラインに沿って中長期の事業計画を策定し実施しておりますが、制度上は単年度事業として位置付けられ、年度ごとの事業の審査を経て、補助対象としての採択が決定するため、状況によっては計画どおりの事業内容で進められないこともあり、今回実施した点検・評価の対象から除外しております。

2 点検・評価の記載方法

社会教育課で所管する各事業について、事業ごとに目標を掲げ、取り組みの概要を記載しています。なお、評価の客観性を確保するため、社会教育委員会議において評価を行っています。

3 報告内容の構成

それぞれの事業における「目標の反映度」、「対象者の満足度」、「広報の充実度」、「目標の達成度」の4つの項目について教育委員会が評価を行うとともに、今後の課題をまとめています。「目標の反映度」とは、事業内容が目標を反映したものになっているかどうか、「目標の達成度」とは、事業を実施した後に成果を得られたか否かを評価したものです。なお、「広報の充実度」については、講座等広く周知するものに限り評価を行っています。

4つの項目の評価については、問題点が見受けられないものについては「A」、若干の問題点があるものについては「B」、大きな問題点があるものを「C」とし、社会教育委員会議において討議した上で評価しています。

さらにそれぞれの項目の評価が「A」であるものは3点、「B」は2点、「C」は1点として平均値を出し、その平均値が2.5点以上を「A」、1.5点以上2.5点未満を「B」、1.5点未満を「C」とした事業ごとの総合評価を行っています。

なお、総合評価で「A」と評価した事業は、高い事業効果が認められ、今後も継続する事業、「B」と評価した事業は、軽微な問題点がいくつかあるが、改善を加えた上で継続する事業、そして「C」と評価した事業は、問題点が多く、廃止も視野に入れた大幅な見直しが必要な事業としています。

4 点検及び評価の結果

各種講座事業

【 目 標 】

市民のより高度な学習要求に応えます。

平成 25 年度の取り組み及び評価と課題

- 社会教育講座の開催
- 料理教室の開催
- パソコン教室の開催

【評価】

総合評価… A

- 社会教育講座

目標の反映度… A 対象者の満足度… A 広報の充実度… A 目標の達成度… A

- 料理教室

目標の反映度… A 対象者の満足度… A 広報の充実度… A 目標の達成度… A

- パソコン教室

目標の反映度… A 対象者の満足度… A 広報の充実度… A 目標の達成度… A

【成果】

社会教育講座については現代的課題を扱い、満足度も高いものとなった。

メディアリテラシーと地域づくりボランティアをテーマとしたフェイスブック講座は、幅広い年代や各地域の参加者が集まり、講座の理解度も高かった。

料理教室については非常に人気の講座であり、満足度が高い講座になっている。地産地消のメリットや、逗子市食育推進計画についての説明を行うなどの配慮がなされている。

パソコン教室についても、使用テキストや講師の説明が分かりやすいと満足度も高いものになった。

【課題】

社会教育講座については、現代的課題に対する関心を高めると同時に、特にごみの減量化に関する講座等は、継続して受講している参加者も多いようであるが、参加者が受講後に学んだことを継続して実践していけるよう、関係する所管課と連携しながら見守っていく工夫が必要である。

料理教室については、参加者が受講後に再度実践しやすい材料や調味料を使用するなど、講師と事前に調整することが望ましい。

パソコン教室については、全体的に丁寧な説明だったと満足度は高いが、後半の説明の時間が不足しないようなペース配分に配慮する必要がある。

学校開放事業

【 目 標 】

市民の生涯学習の場を提供し、生涯学習の推進を図ります。

平成25年度の取り組み及び評価と課題

- ・小学校校庭及び余裕教室を児童・生徒、地域サークル等に開放

【評価】

総合評価…A

目標の反映度…A 対象者の満足度…B 目標の達成度…A

【成果】

活発に利用されており、市民の生涯学習の場として定着している。

【課題】

施設の使用許可や管理について、体育施設は市民協働部文化スポーツ課、開放教室は社会教育課というように、市民にとってわかりにくい仕組みになっている。市民にとって利用しやすい仕組みにするため、今後も文化スポーツ課との調整や仕組みの整理が必要である。

人権・同和教育等事業

【 目 標 】

市民の学習機会の充実を図るとともに人権問題についての正しい認識を深めます。

平成 2 5 年度の 取 り 組 み 及 び 評 価 と 課 題

- ・ 人権教育講演会の実施
- ・ 啓発新聞等の購読
- ・ 人権教育研修への参加
- ・ 人権啓発パンフレット印刷

【評価】

総合評価…A

目標の反映度…A 対象者の満足度…A 広報の充実度…A 目標の達成度…A

【成果】

非常に関心が高く、満足度が高い講演会であり、復興と人権をテーマにした講演の休憩時間に行われた、市内被災地支援団体で活動している子どもたちによるステージも好評であった。

【課題】

終了時間が遅いことも影響し、アンケートの回収率が低いため、冒頭や終了時だけでなく休憩時間にも提出の呼びかけを行い、アンケートの回収箱を増やすなど、さらに工夫を行う必要がある。

家庭教育推進事業

【 目 標 】

家庭教育に関する学習の機会を提供し、家庭の教育力の向上をはかります。

平成 25 年度の取り組み及び評価と課題

- ・家庭教育講座の実施

【評価】

総合評価…A

目標の反映度…A 対象者の満足度…A 広報の充実度…B 目標の達成度…B

【成果】

実践的な講座や、具体的な内容を話し合うことができるグループワーク形式など、子育て中の保護者に関心の高い内容になっており、満足度も高かった。

【課題】

さらに参加者を増やし、参加者同士がつながり地域活動のきっかけとなる、強い動機づけと仕組みが必要である。

小坪公民館まつり事業

【 目 標 】

小坪公民館の利用者同士の交流、サークル活動の活性化をはかり、地域コミュニティを醸成します。

平成 25 年度の取り組み及び評価と課題

- ・小坪公民館まつり実行委員会の企画運営のもと、サークルの演技や作品の展示

【評価】

総合評価…A

目標の反映度…A 対象者の満足度…A 広報の充実度…A 目標の達成度…A

【成果】

サークル活動の発表の場、地域のまつりとして定着していたが、今回の小坪公民館まつりが、公民館転用前の最後の開催となったため、「さよなら公民館まつり」として、少ない予算の中、工夫して行われた。

【課題】

サークル活動の発表の場や地域のまつりとして浸透していた行事を、コミュニティーセンターとしての転用後、いかに実施するか検討する必要がある。

小坪公民館図書貸出事業／沼間公民館図書貸出事業

【 目 標 】

地域住民の教養の向上とともに情操を養い、心豊かな生活と文化の振興に寄与します。

平成25年度の取り組み及び評価と課題

- ・市立図書館と連携をはかり、地域住民の要望する図書・雑誌等を提供

【評価】

総合評価…A

目標の反映度…A 対象者の満足度…A 目標の達成度…A

【成果】

市立図書館との連携が図られ、地域の図書館として機能している。

【課題】

公民館の転用による運営形態の変更後も、利用者へのサービスを維持できる体制を整える必要がある。

小坪公民館学級講座事業／沼間公民館学級講座事業

【 目 標 】

地域住民の教養の向上、健康増進及び情操を養い、サークル活動等へ発展を促し、利用者の拡大と生涯学習への動機づけを行います。

平成 2 5 年度の取り組み及び評価と課題

- ・各種講座の実施

【評価】

総合評価…A

目標の反映度…A 対象者の満足度…A 広報の充実度…B 目標の達成度…A

【成果】

趣味教養を中心に多くの講座が開催されており、地域住民に浸透している。

【課題】

募集人数の少ない講座を実施していることや、当日のキャンセルが多いことから、講座によっては受講者の少ないものも見受けられる。

今後は即時性のあるツイッターなどの広報手段をもちいて、受講者のキャンセルに対応するなどの工夫をしていく必要がある。

〈社会教育委員会議からの意見、助言〉

教育委員会社会教育課は、範囲の広い社会教育のうち、行政として抱えている現代的課題を市民に対し啓発するための講座、講演会等を開催することを中心に事業を行っています。実施にあたっては、テーマ、内容に応じ、市民協働部、福祉部、環境都市部その他の市長部局の各課における啓発関連事業との共催や連携を積極的に行っているとの報告を受けています。

社会教育委員会議においても、一昨年度より社会教育事業評価を行うなど、より良い事業運営のための助言を行っています。今回、平成 25 年度の事業について点検・評価を行いました。実施にあたっては、講座、講演会の際に行われるアンケート調査結果を基礎資料としています。その結果、各事業とも若干の問題点をかかえているものの、幅広く多くの課題を扱い、概ね市民の満足度が高く、充実している様子が見受けられます。

社会教育関連事業の評価については、現在は単年度ごとの事業計画について行っており、今後は逗子市の社会教育の方向性を定め、中長期的な視点にたち事業計画を立てる必要があるため、平成 27 年度に向けて（仮称）社会教育総合プラン策定の準備を進めています。

なお、文化財保護関連事業については、主たる事業が、名越切通整備事業、古墳整備事業、文化財保護事業となっており、逗子市総合計画実施計画の中で進捗管理、評価が行われています。また、埋蔵文化財保護事業については、文化財保護法、神奈川県文化財保護条例に基づき行われる保護措置であり、法定受託事務的な要素の強いものです。

これらは、文化庁の進捗管理の下、国の判断により補助事業化が認められ、事業の内容についても文化庁の許可と指導により行われるものです。これに合わせて県の随伴補助を受けて実施されているもので、文化庁の示すガイドラインに沿って中長期の事業計画を策定しているものの、単年度ごとの事業ヒアリングという審査を経て、翌年度の補助事業化が図られることから、国庫補助の状況によっては、必ずしも既に策定した事業計画どおりに事業が進められるものではないとのことです。

このようなことから、文化財保護関連の事業については、今回実施した点検・評価の対象事業としなかったことが理解できるものであり、また、事業計画を策定する場合にも対象から除外することがふさわしいと考えます。

今後、社会教育委員会議としては、（仮称）社会教育総合プラン策定に向けて準備を進めていく中で評価方法についてもよりよい方法を検討していきます。

○参 考 資 料

平成 25 年度の教育委員会の活動状況

1 教育委員（右欄の（ ）内は委員任期）

教育委員長	竹村 史朗（平成 19. 11. 13～27. 11. 12）（委員長 H23. 6. 26～）
委員長職務代理者	山西 優二（平成 20. 12. 17～28. 12. 16）（職務代理者 H23. 6. 26～）
委員	桑原 泰恵（平成 21. 12. 1～29. 11. 30） 横地 みどり（平成 23. 6. 26～27. 6. 25）
教 育 長	青池 寛（平成 22. 6. 21～26. 6. 20）

2 教育委員会開催状況（平成 25 年度実績）

定例会 1 2 回開催

3 教育委員会審議案件

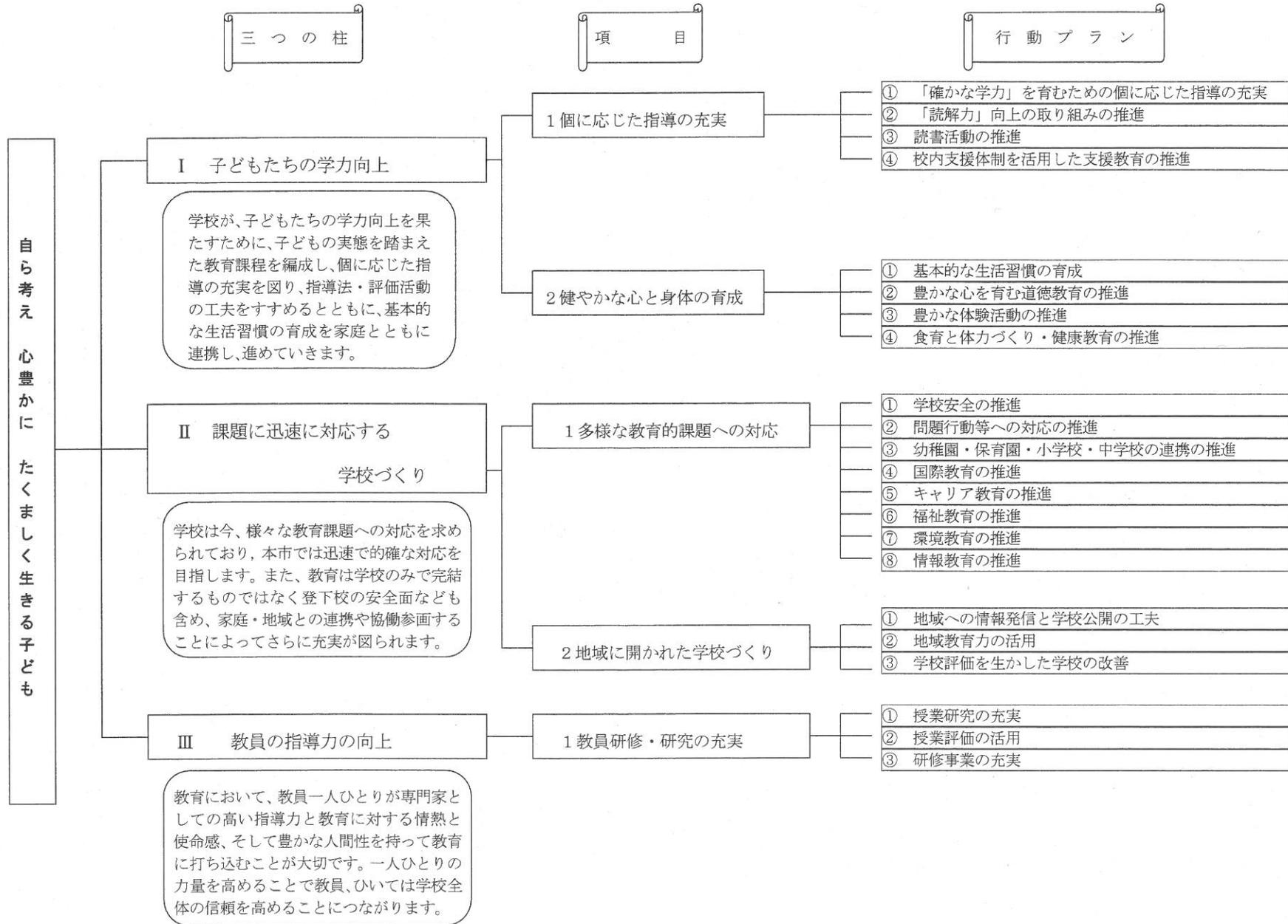
4 月定例会	平成 25 年 4 月 17 日（水） 日程第 1 教育長報告事項について 日程第 2 報告第 8 号 教育委員会職員の人事について 日程第 3 報告第 9 号 平成25年度逗子市奨学金受給者の給付決定について 日程第 4 報告第10号 逗子市社会教育委員の辞任及び任命について 日程第 5 議案第11号 平成25年度工事計画の策定について 日程第 6 議案第12号 逗子市立図書館協議会委員の辞任及び任命について 日程第 7 議案第13号 逗子市立体育館指定管理者候補選定委員会委員の委嘱について 日程第 8 その他
5 月定例会	平成 25 年 5 月 14 日（火） 日程第 1 3 月定例会会議録の承認について 日程第 2 教育長報告事項について 日程第 3 議案第14号 逗子市立体育館指定管理者候補選定委員会に対する諮問について 日程第 4 その他
6 月定例会	平成 25 年 6 月 18 日（火） 日程第 1 4 月定例会会議録の承認について 日程第 2 5 月定例会会議録の承認について 日程第 3 教育長報告事項について 日程第 4 報告第11号 逗子市教育委員会事務決裁規程の一部改正について 日程第 5 報告第12号 議案（平成25年度逗子市一般会計補正予算（第 2 号））作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について 日程第 6 委員長の選挙について 日程第 7 委員長職務代理者の指名について 日程第 8 その他
7 月定例会	平成 25 年 7 月 23 日（火） 日程第 1 6 月定例会会議録の承認について 日程第 2 教育長報告事項について 日程第 3 報告第13号 教育委員会職員の人事について 日程第 4 報告第14号 平成25年度逗子市奨学金受給者の追加採用について 日程第 5 議案第15号 教科用図書の採択について 日程第 6 議案第16号 逗子市立体育館条例の一部を改正する条例の施行期日を定める規則の制定について

日程第7	議案第17号	逗子市立体育館条例施行規則の一部改正について
日程第8	議案第18号	教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施方針について
日程第9	その他	
8月定例会	平成25年8月28日(水)	
日程第1	7月定例会会議録の承認について	
日程第2	教育長報告事項について	
日程第3	議案第19号	議案(教育長の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する条例の一部改正について)作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について
日程第4	議案第20号	議案(逗子市立体育館の指定管理者の指定について)作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について
日程第5	議案第21号	議案(平成25年度逗子市一般会計補正予算(第4号))作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について
日程第6	その他	
9月定例会	平成25年9月24日(火)	
日程第1	教育長報告事項について	
日程第2	その他	
10月定例会	平成25年10月22日(火)	
日程第1	8月定例会会議録の承認について	
日程第2	教育長報告事項について	
日程第3	報告第15号	教育委員会職員の人事について
日程第4	議案第22号	逗子市教育委員会点検・評価に関する報告書について
日程第5	その他	
11月定例会	平成25年11月19日(火)	
日程第1	9月定例会会議録の承認について	
日程第2	教育長報告事項について	
日程第3	報告第16号	議案(平成25年度逗子市一般会計補正予算(第5号))作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について
日程第4	議案第23号	逗子市立中学校給食調理等業務に係る委託事業者の決定について
日程第5	議案第24号	逗子市社会教育委員の選任について
日程第6	その他	
12月定例会	平成25年12月24日(火)	
日程第1	教育長報告事項について	
日程第2	陳情第1号	逗子市立図書館が直営のまま運営を続けることを求める陳情
日程第3	その他	
1月定例会	平成26年1月21日(火)	
日程第1	10月定例会会議録の承認について	
日程第2	教育長報告事項について	
日程第3	報告第1号	教育委員会職員の人事について
日程第4	議案第1号	議案(逗子市立図書館条例の全部改正及び逗子市社会教育委員条例の一部改正について)作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について
日程第5	その他	
2月定例会	平成26年2月25日(火)	
日程第1	11月定例会会議録の承認について	
日程第2	12月定例会会議録の承認について	
日程第3	教育長報告事項について	
日程第4	報告第2号	議案(平成26年度逗子市一般会計予算)作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について
日程第5	報告第3号	議案(平成25年度逗子市一般会計補正予算(第8号))作成に関する逗子市教

	育委員会の意見聴取に対する回答について
日程第6	報告第4号 県費負担教職員の任免の内申について
日程第7	その他
3月定例会	平成26年3月24日(月)
日程第1	1月定例会会議録の承認について
日程第2	教育長報告事項について
日程第3	議案第2号 議案(逗子市スポーツ推進審議会条例の一部改正について)作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について
日程第4	議案第3号 逗子市社会教育委員会議規則の全部改正について
日程第5	議案第4号 逗子市文化振興基本計画調査・評価委員会規則等の一部改正について
日程第6	議案第5号 逗子市体育館条例施行規則の一部改正について
日程第7	議案第6号 逗子市教育委員会事務決裁規程及び逗子市教育委員会管理職職員業績評価規程の一部改正について
日程第8	議案第7号 事務の委任及び補助執行について
日程第9	議案第8号 逗子市文化財保護委員会委員の任命について
日程第10	議案第9号 教育財産の用途廃止について
日程第11	その他

4 教育委員 主な活動状況

	教育委員会会議	その他の主な活動
4月	定例会(4/17)	勉強会(4/9) 神奈川県市町村教育委員会連合会(4/10)
5月	定例会(5/14)	勉強会(5/8) 市長との懇談(5/28)
6月	定例会(6/18)	小学校運動会(6/1.8) 勉強会(6/4)
7月	定例会(7/23)	学校訪問(7/2.5.9.10) 勉強会(7/2)
8月	定例会(8/28)	市長との懇談(8/16) 勉強会(8/16) 神奈川県市町村教育委員会連合会役員会(8/23)
9月	定例会(9/24)	勉強会(9/17) 中学校体育祭(9/21)
10月	定例会(10/22)	市長との懇談(10/9) 小学校運動会(10/19) 小・中学校「学校へ行こう週間」(10/30.31,11/5.6.7.8.12)
11月	定例会(11/19)	神奈川県市町村教育委員会連合会研修会(11/1)
12月	定例会(12/24)	
1月	定例会(1/21)	勉強会(1/15)
2月	定例会(2/25)	社会教育委員との懇談(2/19) 勉強会(2/19)
3月	定例会(3/24)	勉強会(3/4) 中学校卒業式(3/13) 小学校卒業式(3/20)



平成23年度～平成25年度 学校による点検及び評価の推移(逗子小学校)

I 子どもたちの学力向上 — 1 個に応じた指導の充実

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
① 「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実			①基礎・基本の定着に向けた授業改善 ②言語活動の充実に向けての研究推進 ③外国語活動の計画的な実践の推進
			(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
			成果と課題 ①校内研究を通して、学年を単位とした教材研究や指導法の検討を進め、授業改善につとめた。 ②委託研究と並行して思考力・判断力を育て高めるための言語活動の充実について取り組みを進めた。また、体育科授業研究を進め11月に研究発表を行った。 ③担当を中心に研修会を行い、時間割表の位置づけと年間計画を作成、実践に取り組んだ。
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
② 「読解力」向上の取り組みの推進	①言語活動・コミュニケーション力向上に関する授業実践 ②発達段階に応じた読書活動の推進 ③前年度の検討に基づく授業改善	①言語活動・コミュニケーション力向上に関する授業の実践と検証 ②発達段階に応じた読書活動の推進 ③指導法の工夫改善	①言語活動・コミュニケーション力向上に関する研究推進 ②思考力・判断力・表現力の向上に向けての取り組みの検討
	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①と③については、校内研究で取り組み、研究発表を行った。 ②については、学校独自では課題図書を選定することはできなかった。	成果と課題 ①と③については、委託研究において思考力・判断力を育てるという視点から効果的な言語活動の在り方について研究を進め、研究成果については研究発表を行った。 ②については、学校独自の課題図書を選定するまでには至らなかった。	成果と課題 ①・② 委託研究において思考力・判断力を育てるという視点から効果的な言語活動の在り方について研究を進め、研究成果については研究発表を行った。 ② 授業参観等で管理職も積極的に指導に当たった。
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
③ 読書活動の推進	①学校図書館の整備と充実 ②読み聞かせボランティア、図書館ボランティアの充実と活用の推進 ③市立図書館の積極的な活用	①学校図書館の整備と充実 ②読み聞かせボランティア、図書館ボランティアの各学年・クラスへの定着 ③市立図書館の積極的な活用	①学校図書館の整備と充実 ②読み聞かせボランティア、図書館ボランティアの活用推進 ③市立図書館との連携の推進
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	成果と課題 ①については、学校図書館指導員の指示のもとで図書委員・図書館ボランティアにより、図書室は常に使いやすいように整理整頓されていた。 ②については、学校支援地域本部事業の中で整理をし、市民活動ポイントの対象とした。 ③については、市立図書館の活用が昨年よりも進んだ。	成果と課題 ①については、学校図書館指導員の指示のもとで図書委員・図書館ボランティアにより、図書室の整理整頓を進めた。 ②については、各学年と連絡調整を行い、年間実施計画を立てて取り組みを進めた。 ③については、使用学年・学級が増え活用が進んだ。	成果と課題 ①学校図書館指導員の指示のもとで図書委員・図書館ボランティアにより、図書室の整理整頓を進めた。 ②各学年と連絡調整を行い、年間実施計画を立てて取り組みを進めた。 ③使用学年・学級が増え活用が進んだ。
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
④ 校内支援体制を活用した支援教育の充実	①校内支援チームの取り組みの充実 ②6年間の学びと育ちを踏まえた支援教育の検討と実践 ③スクールカウンセラーなど外部専門機関との連携の充実	①校内支援チームの取り組みの充実 ②中学校との連携を踏まえた支援教育の検討と実践 ③スクールカウンセラー、巡回相談員、うらおいフレンドや外部・専門機関との連携の充実 ④支援教室の活用を進める	①校内支援会議等を通して情報共有と組織的な取り組みを推進 ②保護者との密な連携による支援の実践 ③校内支援体制を確立し外部専門機関との連携を推進
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した ④ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	成果と課題 ①については、児童理解研修会を行うとともに、職員会議では支援の必要な児童についての情報交換を行った。また、校内支援委員会では教育相談コーディネーターを中心に具体的な支援の手立てを検討し、実施した。 ②については、支援が必要な児童の保護者と心理の専門家や外部機関と連携を取り、支援の方法や内容について共通理解を図り、巡回相談員の手も借りて実践した。 ③については、心理の専門家や外部機関と連携を取り、支援の方法や内容についてアドバイスをいただいた。また、保護者の対応についても支援していただいた。	成果と課題 ①については、年3回の児童理解研修会を行うとともに、毎月の職員会議で情報交換を行った。また、校内支援会議では教育相談コーディネーターを中心に具体的な支援の手立て等を検討し、実施した。 ②については、支援が必要な児童の保護者と心理の専門家や外部機関と連携を図り、支援の方法や内容については職員間で共通理解を行い、巡回指導員の手も借りて実践した。 ③については、心理の専門家や外部機関と連携を取り、支援の方法や内容についてアドバイスを受けた。また、保護者の対応についても支援してもらった。 ④については、支援教室の整備を行い、児童の個別支援や保護者相談の場として活用した。	成果と課題 ①年3回の児童理解研修会を行うとともに、毎月の職員会議で情報交換を行った。また、校内支援会議では教育相談コーディネーターを中心に具体的な支援の手立て等を検討し、実施した。 ②支援が必要な児童の保護者と心理の専門家や外部機関と連携を図り、支援の方法や内容について職員間で共通理解を行い、巡回指導員の手も借りて実践した。 ③心理の専門家や外部機関と連携を取り、支援の方法や内容についてアドバイスを受けた。また、保護者の対応についても支援してもらった。

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成	<p>①あいさつ運動の推進</p> <p>②基本的な生活習慣育成について学校から発信し、PTAとともに取り組んでいく。</p> <p>③学級懇談、個人面談等の機会を利用して保護者との連携を深める。</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①については、児童会中心に取り組みを進めた。学校評価アンケートでも保護者の思いを聞いた。</p> <p>②については、日頃から児童には指導をしているものの、保護者向けに基本的な生活習慣育成のための情報発信を、PTAと連携をとりながら積極的にすることはできなかった。</p> <p>③については、各クラスできていた。</p>	<p>①あいさつ運動の推進</p> <p>②基本的な生活習慣育成について学校から発信し、PTAとともに取り組んでいく</p> <p>③学級懇談、個人面談等の機会を利用して保護者との連携を深める</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①については児童会中心に取り組みを進めた。学校評価アンケートでも保護者に評価を聞き指導に生かしている。</p> <p>②については、児童への指導やPTAと連携は進めてきたが、保護者を巻き込んだ取り組みとはなっていない。</p> <p>③については、各クラスで取り組んでいる。</p>	<p>①あいさつ運動の推進</p> <p>②基本的な生活習慣育成について学校から発信していく</p> <p>③学級懇談、個人面談等の機会を利用して保護者との連携を深める</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①児童会中心に取り組みを進めた。学校評価アンケートでも保護者に評価を聞き指導に生かしている。</p> <p>②児童への指導をやPTAと連携は進めてきたが、保護者を巻き込んだ取り組みは今後さらに進める必要がある。</p> <p>③各クラスで取り組んでいる。</p>
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	<p>①各教科や総合的な学習の時間、特別活動など内容の関連を図る</p> <p>②児童会活動の活性化と充実を図る</p> <p>③異年齢集団の交流を推進する</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成できなかった ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①については、各担任レベルでの取り組みで行っていることが多く、学年として学校として進めていく必要がある。また、外国語活動が入ってきた分、総合的な学習の取り組みについて、今年度を振り返って組み直す必要がある。</p> <p>②については、児童会担当教員がよく児童を指導し、新しい縦割り集団や東日本大震災の募金活動などにも取り組むことができた。</p> <p>③については、今後、縦割り集団活動の内容を一層充実させていく必要がある。</p>	<p>①各教科や総合的な学習の時間、特別活動など内容の連携を図る</p> <p>②児童会活動の活性化と充実を図る</p> <p>③異年齢集団の交流を推進する(縦割り集団によるグループ活動への取り組み)</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成できなかった ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①については、各学級における道徳の時間や学級生活での道徳的な実践は行われ、成果も上がっている。各教科・特別活動指導における道徳との関連については、十分にできていない。</p> <p>②については、児童会担当教員がよく児童を指導し、縦割り集団や東日本大震災募金活動などにも取り組みを行うことができた。</p> <p>③については、縦割り集団活動の内容充実を図ることができた。</p>	<p>①各教科や総合的な学習の時間、特別活動など内容の関連を図る</p> <p>②児童会活動を活性化させていく</p> <p>③異年齢集団の交流を推進する</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①各学級における道徳の時間や学級生活での道徳的な実践は行われ、成果も上がっている。各教科・特別活動指導における道徳との関連についても配慮できた。</p> <p>②児童会担当教員がよく児童を指導し、縦割り集団やユニセフ募金、マダガスカル小学校支援活動などにも取り組むことができた。</p> <p>③縦割り集団活動の内容充実を図ることができた。</p>
③ 豊かな体験活動の推進	<p>①優れた芸術体験事業など芸術鑑賞事業を進める</p> <p>②作品等を展示し、文化的要素を高めた掲示を各学年クラスで工夫する。</p> <p>③宿泊行事などを通じて児童の人間関係を深める。</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①については、文化庁の体験事業や市のアウトリーチ事業などに応募し芸術体験事業を行った。さらに学年独自で邦楽鑑賞なども行った。</p> <p>②については、職員室前の廊下を「逗子小美術館」として、児童の作品や地域の方々の作品を展示した。また、地域の方々の作品展示や震災関係の展示コーナーも作った。</p> <p>③については、高学年で行った宿泊行事は成果を上げた。</p>	<p>①優れた芸術体験事業など芸術鑑賞事業を進める</p> <p>②作品等を展示し、文化的要素を高めた掲示を各学年クラスで工夫する</p> <p>③宿泊行事などを通じて児童の人間関係を深める</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①については、文化庁巡回体験事業や市のアウトリーチ事業などに応募し芸術体験を行った。また学年独自で邦楽鑑賞なども行ってきた。</p> <p>②については、職員室前の廊下や階段等に、児童の作品や地域の方々の作品を展示した。</p> <p>③については、高学年で行った宿泊行事は児童間の人間関係を深めるなどの成果を上げた。</p>	<p>①優れた芸術体験事業など芸術鑑賞事業を進める</p> <p>②校内に作品等を展示し、文化的要素を高めた掲示を行う</p> <p>③宿泊行事などを通じて児童の人間関係を深める</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①文化庁巡回体験事業や市のアウトリーチ事業などに応募し芸術体験を行った。また学年独自で邦楽鑑賞なども行ってきた。</p> <p>②職員室前の廊下や階段等に、児童の作品や地域の方々の作品を展示した。</p> <p>③高学年で行った宿泊行事は児童間の人間関係を深めるなどの成果を上げた。</p>
④ 食育と体力づくり・健康教育の推進	<p>①保健便り等を発行して健康について積極的に啓発し、疾病予防に努める。</p> <p>②健康教育の全体計画に従い体力向上の取り組みを進めて行く。</p> <p>③食育の全体計画に従い、保護者と連携をとりながら食育を推進していく。</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった</p> <p>成果と課題</p> <p>①については、養護教諭や担任を中心に、学校として取り組むことができた。</p> <p>②については、運動能力の測定等を行い、実態を把握することができた。</p> <p>③については、食育の啓発についてはPTA厚生委員会と連携をとって意識付けをすることができたが、食育を推進するところまではいかなかった。</p>	<p>①保健便り等を発行して健康について積極的に啓発し、疾病やケガの予防に努める</p> <p>②健康教育の全体計画に従い体力作りを進めて行く(運動能力調査の実施)</p> <p>③食育の全体計画に従い、保護者と連携をとりながら食育を推進していく</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①については、養護教諭や担任を中心に、学校として取り組むことができた。</p> <p>②については、運動能力の測定等を行い、児童の実態を把握することができた。</p> <p>③については、栄養教諭配置となり、学年ごとの食育授業やサマースクール講座なども開催して、保護者とも連携し進めることができた。</p>	<p>①保健便り等を発行して健康について積極的に啓発していく</p> <p>②健康教育の全体計画に従い健康教育について学校として推進していく</p> <p>③早寝・早起き・朝ご飯等、家庭生活の充実について保護者に働きかけていく</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①養護教諭や担任を中心に、学校として取り組むことができた。</p> <p>②運動能力の測定等を行い、児童の実態を把握することができた。</p> <p>③栄養教諭配置となり、学年ごとの食育授業やサマースクール講座なども開催して、保護者とも連携し進めることができた。</p>

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
① 学校安全の推進			①学校、PTA校外委員会、外部関係諸機関との連携の充実を図る ②安全点検、危険箇所の修理などの早期対応を図る ③大規模地震・大規模津波を視野に入れた総合的な防災計画を作成する (評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した 成果と課題 ①、②PTA校外委員と連携し、危険箇所の点検をし、改善要望を市等にあげた。また、関係機関との合同点検を実施できた。 ③防災アドバイザーの助言のもと津波避難の在り方を検討し具体化させた。
② 問題行動等への対応の推進			①差別やいじめを許さない学級づくりを行う ②教育相談コーディネーターを中心とする組織的な対応をはかる ③外部専門機関との連携を密にしていく (評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した 成果と課題 ①毎月の校務分掌会議や職員会議の中で確認し合った。 ②支援教育の推進と同様に考えている。 ③支援教育の推進と同様に考えている。
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	H23(2011)年度取組内容 ①幼稚園・保育園との情報交換を密にしておく。 ②幼稚園・保育園との児童レベルでの交歓行事を実施していく。 ③中学校との交流行事を進める。 (評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した 成果と課題 ①については、就学予定園児についての情報交換を幼稚園・保育園と行った。 ②については、一年生が次年度就学予定の園児との交流を行っているが、こちらから出かけていく交歓行事は今年度も行えなかった。 ③については、職業体験事業で中学生を受け入れ、外国語活動の授業では中学の英語の先生に来ていただいた。また、一部ではあったが部活動の見学を行った。	H24(2012)年度取組内容 ①幼稚園・保育園との効果的な連携についてカリキュラムの検討を進める ②幼稚園・保育園との交歓行事を学年行事として実施していく ③中学校との交流行事を進める (評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した 成果と課題 ①については、就学予定園児についての情報交換を幼稚園・保育園と行った。 ②については、次年度就学予定の園児との交流を行い高い評価を頂いているが、こちらから出かけていく交歓行事は行えなかった。 ③については、職業体験事業で中学生を受け入れ、外国語活動の授業では中学の英語教員の指導を受け、一部部活動の見学を行うなど、交流を進めることができた。	H25(2013)年度取組内容 ①幼稚園・保育園との情報交換を密にしておく ②幼稚園・保育園との交歓行事を実施していく ③中学校との交流行事を検討する (評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した 成果と課題 ①就学予定園児について、幼稚園・保育園と連携ができた。 ②次年度就学予定の園児との交流を行い高い評価を頂いているが、こちらから出かけていく交歓行事は行っていない。 ③職業体験事業で中学生を受け入れ、外国語活動の授業では中学の英語教員の指導を受け、一部部活動の見学を行うなど、交流を進めることができた。
④ 国際教育の推進	H23(2011)年度取組内容 ①外国語活動の在り方について職員研修をすすめ、実践力を高める。 ②国際教育指導助手との連携について実践していく。 ③評価規準等について検討を進める。 (評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった 成果と課題 ①、②については、研修を校内で行い、また、国際教育指導助手とのコミュニケーションもとれるようになり、担当者を中心として行うことができた。 ③については、各学年で検討をしているが、学校として定めるには至っていない。	H24(2012)年度取組内容 ①外国語活動の在り方について職員研修を行い、実践力を高める ②IEAとの連携について実践していく ③評価規準等について検討を進める (評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった 成果と課題 ①、②については、校内で研修を進め、また、IEAとのコミュニケーションも担当が調整しながら、担任を中心とした授業実践を進めている。 ③については、各学年で検討をしているが、学校として定めるには至っていない。	H25(2013)年度取組内容 ①外国語活動の在り方について職員研修を行う ②IEA(国際教育指導助手)との連携について検討を進める ③評価等について検討を進める (評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった 成果と課題 ①、② 校内で研修を進め、また、IEA(国際教育指導助手)とのコミュニケーションも担当が調整しながら、担任を中心とした授業実践を進めている。 ③各学年で検討をし試行しているが、学校全体としての計画を定めるには至っていない。

【逗子小学校】

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
⑤ キャリア教育の推進	①他校の実践事例等の情報を収集し、発達段階におけるキャリア教育の在り方を探る。 ②キャリア教育の全体計画に基づいて実践を行う。	①他校の実践事例等の情報を収集し、発達段階におけるキャリア教育の在り方を探る ②キャリア教育の全体計画に基づいて実践を行う	①小学校におけるキャリア教育の在り方について職員の研修を行う ②2分の1成人式など、生き方を見通した学習等について検討する
	(評価) ① 達成できなかった ② 達成できなかった	(評価) ① 達成できなかった ② 達成できなかった	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した
	成果と課題 ①、②とも、今年度は特にキャリア教育について教職員間の共通理解や実践報告などを行うことはできなかった。	成果と課題 ①、②とも、キャリア教育について研修が不十分であり、教職員間の共通理解や実践報告などを校内で行うことはできなかった。	成果と課題 ①一定程度のキャリア教育に係る個別の研修も高い教職員間の共通理解が進んでいるが、校内研修で取り上げて研修を深めるまでには至っていない。 ②2分の1成人式の取り組みが定着し、児童や保護者にも好評である。
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
⑥ 福祉教育の推進	①地域講師やボランティアを活用し、福祉教育の実践を行う。 ②児童の生活に根ざした福祉教育について実践を行う。	①地域講師やボランティアを活用し、身の丈にあった福祉教育の実践を行う ②児童の生活に根ざした福祉教育について実践を行う	①地域講師やボランティアを活用し、福祉教育の実践を行う ②児童の生活に根ざした福祉教育について検討する
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①については、外部講師を活用し実施した。 ②については、福祉教育担当者会で言われている「ふつうの・くらしの・しあわせを」を踏まえて実践を進めた。	成果と課題 ①については、外部講師を活用し実施した。 ②については、福祉教育担当者会で確認されている「ふつうの・くらしの・しあわせを」を踏まえて実践を進めた。	成果と課題 ①外部講師を活用し実施した。 ②福祉教育担当者会で確認されている「ふつうの・くらしの・しあわせを」を踏まえて実践を進めた。
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
⑦ 環境教育の推進	①児童会活動等に盛り込んだ活動の実践 ②家庭との連携を図り児童の活動の充実を図る。	①児童会活動等に盛り込んだ活動の実践 ②節電・節約を意識した取り組みを児童中心に行う ③家庭との連携を図り児童の活動の充実を図る	①授業だけでなく、児童会活動等に盛り込み、学校生活全体で取り組める内容を検討する ②家庭との連携を図り児童の活動の充実を図る
	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①については、児童会の「ミックスペーパー回収」など児童が参加する取り組みや、児童による放射線測定器を活用した観察活動を行った。 ②については、家庭との連携について特に進めてこなかった。	成果と課題 ①については、児童会の「ミックスペーパー回収」など児童が参加する取り組みや放射線測定器を活用した児童の観測を行っている。 ②については、5年生を中心にエコノートや外部講師によるエコクッキングの取り組みを進めた。 ③については、家庭と連携してエコノートやエコクッキングの取り組みを進めた。	成果と課題 ①児童会の「ミックスペーパー回収」など児童が参加する取り組みや気温の計測などの取り組みを行った。 ②5年生を中心に家庭と連携してのエコノートやエコクッキングの取り組みを進めた。
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
⑧ 情報教育の推進	①発達段階に応じた系統性のある学習計画を実践していく。 ②高学年対象に情報モラルについて、外部機関による授業を実施する。	①発達段階に応じた系統性のある学習計画を実践していく ②高学年対象に情報モラルについて外部機関による授業を実施する	①発達段階に応じた系統性のある学習計画の検討を行う ②必要に応じて情報モラルについて外部機関との連携を進める
	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①については、情報教育担当者を中心に取り組んでいる。 ②については、今年度は外部機関と連携を取って行うことができなかった。	成果と課題 ①については、情報教育担当者を中心に取り組んでいる。 ②については、今年度は外部機関との連携による授業を行うことができなかった。	成果と課題 ①情報教育担当者を中心に取り組んでいる。 ②資料を基に高学年で指導した。今年度は外部機関を招へいしての学習は行うことができなかった。

II 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
① 地域への情報発信と 学校公開の工夫	①学校ホームページの充実 ②学校便り・学年便り・学級便り等による保護者への情報発信 ③保護者だけでなく地域の方々の声の聞き取り。	①学校ホームページの充実 ②学校便り・学年便り・学級便りなどの充実 ③保護者だけでなく地域の方々の声も反映した情報公開 ④学校ナビの活用	①学校ホームページの更新・発信を行う ②学校便り・学年便り・学級便り等による保護者への情報発信 ③保護者だけでなく地域への情報発信(掲示板等の活用)
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した ③ 達成した ④ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	成果と課題 ①については、担当を中心に取り組み、充実と即時性を図った。 ②については、学校・学年・学級の便りは共に充実していた。 ③については、行事等で保護者や地域の方々へのアンケートを実施し意見の反映を心がけた。	成果と課題 ①については、組織的な取り組みが不十分であった。 ②については、学校・学年・学級の便りは共に充実していた。 ③については、行事等で保護者アンケートを実施し意見の反映を心がけた。 ④については、様々な場面で活用し保護者にも啓発した。	成果と課題 ①教務部が担当し発信・更新を行った。 ②学校・学年・学級の便りの充実が図れた。 ③行事等で保護者アンケートを実施し意見の反映を心がけた
② 地域教育力の活用	①地域協議会の活動の充実 ②サポート通信の発行 ③学校支援地域コーディネーターを中心とした学校や児童のための支援についての取り組みの充実	①地域協議会の活動の充実 ②サポート通信の発行 ③学校支援地域コーディネーターを中心とした学校や児童のための支援についての取り組みの充実	①これまでの学校支援地域本部事業の整理 ②サポート通信の発行 ③地域コーディネーターを中心とした学校や児童のための支援についての検討と取り組み
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	成果と課題 ①、②、③とも学校支援地域本部事業のなかで実施できた。今年度は『逗子小ガイド』を作成し、地域との連携も進んだ。	成果と課題 ①②③学校支援地域本部事業のなかで実施できた。今年度は『逗子小ガイド』を作成し、地域との連携も進んだ。	成果と課題 ①、②、③学校支援地域本部事業の中で実施できた。今年度は『逗子小ガイド』の改定作業を行い、その中で地域との連携も進んだ。
③ 学校評価を生かした 学校の改善	①検討された評価項目等による学校評価の実施 ②学校評価アンケートの結果を活用した教育活動の改善 ③学校・保護者・地域の三者協働による教育活動の推進	①検討された評価項目等による学校評価の実施 ②学校評価アンケートの結果を活用した教育活動の改善 ③学校・保護者・地域の三者協働による教育活動の充実	①学校評価の場面、内容、項目等についての再検討 ②学校評価アンケートの結果を活用した教育活動の見直し ③学校・保護者・地域の三者協働による教育活動の推進
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	成果と課題 ①、②については、教務部を中心に評価について検討を行い、集約も行き、学校の教育活動に反映するようにした。 ③については、DENの作成やサマースクール・サマーコンサート等で行った。 *DEN:各階に置かれた子どもの為の隠れ家、基地のようなもの。	成果と課題 ①、②については、教務部を中心に評価について検討を行い、集約も行き、学校の教育活動に反映するようにした。 ③については、日時計再設置作業やクリーンアップイベント、サマースクール・サマーコンサート等で実践できた。	成果と課題 ①、②教務部を中心に評価について検討を行い、集約も行き、学校の教育活動に反映するようにした。 ③クリーンアップイベント、サマースクール・サマーコンサート等で実践できた。

Ⅲ 教員の指導力向上

1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
① 授業研究の充実	<p>①本校の研究テーマを踏まえた授業実践、又は、文化教育ゾーンの中にあるという立地条件を生かした授業実践を行う。</p> <p>②外部講師による授業評価等を参考にした授業改善を進める。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①については、研究推進の中で授業公開・授業研究を行った。また、夏季休業中の取り組みとして文化教育ゾーンの施設活用を図った。</p> <p>②については、研究全体会等で指導助言等をいただき、その後の授業に活かすよう心がけた。</p>	<p>①本校の研究テーマを踏まえた授業実践の充実を図る(市研究委託を受け体育を中心に研究を進める)</p> <p>②外部講師による授業評価等を参考にした授業改善を進める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①については、体育を中心とした研究推進の中で授業公開・授業研究を行った。また、文化教育ゾーンの施設活用を行った。</p> <p>②については、研究授業および事前検討等で指導助言を受け、授業に活かすよう心がけた。</p>	<p>①本校の研究テーマを踏まえた授業実践、又は、文化教育ゾーンの中にあるという立地条件を生かした授業実践を行う</p> <p>②外部講師による授業評価等を参考にした取り組みを進める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①体育を中心とした研究推進の中で授業公開・授業研究を行った。また、文化教育ゾーンの施設活用を行った。</p> <p>②研究授業および事前検討等で指導助言を受け、授業に活かすよう心がけた。</p>
② 授業評価の活用	<p>①学校評価に関連した授業評価を実施し、授業改善に役立てる。</p> <p>②外部講師による授業評価を生かした授業作り。</p> <p>③児童の学力把握の調査結果を生かした授業作り。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①については、授業参観や「学校へ行こう週間」などの際に、授業に関する評価を保護者にももらい、以後の授業に生かした。</p> <p>②については、研究授業の際の指導助言を授業に生かすよう取り組んだ。</p> <p>③については、今年度も学習状況を把握し、活用を図った。</p>	<p>①学校評価に関連した授業評価を実施し、授業改善に役立てるとともに授業作りの工夫と改善についての検証を行う</p> <p>②外部講師による授業評価を生かした授業作り</p> <p>③児童の学力把握の調査結果を生かした授業作り</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①については、授業参観や学校へ行こう週間などの際に、授業に関する評価を保護者にももらった。</p> <p>②については、研究授業の際の指導助言を授業に生かすよう取り組んだ。</p> <p>③については、学年ごとに児童の学習状況を把握し活用を図った。</p>	<p>①学校評価に関連した授業評価を実施する</p> <p>②外部講師による授業評価を活用する</p> <p>③児童の学力把握の調査を活用する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①授業参観や学校へ行こう週間などの際に、授業に関する評価を保護者にももらった。</p> <p>②研究授業の際の指導助言を授業に生かすよう取り組んだ。</p> <p>③学年ごとに児童の学習状況を把握し活用を図った。</p>
③ 研修事業の充実	<p>①各自が積極的に授業公開を行う。</p> <p>②自己研修の目的を明確にして研修を受け、レベルアップを目指す。</p> <p>③初任者や経験の少ない教員を学校全体で育てる。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①については、校内研究推進において授業公開を行った。今年度は道徳に特化した。</p> <p>②については、自己観察書を書く段階で自分の課題を各自が把握していたが、それに応じて研修を積極的に受けるまでには今年度も至らなかった。</p> <p>③については、初任者の育成には学校全体で取り組んだ。</p>	<p>①各自が積極的に授業公開を行う</p> <p>②自己研修の目的を明確にして研修を受け、レベルアップを目指す</p> <p>③初任者や経験の少ない教員を学校全体で育てる</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①については、校内研究推進において授業公開を行った。</p> <p>②については、自己目標で課題を明確にしたが、それに応じて積極的に研修を行うまでには至らなかった。</p> <p>③については、初任者の育成には学校全体で取り組んだ。</p>	<p>①各自が積極的に授業公開を行う</p> <p>②自己研修の目的を明確にして研修を受ける</p> <p>③初任者や経験の少ない教員を学校全体で育てる</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①校内研究推進においてほぼ全員が授業公開を行った。</p> <p>②自己観察書研修目標で課題を明確にし、それに依って研修を行うことができた。</p> <p>③初任者の育成には学校全体で取り組んだ。</p>

平成23年度～平成25年度 学校による点検及び評価の推移(沼間小学校)

I 子どもたちの学力向上 — 1 個に応じた指導の充実

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
① 「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実			①基礎・基本の定着に向けた「わかる授業」への工夫改善 ②発達段階に応じた学習の仕方の指導
			(評価) ① 達成した ② 達成した
			成果と課題 ①校内研究や授業研究の実施に伴い、「わかる授業」への工夫改善は進んだが、今後も継続する必要がある。 ②発達段階に応じた学習の仕方についても学年で共通理解を図りながら、今後も継続していく。
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
② 「読解力」向上の取り組みの推進	①各教科で言語活動の充実を目指す ②「自分の考えを表現できる」を指導目標 ③「学び合い」を大切に授業	①各教科で言語活動の充実を目指す ②「自分の考えを表現できる」を指導目標 ③「学び合い」を大切に授業	①各教科での言語活動の充実 ②自分の考えを表現できる子の育成 ③「学び合い」を大切に授業づくり
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	成果: 校内研究で全職員が取り組んだ。 ・校内研究でサブテーマとして取り組んだ。 ・発達段階に応じた学習形態の工夫をしている。 課題: 読解力の向上・定着に向け、取り組みの継続が必要である。	成果: ①については、校内研究で全職員が取り組んだ。 ②については、校内研究でサブテーマとして取り組んだ。 ③については、発達段階に応じた学習形態の工夫をしている。 課題: 「表現する力の系統性」を生かして読解力の向上・定着に向けた取り組みを継続する。	成果と課題 本校の校内研究のテーマに沿って全職員が取り組んだが、継続することで読解力のさらなる向上を図る。
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
③ 読書活動の推進	①読書活動の日常化 ②読書環境の充実 ③学習活動に読書活用を位置づける	①読書活動の日常化 ②読書環境の充実 ③学習活動に読書活用を位置づける	①読書活動の日常化 ②読書環境の充実 ③学習活動に読書活動を位置づける
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	成果: 全職員が取り組んでいる。 ・読み聞かせや図書館ボランティアの活用等、地域支援も有効に機能している。 ・学校図書館指導員と連携した指導が展開された。 課題: 学習活動で有効な図書活用を工夫する。	成果: ①については、全職員が取り組んでいる。 ②については、読み聞かせや図書館ボランティアの活用等、地域支援も有効に機能している。 ③については、学校図書館指導員と連携した指導が展開された。 課題: 学習活動で有効な図書活用を工夫する。	成果と課題 本校の読書活動が全教職員の共通理解の下で進められていることや、児童による図書委員会の取組、学校支援地域本部事業での取組が定着していることが児童の読書環境の充実に役立っている。
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
④ 校内支援体制を活用した支援教育の推進	①校内支援体制を現状にあわせて構築する。 ②支援ニーズの把握と指導の充実を目指す。 ③児童理解に基づいたきめ細やかな支援の充実	①校内支援体制を現状にあわせて構築する ②支援ニーズの把握と指導の充実を目指す ③児童理解に基づいたきめ細やかな支援の充実	①校内支援体制の構築 ②支援ニーズの把握と指導の充実 ③児童理解に基づいたきめ細やかな支援と保護者との連携・協働の推進
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	成果: 校内支援体制がようやく定着してきた。 ・児童の情報共有と役割分担が進んだ。 ・支援シートを活用した保護者との連携、他機関との連携が進んだ。 課題: 支援シートを活用した保護者との連携、他機関との連携をしっかりと進め、個に応じたきめ細かな取り組みをさらに工夫する必要がある。	成果: ①については、小学校対応心理職の配置を活用して、校内支援体制が機能してきた。 ②については、児童の情報共有と役割分担が進んだ。また、心理職との連携が進み、継続的な看取りとその後のフィードバックが指導に生かされた。 ③については、支援シートを活用した保護者との連携、他機関との連携が進んだ。 課題: 気づきの早い段階から支援シートを活用した保護者との連携、他機関との連携を行い、個に応じたきめ細かな取り組みを進める必要がある。	成果と課題 ①校内支援体制づくりへの共通理解は進み、学年協働、校内支援が進んでいる。 ②支援シートを記入する取組では保護者との連携が欠かせない。 ③保護者と信頼関係を結び、連携・協働をさらに推進していきたい。

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成	<p>①学校でのきまりや暮らし方の指導を学校全体で計画的に進める。</p> <p>②学校だより、保健だより、給食だよりを発行して、規則正しい生活習慣の大切さの啓発に努める。</p> <p>③小・中間における必要な情報の共有と連携を進める。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果: あいさつや話の聞き方では全職員の一一致した取り組みができ、落ち着いた学習環境が保たれた。 ・保護者向け各種たよりやパンフレットで保護者への啓発を進めた。 ・小・中連携が深まり、ねらいをもって取り組みを進めたことで、互いの理解が深まってきた。</p> <p>課題: 保護者との連携、小中連携がキーポイントであることを確認してさらに取り組みを進める。</p>	<p>①学校でのきまりや暮らし方の指導を学校全体で計画的に進める。</p> <p>②学校だより、保健だより、給食だよりを発行して、規則正しい生活習慣の大切さの啓発に努める。</p> <p>③小・中間における必要な情報の共有と連携を進める。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果: ①については、あいさつや話の聞き方では全職員の一一致した取り組みができ、落ち着いた学習環境が保たれた。 ②については、担当者が意識的に取り組みを進め保護者からの評判もよい。 ③については、小中連携が深まり、ねらいをもって取り組みを進めたことで、互いの理解が深まってきた。</p> <p>課題: 保護者との連携による学びの基礎力の向上や小・中連携が子どもを育むキーポイントであることを確認してさらに取り組みを進める。</p>	<p>①学校でのきまりや暮らし方の指導を学校全体で計画的に進める</p> <p>②学校だより・保健だより・給食だより等を発行して積極的に啓発活動を進める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 各グループの担当が適切な話題を取りあげて進めることができ、保護者への啓発活動も保護者に理解されている。</p>

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	<p>①各教科、総合、外国語活動と連携を図りながら、計画的に道徳教育を進める。</p> <p>②学校・家庭・地域が一体となったあいさつ運動を推進する。</p> <p>③学校内の縦割り活動を通して異年齢交流を進める。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果: 授業研究の日常化を目指す取り組みが進み、学年ごとに意識的に授業づくりが進められた。</p> <p>課題: あいさつ運動等、日常的な取り組みを継続し、全教育活動の中で進める。</p>	<p>①各教科、総合、外国語活動と連携を図りながら、計画的に道徳教育を進める</p> <p>②学校・家庭・地域が一体となった挨拶運動を推進する</p> <p>③学校内の縦割り活動を通して異年齢交流を進める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果: ①については、授業研究の日常化を目指す取り組みが進み、学年ごとに意識的に授業づくりが進められた。 ②については、挨拶運動は人間形成として根づいたものになるよう取り組みを継続したい。 ③については、発達段階に応じた役割を設定し、異年齢交流を工夫し、成果を上げている。</p> <p>課題: 挨拶運動等日常的な取り組みを継続すること、また道徳の時間を生かすつつ全教育活動の中で道徳教育を進める。</p>	<p>①各教科、総合的な学習の時間、外国語活動と連携を図りながら、計画的に道徳教育を進める</p> <p>②学校・家庭・地域が一体となったあいさつ運動を推進する</p> <p>③学校内の縦割り活動を通して異年齢交流を進める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①道徳教育への関心も高いが、教職員全員が適切な指導を進めていくために研修等を進め、共通理解を促したい。 ②あいさつ運動は校内での指導が反映されているが、定着するまでには至っていない。継続指導が望まれる。</p>

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
③ 豊かな体験活動の推進	<p>①逗子の豊かな自然にふれ、自然の大切さを学ぶ自然体験学習を進める。</p> <p>②地域の行事を大切にし、社会奉仕活動に自ら参加して社会性を育むよう促す。</p> <p>③校内において芸術鑑賞会を開催する。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果: 行事や体験学習等を活用して全学年で展開した。 ・芸術鑑賞会の継続開催や図工作品展で互いの作品のよさを味わう工夫等により、学校環境を有効に豊かな体験活動が展開され、子どもたちの日常が充実してきた。</p> <p>課題: 豊かな体験活動を推進するために、学年間の教育課程を見直しながら、系統性ある取り組みを進めている。また、奉仕活動等は家庭の教育力が大きく影響することから、地域・家庭との連携をさらに深めていきたい。</p>	<p>①逗子の豊かな自然にふれ、自然の大切さを学ぶ自然体験学習を進める</p> <p>②地域の行事を大切にし、社会奉仕活動に自ら参加して社会性を育むよう促す</p> <p>③校内において芸術鑑賞会を開催する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果: ①については、行事や体験学習等を活用して全学年で展開した。 ②については、自然の大切さについては子どもたちの中に気持ちは育ってきている。 ③については、芸術鑑賞会の継続開催や図工作品展で互いの作品のよさを味わう工夫等により、学校環境を有効に豊かな体験活動が展開され、子どもたちの日常が充実してきた。</p> <p>課題: 豊かな体験活動を推進するために、学年間の教育課程を見直しながら、系統性ある取り組みを進めている。また、奉仕活動等は家庭の教育力が大きく影響することから、地域・家庭との連携をさらに深めていきたい。</p>	<p>①逗子の豊かな自然にふれ、自然の大切さを学ぶ自然体験学習を進める</p> <p>②集団宿泊体験を通して、互いのつながりを自覚し、他者への関心や愛着、思いやりや信頼感を高める機会とする</p> <p>③校内において芸術鑑賞会を開催する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 各学年とも意図的な取り組みを進め、豊かな体験活動が展開されている。</p>

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
④ 食育と体力づくり・健康教育の推進	<p>①健康教育を学校全体で推進する。</p> <p>②食の指導に関する年間指導計画に基づいて食育を実施する。</p> <p>③薬物乱用防止教育や安全教育を推進する。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果: 体育や休み時間等での外遊びで健康づくりが展開された。 ・全学年で食の指導計画は示され、発達段階に応じた学習が実施されている。 ・各学年に応じて薬物乱用防止教育や安全教育を実施した。</p> <p>課題: 健康教育や食育を意識して取り組もうという機運は高まってきているので、各学年とも教育課程を意識し、家庭とも連携して取り組みをさらに進めていきたい。</p>	<p>①健康教育を学校全体で推進する</p> <p>②食の指導に関する年間指導計画に基づいて食育を実施する</p> <p>③薬物乱用防止教育や安全教育を推進する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果: ①については、体育や休み時間等での外遊びで健康づくりが展開された。 ②については、全学年で食の指導計画が示され、発達段階に応じた学習が実施されている。 ③については、安全教育等も発達段階に応じた学習が実施されている。</p> <p>課題: 健康教育や食育を意識して取り組んでいるが、家庭と連携した取り組みをさらに進めていきたい。</p>	<p>①健康教育を学校全体で推進する</p> <p>②食の指導に関する年間指導計画に基づいて食育を実施する</p> <p>③薬物乱用防止教育や安全教育を推進する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題: 各学年とも意図的な取り組みを進めていることから、成果が感じられる。</p>

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
① 学校安全の推進			①学校防災計画に基づいた安全体制の整備 ②教職員、保護者による通学路の点検 ③自分の命は自分で守ることができるように安全への啓発活動を実施
			(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
			成果と課題 防災アドバイザーを活用して安全教育の評価を進め、より良い計画案ができています。
② 問題行動等への対応の推進			①問題行動への組織的対応を図る ②定期的な実態把握に努めるとともに、早期発見・早期対応を進める ③教育ニーズの把握に努め、総合的な支援体制の確立を図る
			(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
			成果と課題 児童指導に関わる一次支援として、各学級とも学級を開き、スクールカウンセラーや、巡回指導員を積極的に受け入れて問題行動への対応を進めていることから、未然防止・早期対応が進められている。
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進			①小・中連携については、担当者が年間計画を立てて進める。 ②子どもの姿を持って語り合い、情報交流を進める。 ③幼・保との連携では、授業交流や行事での子ども同士の交流を推進する。
			①小・中連携については担当者が年間計画を立てて進める ②小中9年間の学びの連続性に向けて情報交流を進める ③幼・保との連携では授業交流や行事での子ども同士の交流を推進する
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	成果：県の学びづくりに取り組むことで中学校との連携事業が進み、話し合い、共に取り組む土壌ができた。 ・幼・保・小の連携や小・中の連携を行い、子どもを中心にのいた情報の伝達が進んだ。 課題：小・中連携については、さらにより良い育ちを目指して取り組む必要がある。次年度はかながわ学びづくりで小・中連携をさらに強化していく。	成果： ①については、県の学びづくりに取り組むことで中学校との連携事業が進み、児童生徒に対する理解が深まった。 ②と③については、幼、保、小の連携や小、中の連携を行い、子どもを中心にのいた情報の伝達が進んだ。 課題：小・中連携については9年間の育ちを見通して取り組む必要がある。今後も計画的に進めていきたい。	成果と課題 幼・保・小・中連携の意義は浸透し、継続し取り組みとなっている。今後は組織的な分掌として統合整理する方向で進めている。
④ 国際教育の推進			①英語活動のカリキュラムの検討 ②英語活動の授業の充実に向け、授業研究や研修会を実施 ③国際教育指導助手と協力して日常的な交流や教材開発を進める。
			①外国語活動を生かしたコミュニケーション能力の育成を図る ②外国語活動ガイドラインに沿った授業の充実を図る ③IEA(国際教育指導助手)と協力して日常的な交流や教材開発を進める
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	成果：校内研究に位置づけた取り組みや、市教委研修会の成果がみえる。 ・英語を活用した掲示や教材づくりに積極的に取り組んだ。 課題：ねらいに沿った活動を実施していくにはまだまだ研究・研修を継続していく必要がある。	成果： ①については、指導要領・逗子市外国語活動ガイドラインに沿って授業づくりに取り組み、実践した。 ②と③については、コミュニケーションの素地を意識して、必然のある場面での英語を活用した授業づくりに取り組んだ。 課題：ねらいに沿った活動が実践されてきたが、今後も研究・研修を継続していく必要がある。	成果と課題 外国語活動の趣旨を理解した授業づくりが進んでいて、IEA(国際教育指導助手)と担任が連携・協力して児童の学ぶ意欲が向上してきている。

【沼間小学校】

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
⑤ キャリア教育の推進	<p>①子どもの発達段階に応じたキャリア教育を実践する。 ②子どもたちに望ましい職業観、勤労観を育むために各教科や体験学習等を有効に活用する。 ③キャリア教育への保護者の理解を促す。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった</p> <p>成果: 学校内や地域支援での関わりをキャリア教育の視点で捉えて子どもたちに提示できた。 ・担任から保護者に積極的に情報提供しているとはいえない。</p> <p>課題: 教員がキャリア教育を十分に理解した後、子どもたちに生き方を提示していく必要がある。</p>	<p>①子どもの発達段階に応じたキャリア教育を実践する。 ②子どもたちに望ましい職業観、勤労観を育むために各教科や体験学習等を有効に活用する。 ③キャリア教育への保護者の理解を促す</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ ほぼ達成した</p> <p>成果: ①については、学校内や地域支援での関わりをキャリア教育の視点で捉えて子どもたちに提示できた。 ②については、学校生活全般を意図的に活用している。 ③については、懇談会や学級通信等で学校生活の様子の一場面として保護者に伝えている。</p> <p>課題: キャリア教育は生き方教育であることを理解し、提示していく必要がある。</p>	<p>①発達段階に応じたキャリア教育を実践する ②子どもたちに望ましい職業観、勤労観を育むために各教科や体験学習等を有効に活用する ③キャリア教育への保護者の理解を促す</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 いろいろな教育活動場面を活用してキャリア教育が進められている。特にゲストティーチャーを招いた授業ではキャリア教育の幅が広がっている。</p>
⑥ 福祉教育の推進	<p>①日常的な人を思いやる教育から始める。 ②外部人材を活用したりして、指導方法の工夫改善を図る。 ③社会福祉協議会と連携し、体験的学習活動を推進する。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果: 単元構成がまとまった授業展開が進んできた。 ・社会福祉協議会や各種団体を有効活用することができ、授業では具体的な場面を用意して成果を上げた。</p> <p>課題: 総合的な時間を活用して本校の福祉学習として教育課程をつくる必要がある。</p>	<p>①日常的な人を思いやる教育から始める ②外部人材を活用したりして、指導方法の工夫改善を図る ③社会福祉協議会と連携し、体験的学習活動を推進する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果: ①、②及び③について、教職員がゲストティーチャーと打合せを実施し、きめ細かな取り組みを進めることで成果が見える。</p> <p>課題: 総合的な時間や教科横断的な学習を組み立て、本校の福祉学習として教育課程ができてつある。共通理解を図っていきたい。</p>	<p>①日常的に人を思いやる教育から始める ②外部人材を活用したりして、指導方法の工夫改善を図る ③社会福祉協議会と連携し、体験的な学習活動を推進する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった</p> <p>成果と課題 信頼に基づく指導を大切に取り組んでいることから、学級運営では人を思いやる教育が基本となっている。福祉学習における体験的な学習についても工夫して取り組んでいるが、学年によって今年度は、社会福祉協議会との連携事業を見送った学年もある。</p>
⑦ 環境教育の推進	<p>①環境教育を推進するために、学年に応じた体験活動を進める。 ②発達段階に応じた実践を取り入れる。 ③学校内で行われている環境に関わる取り組みを交流する。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果: 各学年の取り組みを引き継いでいる。</p> <p>課題: 児童会でも取り組んでいるが、いろんな場を活用して広げていきたい。</p>	<p>①環境教育を推進するために、学年に応じた体験活動を進める ②発達段階に応じた実践を取り入れる ③学校内で行われている環境に関わる取り組みを交流する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果: ①、②及び③について、各学年の取り組みを引き継いでいる。</p> <p>課題: 児童会でも取り組んでいるが、いろんな場を活用して広げていきたい。</p>	<p>①環境教育の推進に向けて、学年に応じた体験活動を進める ②子どもたちの実践活動を通して、家庭や地域での環境に関わる理解を深める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①家庭科や理科、総合的な学習で環境教育に取り組み、児童の意識改革が進んだ。 ②夏休みの課題として取りあげ、実践的な取組を進める等主体性も見られる。</p>
⑧ 情報教育の推進	<p>①情報機器活用能力の育成に努める。 ②情報リテラシーの育成や情報モラル教育に努める。 ③各教室配置になった情報機器を有効に活用し、授業効果を高める。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果: 情報教育については各教科の学習と関連させて取り組むことができています。</p> <p>課題: 情報ツールを授業に有効活用することについて、さらに工夫を進める。</p>	<p>①情報機器活用能力の育成に努める ②情報リテラシーの育成や情報モラル教育に努める ③各教室配置になった情報機器を有効に活用し、授業効果を高める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果: ①、②及び③について、情報教育については各教科の学習と関連させて取り組むことができています。</p> <p>課題: 情報ツールを授業に有効活用することについて、さらに工夫を進める。</p>	<p>①情報機器活用能力の育成に努める ②情報リテラシーの育成や情報モラル教育に努める ③情報機器を有効に活用し、授業効果を高める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ・積極的に情報機器の活用は進められていることから、授業効果を高めることができています。 ・情報リテラシーや情報モラルについては基本的な指導は学校で行うが、家庭との連携を積極的に進めていきたい。</p>

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
① 地域への情報発信と 学校公開の工夫	<p>①年間通した学校状況の適切な公開を進める。 ②HPの更新を月1回程度とする。 ③地域と学校の相互理解が進むようにコミュニケーションをとる。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した</p> <p>成果:PTA総会前に学校説明会を行う、学校だより・学校パンフレット等で学校状況の公開を進めている。 ・ホームページは担当部署が定期的に取り組み、更新が滞った。 ・PTA運営委員会だけでなく、青少年育成の会、避難所運営委員会、連合町内会とのコミュニケーションが深まっている。</p> <p>課題:学校から地域に情報発信できるよう、PTA、学校支援地域本部、連合町内会組織等を活用していく。</p>	<p>①年間通した学校状況の適切な公開を進める ②学校情報のより有効な発信方法を工夫する ③地域と学校の相互理解が進むようにコミュニケーションをとる</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果: ①については、PTA総会前に時間をとって学校説明会を行う、学校だよりで情報提供する等学校状況の公開を進めている。 ②については、担当部署が定期的に取り組み、HPを月1回更新した。 ③については、PTA運営委員会だけでなく、青少年育成の会、避難所運営委員会とのコミュニケーションが深まっている。</p> <p>課題:学校から地域に情報発信できるよう、PTA、地域支援本部、連合町内会組織等を活用していく。</p>	<p>①年間通した学校状況の適切な公開を進める ②ホームページの更新を月1回程度とする ③地域と学校の相互理解が進むよう、コミュニケーションの場を大切にする</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した</p> <p>成果と課題 学校だよりや学年だより等ではきめ細かな学校からの発信が進められたが、担当者が変わり月1回程度のホームページの更新は難しかった。今後は役割分担の引き継ぎを確認し、組織的な対応の継続を図る。</p>
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
② 地域教育力の活用	<p>①学校支援に関わるコーディネーターを活用して、開かれた学校支援地域本部事業を展開する。 ②ボランティアとの円滑なコミュニケーションに努める。 ③学校と地域との連携・協力関係のパイプを強くする。</p> <p>(評価) ①:達成した ②:達成した ③:達成した</p> <p>成果:地域コーディネーターが積極的に動き、活動が根づくものになってきている。 学校も積極的に準備段階から関わりをもって進めている。地域コーディネーターとの連携もスムーズになってきている。</p> <p>課題:地域支援コーディネーターを支える人的資源の育成に取り組んでいきたい。</p>	<p>①地域支援に関わるコーディネーターを活用して、開かれた学校支援地域本部事業を展開する ②ボランティアとの円滑なコミュニケーションに努める ③学校と地域との連携・協力関係のパイプを強くする</p> <p>(評価) ①:達成した ②:達成した ③:達成した</p> <p>成果: ①については、地域コーディネーターが積極的に動き、活動が根づくものになってきている。 ②については、学校も積極的に準備段階から関わりをもって進めている。 ③については、地域コーディネーターとの連携もスムーズになってきている。</p> <p>課題:地域コーディネーターを支える人的資源の育成に取り組んでいきたい。</p>	<p>①地域コーディネーターを活用して、開かれた学校支援地域本部事業を展開する ②学校支援ボランティアとの円滑なコミュニケーションに努める ③学校と地域との連携・協力関係のパイプを強くする</p> <p>(評価) ①:達成した ②:達成した ③:達成した</p> <p>成果と課題 学校支援ボランティアと適切なコミュニケーションができ、円滑な運用が進められている。</p>
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
③ 学校評価を生かした 学校の改善	<p>①重点を絞った目標設定をして取り組む。 ②子どもたちの姿を通して学校改革・改善を進める。 ③学校評議員、学校関係者評価委員の学校理解を進め、積極的な支援を活用して学校改善を図る。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果:職員の意識変容が進み、学校評価の理解が深まってきた。</p> <p>課題:学校評議員、学校関係者評価委員にも学校の現状をよく理解していただき、学校改善への力となっている。</p>	<p>①重点を絞った目標設定をして取り組む ②子どもたちの姿を通して学校改革・改善を進める ③学校評議員、関係者評価員の学校理解を進め、積極的な支援を活用して学校改善を図る</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果: ①、②及び③について、職員の意識変容が進み、学校評価の理解が深まってきた。</p> <p>課題:学校評議員、関係者評価委員にも学校の現状をよく理解していただき、学校改善への力となっている。</p>	<p>①重点を絞った目標設定をして取り組む ②子どもたちの姿を通して学校改革・改善を進める ③学校評議員、学校関係者評価委員の学校理解を進め、積極的な支援を活用して学校改善を図る</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ① 学校評価について職員の理解が進みつつあり、保護者や児童アンケートの結果を分析的に見て活用しようとしてきた。 ②学校評議員や学校関係者評価委員の学校理解が進み、現状把握と学校改善への提言が活用されるものとなっている。</p>

Ⅲ 教員の指導力向上 — 1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
① 授業研究の充実	<p>①授業研究の日常化を目指す。 ②外部講師を招へいし、授業研究を開いた形で進める。 ③授業研究を公開し、学校間の実践交流を進める。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果：校内研究については全職員で取り組み、充実した。 ・算数・国語・児童理解では専門の外部講師を招へいした。 ・校内研究会や研修会を公開し、本校以外の方も参加した。</p> <p>課題：次年度ははながわ学びづくり研究推進校としてさらに研究を深めていく。</p>	<p>①授業研究の日常化を目指す ②外部講師を招聘し、授業研究を開いた形で進める ③授業研究を公開し、学校間の実践交流を進める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果： ①については、校内研究については全職員で取り組み、充実した。 ②については、算数・国語・児童理解では専門の外部講師を招聘した。 ③については、校内研究会や研修会を公開し、本校以外の方も参加した。</p> <p>課題：次年度ははながわ学びづくり研究推進校で得た成果を生かしてさらに授業研究を深めていく。</p>	<p>①授業研究の日常化をめざす ②外部講師を招聘し、授業研究を開いた形で進める ③授業研究を公開し、学校間の実践交流を進める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 本校の学校文化として授業づくりは定着している。今年度も積極的に専門的な講師を招聘し進めていて、参加職員の満足度も高い。</p>
② 授業評価の活用	<p>①学習状況調査の分析を活用する。 ②研究授業では授業評価も含めた観点から外部講師による指導助言を図る。 ③子どもの授業後の振り返りを活用した授業評価を進める。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった</p> <p>成果：基礎的基本的な内容の定着にさらに力を注いだ。 教員相互による授業評価に取り組み、職員の意識改革が進んだ。</p> <p>課題：授業評価の視点を絞って取り組むこと、子どもによる授業評価を活用することに取り組みたい。</p>	<p>①学習状況調査の分析を活用する ②研究授業では授業評価も含めた観点から外部講師による指導助言の活用を進める ③子どもの授業後の振り返りを活用した授業評価を進める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった</p> <p>成果： ①については、基礎的基本的な内容の定着にさらに力を注いだ。 ②については、授業研究会を活用した教員相互による授業評価に取り組み、職員の意識改革を促した。 ③については、子どもによる振り返りを授業評価として活用することに取り組みたい。</p>	<p>①学習状況調査の分析を活用する ②研究授業では授業評価も含めた観点から外部講師による指導助言を図る ③子どもの授業後の振り返りを活用した授業評価を進める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 授業評価の活用については児童の特性を生かし、視点を与えた感想記入等でも授業評価として活用している。</p>
③ 研修事業の充実	<p>①OJTを主とした校内研修体制を構築し、積極的に研修を進める。 ②児童理解、授業づくり等では学年会を日常的な研修の場としていく。 ③市学校教育課、県教育委員会主催の研修を生かし、期を逃さずに積極的な取り組みを促す。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果：意図的に教職員全員で取り組んでいることから、成果が見える。</p> <p>課題：研究会・研修会を大事にして、学ぶ意欲と姿勢をもって進めていきたい。</p>	<p>①OJTを主とした校内研修体制を構築し、積極的に研修を進める ②児童理解、授業づくり等では学年会を日常的な研修の場としていく ③市学校教育課、県教育委員会主催の研修を生かし、期を逃さずに積極的な取り組みを促す</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果： ①、②及び③について意図的に教職員全員で取り組んでいることから、成果が見える。</p> <p>課題：研究会・研修会を大事にして、学ぶ意欲と姿勢をもって進めていきたい。</p>	<p>①校内研修体制を構築し、積極的に研修を進める ②児童理解、授業づくり等では学年会を日常的な研修の場としていく ③公開授業研究会等の研修の機会を生かし、期を逃さずに積極的な取り組みを促す</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 本校の学校文化として授業づくりは定着している。今年度も積極的に専門的な講師を招聘して進めている。</p>

平成23年度～平成25年度 学校による点検及び評価の推移(久木小学校)

I 子どもたちの学力向上	1 個に応じた指導の充実		
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
① 「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実			①単元計画に基づき、毎時間の授業展開の工夫改善を図る ②少人数指導、チームティーチング、小集団等、多様な学習形態を活用し、基礎・基本の定着を図る
			(評価) ① 達成した ② 達成した
			成果と課題 ①継続的な課題であり、取り組みを続けたい。 ②児童の学力向上に取り組むべく、学習形態の工夫、スクールライフサポーターなどを活用し基礎学力の定着を図った。人的環境の充実を望む。
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
② 「読解力」向上の取り組みの推進	①継続	①国語科・各教科・道徳・総合的な学習の時間を通して言語活動の充実を図る。	①国語科、各教科、道徳、総合的な学習の時間を通して、言語活動の充実を図る
	(評価) ① 達成した	(評価) ① 達成した	(評価) ① 達成した
	成果と課題 ①各教科・領域において言語活動の充実を目指す授業づくりを進めた。教育研究所授業力向上研修会、校内授業づくり研修を通して取り組んだ。	成果と課題 ①各教科・領域において言語活動の充実を目指す授業づくりを進めた。特に校内研究において算数科に取り組み、授業実践を通し研究を続けた。次年度も継続予定である。	成果と課題 ①各教科・領域において言語活動の充実を目指す授業づくりを進めた。特に、校内研究において算数科に取り組み、授業実践を通し研究を深めた。次年度も継続する。
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
③ 読書活動の推進	①継続 ②継続	①司書教諭・学校図書館指導員・学習支援ボランティアを活用し、読書活動を推進する。 ②お話会による読み聞かせ等の活動を行う。	①読書活動推進全体計画に基づき、児童の成長を踏まえた指導の充実を図る ②司書教諭、学校図書館指導員、学習支援ボランティアを活用し、読書活動を推進する ③お話会による読み聞かせ等の活動を行う
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	成果と課題 ①前年度に引き続き年間計画に基づき実施した。 ②お話会(年間10回)を計画的に実施した。ボランティアとの連携を密にし、学校のニーズにあった内容にしていくことが課題である。	成果と課題 ①継続して取り組んだ。児童の間に読書活動が定着している。ボランティアは学校支援地域本部に位置づけられている。 ②お話会の内容を検討し、児童のニーズに合わせた内容とすることができた。お話会ボランティアとの定期的な打ち合わせが重要となる。	成果と課題 ①計画通り実施できた。引き続き、学年に応じた読書指導の充実を目指していきたい。 ②児童の間に読書活動が定着している。図書委員会の活動も自主性を増している。 ③学年の実態に応じた内容を設定することができた。
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
④ 校内支援体制を活用した支援教育の推進	①継続 ②継続 ③幼・保・小・中連携を深め、情報交換を密にする。	①教育相談コーディネーターを中心に校内支援体制の充実を図り、子どもたちのニーズに応じた具体的支援を行う。 ②教育研究所・児童相談所・子育て支援課等の外部機関と連携を深める。 ③幼保小中連携を深め、情報交換を密にする。	①教育相談コーディネーターを中心に校内支援体制の充実を図り、子どもたちの教育的ニーズに応じ、具体的支援を行う。 ②教育研究所、子育て支援課、児童相談所等の外部機関と連携を深める。 ③幼・保・小・中連携を深め、情報交換を密にする。
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	成果と課題 ①課題を抱える児童についてケース会議等を開き、支援を行った。課題は、支援のための人材と時間の確保である。 ②各機関と連携を図り、支援に役立てることができた。継続的に取り組む。 ③児童に関する情報交換の場を設けて支援の参考にすることができた。	成果と課題 ①ケース会議等が充実し、児童への支援を一層進めることができた。人材と時間の確保は継続課題である。また、新たな教育相談コーディネーター育成が課題である。 ②スクールカウンセラー・巡回相談員と連携し、支援に役立てることができた。今後も積極的活用を進めたい。 ③情報交換の場の設定は今後も継続していきたい。	成果と課題 ①定期的に児童を見取り、情報共有を行い、必要に応じてケース会議等を設定することができた。引き続き、児童・保護者への支援や対応の充実を図りたい。 ②支援教育推進巡回指導員・スクールカウンセラーと連携し、支援に役立てることができた。 ③特に、幼稚園・保育園、療育相談との連携を深めることができた。今後も継続していきたい。

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成	<p>①継続 ②継続 ③継続</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①②③とも日常的な取り組みを継続することが重要である。継続して取り組む。</p>	<p>①学級指導の中で基礎的な生活習慣習得の指導を行う。 ②学校・保健だより等を通して情報を発信する。 ③学級懇談・個人面談等の機会を利用し、保護者と連携した取り組みを進める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①、②及び③について、日常的な取り組みの継続が課題である。</p>	<p>①学級指導の中で基礎的な生活習慣等の指導を行う ②学校・保健だより等を通して情報を発信する ③学級懇談、個人面談等の機会を利用し、保護者と連携した取り組みを進める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①全職員の一致した取り組みが重要である。特に、全校集会での話の聞き方の向上が見られた。日常的な指導の継続の必要を感じる。 ②学校だより、保健だよりなどの通信は、実態に即し計画的・意図的に発行することができた。 ③各クラスで取り組んだ。保護者の理解には差があり、一層の努力を必要とする。</p>
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	<p>①継続 ②継続</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①道徳教育全体計画に基づき実践を行った。 ②昨年度より継続的に取り組みを行っている。</p>	<p>①道徳教育全体計画に基づき、他の学習活動と関連させながら計画的・発展的な指導を行う。 ②あいさつ運動等、コミュニケーションを深める取り組みを行う。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①道徳と他教科や行事等の学習活動と関連させた指導に取り組んだ。 ②地域・保護者の協力を得ながら継続的に取り組んでいる。</p>	<p>①道徳教育全体計画に基づき、他の学習活動と関連させながら計画的・発展的な指導を行う ②日常のあいさつを心掛けたり、コミュニケーションを深めたりする取り組みを行う</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①道徳教育の全体計画に基づき、日常化を目指す取り組みが進んだ。 ②朝会、学級指導等を通して取り組んだ。日常化を図るべく、保護者・地域の協力を得ながら継続していきたい。</p>
③ 豊かな体験活動の推進	<p>①継続 ②継続</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①学習支援ボランティアを活用し体験学習に取り組んだ。学習の発展として豆腐作り・味噌作り等の活動をすることができた。 ②年間計画通り実施した。</p>	<p>①稲づくり・大豆づくり等、地域と連携した体験活動を行う。 ②キャンプ・修学旅行の取り組みを通し、自然・文化にふれあう体験を行う。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①昨年よりの継続で、作った味噌を使った調理まで学年を越えて学習を連続させることができた。また、大豆を中心素材に他教科と関連させて学習を進めることができた。継続的な取り組みが課題である。 ②計画通り実施した。</p>	<p>①稲作り、大豆づくり等、地域と連携した体験活動を行う ②キャンプ、修学旅行の取り組みを通し、自然・文化にふれあう体験を行う</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①学習支援ボランティアを活用し、体験学習に取り組んだ。稲作、大豆づくり、味噌作りは、久木小の体験学習として位置づいている。継続的な取り組みを大切にしていきたい。 ②計画通り実施することができた。特別活動の改善点である「よりよい人間関係を築く力」「本物の自然や文化の価値や大切さを実感する機会」を意識し、一層の活動の充実を図りたい。</p>
④ 食育と体力づくり・健康教育の推進	<p>①継続 ②継続</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①年間計画に従って取り組んだ。 ②校庭全面芝生化により、校庭で遊ぶ子どもの数が倍増し、体力の向上に効果があった。暑い時期の地表温度も芝生化により低くなり、健康面においても成果があった。引き続き維持管理が課題である。</p>	<p>①保健安全年間計画・給食指導年間計画等に基づいた指導を進める。 ②校庭芝生化に取り組み、子どもの体力向上について検討を進める。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①稲作り・大豆作りを食育への取り組みに位置づけることができた。 ②昨年度の成果に準ずる。芝生化の取り組みはこの3年間で定着してきている。芝生維持管理の負担軽減を図ることが課題となる。</p>	<p>①保健安全年間計画、給食指導年間計画等に基づいた指導を進める ②校庭芝生化に取り組み、子どもの体力向上について検討を進める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①計画通りに実施することができた。 ②芝を植えることで土壌の改良が進み、水はけが良くなっている。芝の管理は、地域の教育力を活用し、保護者・地域を中心に対応を図ることができた。年間を通した芝の定着を目標としたい。</p>

II 課題に迅速に対応する学校づくり — 1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
① 学校安全の推進			① 防犯教室、不審者対応訓練を行い、子どもたち、教職員の防犯意識を高める ② PTA、地域/パトロール体制と連携し、子どもの安全確保に取り組む ③ 防災アドバイザーによる地域の状況確認と防災・減災の在り方について検討を進める (評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
			成果と課題 ① 年間計画通り訓練等を実施した。継続的指導により防犯意識を高めた。 ② 地域と連携した取り組みは継続している。PTA予算から学校用備蓄品(水、ビケットなど)を購入し、教室棟屋上入口に保管することができた。 ③ 防災アドバイザーを活用し、防災体制の見直しを図った。それにより、震度5弱以上(津波警報)の際の避難について確認することができた。引き続き、防災体制について研究・検討及び整備を図ってきたい。
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
② 問題行動等への対応の推進			① 「久木小学校いじめ防止基本方針」に基づいた指導の充実を図る ② 教育相談コーディネーターを中心とした支援体制の充実を図り、子どもや保護者のニーズに具体的支援が行えるよう努めていく ③ 外部機関やスクールカウンセラー、巡回指導員等との連携を深める (評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
			成果と課題 ① 基本方針に基づいた指導を実践した。 ② ケース会議等を踏まえ、課題を抱える児童(保護者)への対応を進めることができた。校内での共通理解も進んだ。 ③ 巡回相談員、スクールカウンセラー等を活用し、児童支援を進めることができた。今後も一層の連携を図りたい。
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	① 小・中の連携について、できる内容から取り組みを始める。 ② 幼稚園・保育園と連携した支援教育に取り組む。	① 小中の連携について、できる内容から取り組みを始める。 ② 幼稚園・保育園と連携した支援教育に取り組む。	① 小・中の連携を目指し、協議しながら取り組みを進める ② 幼稚園・保育園と連携した、支援教育に取り組む
	(評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ① 中学校との児童生徒指導に関わる情報交換会を行い連携を進めた。 ② 新入学児童を迎える集会等を開き、交流すると共に情報収集を行った。	(評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ① 支援教育担当者同士の情報交換等を含め、連携を進めた。 ② 昨年度に引き続き、幼稚園・保育園との交流・情報交換を行い、連携を進めることができた。	(評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ① 中学校教諭による6年各クラスでの授業(算数・外国語・体育)を2月ごろに行ったり、夏休みにバレーボールとバドミントンの部活体験を実施したりした。また、中学校教諭の学校参観による児童理解なども実施することができた。 ② 新入学児童を迎える集会を開いたり、各幼稚園・保育園への参観など、職員交流の手立ての充実を図った。
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
④ 国際教育の推進	① 新学習指導要領全面実施にあたり、小学校外国語活動の充実を図る。 ② 継続	① 新学習指導要領完全実施にあたり、小学校外国語活動の充実を図る。 ② 国際教育指導助手の効果的な活用を図る。	① 小学校外国語活動の授業を通じ、コミュニケーション能力の育成を図る ② IEA(国際教育指導助手)の効果的活用を図る
	(評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ① 委託研究発表会を開き、2年間の成果と課題を発表できた。次年度も継続的に研究を進める。 ② 研究等に取り組む中でコミュニケーションを深めた。国際教育指導助手が毎年変わることが大きな課題である。	(評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ① 昨年度までの成果を踏まえ、外国語活動の実践に取り組んだ。 ② 国際教育指導助手とのコミュニケーションに努め、より良い指導を考えることができた。課題は、国際教育指導助手が毎年替わってしまうことである。	(評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ① 逗子市外国語活動ガイドラインに基づいて、外国語活動の実践に取り組んだ。 ② IEA(国際教育指導助手)とのコミュニケーションに努め、より良い指導を考えることができた。課題は、IEA(国際教育指導助手)が毎年替わってしまうことである。

【久木小学校】

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
⑤ キャリア教育の推進	<p>①キャリア教育の視点を教科・総合的な学習の時間の内容に入れながら実践を進める。 ②キャリア教育に関わる研修等に参加し、教職員の理解を高める。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①低学年の生活科、中学年の社会科・総合の中で、地域のお店・工場等を取り上げた実践を行った。また、高学年では社会科農業学習・工業学習においてゲストティーチャーを招いての実践を行った。 ②研修に参加できる体制作りが課題である。</p>	<p>①キャリア教育の視点を教科・総合的な学習の時間の内容に入れながら実践を進める。 ②キャリア教育に関わる研修等に参加し、教職員の理解を高める。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①地域の方々やお店の協力を得て、生活科・社会科・総合的な学習の時間等で実践を進めることができた。 ②一部教員が研修等に参加し理解を深めたが、学校全体として共有化するには至っていない。継続的な取り組みが課題である。</p>	<p>①子どもの発達段階に応じたキャリア教育の在り方について研究・実践を図る ②教育活動全般を通じて、児童が自尊感情を高め、より良い人間関係を築くことに努める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①社会科や生活科、総合的な学習の時間等の中で、ゲストティーチャーを招いて実践することができた。 ②教育活動全般を通し、全職員で全児童を育てる視点を持って指導に当たることができた。日常的な取り組みの継続が必要と感じている。</p>
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
⑥ 福祉教育の推進	<p>①継続 ②継続</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①年間指導計画に基づき、取り組みを行った。次年度も継続して取り組む。 ②各機関との連携を取り実施した。盲導犬学習ではゲストティーチャーを招き、学習を進めた。</p>	<p>①福祉学習年間計画をもとに教科・総合的な学習の時間等を通して福祉学習に取り組む。 ②福祉部・社会福祉協議会との連携を取り、福祉教育の推進を図る。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①年間指導計画に基づき、取り組みを行った。次年度以降、福祉教育全体計画を見直し、内容の充実を進めることが課題である。 ②各機関との連携を取り、実施した。</p>	<p>①福祉学習年間計画をもとに、教科・総合的な学習の時間等を通して、福祉学習に取り組む ②社会福祉協議会との連携を図り、福祉教育の推進を図る</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①年間指導計画に基づき、取り組みを行った。次年度も継続して取り組みたい。 ②福祉学習(車いす介助体験学習など)の計画・実施に関わって連携を図ることができた。今後も連携を続けたい。</p>
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
⑦ 環境教育の推進	<p>①継続 ②継続</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①総合的な学習全体計画に基づき、各学年で取り組むことができた。 ②年間計画に従って取り組んだ。次年度、地域と連携し「いのちの森事業」に取り組む予定である。</p>	<p>①地域連携の視点を持って環境教育の内容を発展させる ②逗子市の施策(グリーンカーテン等)を環境教育に活かす</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①総合的な学習の時間の全体計画に基づき、各学年で取り組むことができた。 ②地域の方々と連携し「いのちの森事業」に取り組んだ。次年度も継続予定である。</p>	<p>①教科・総合的な学習の時間等を通して、環境学習に取り組む ②逗子市の施策(グリーンカーテン等)を環境教育に生かす</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①総合的な学習全体計画に基づき、各学年で取り組むことができた。 ②地域の方々と連携し「いのちの森事業」に取り組んだ。</p>
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
⑧ 情報教育の推進	<p>①継続 ②情報リテラシーの育成に向けてパソコン環境の整備を行うとともに情報モラルの育成も図る。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①学習時、プロジェクターを効果的に活用できた。継続して活用能力育成を図る。 ②総合的な学習等を通して取り組みを進めている。次年度への継続課題としたい。</p>	<p>①発達段階に応じた情報機器操作内容を明確にし、情報機器活用能力の育成を図る。 ②情報リテラシーの育成に向けてパソコン環境の整備を行うとともに情報モラルの育成も図る。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①プロジェクター・書画カメラ等を活用し、日常の授業等に役立てることができた。使用頻度も高く、利用しやすい環境設定もできている。 ②情報教育担当を中心に取り組んでいる。職員全体で共通理解することが今後の課題である。</p>	<p>①発達段階に応じた情報機器操作内容を明確にし、情報機器活用能力の育成を図る ②情報リテラシーの育成に向けて、パソコン環境の整備を行うとともに、情報モラルの育成も図る</p> <p>(評価) ① 達成できなかった ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①情報教育指導計画(全体計画)に基づいた指導を継続することで、全校の児童への指導の確実な定着をめざしたい。 ②情報教育担当者を中心に、総合的な学習の時間を通して取り組んでいる。次年度への継続課題としたい。</p>

II 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
① 地域への情報発信と学校公開の工夫	<p>①継続 ②継続</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①年3回の地域教育協議会を開催し、学校に対する理解と協力を得ることができた。 ②定期的に情報発信を行った。各学級でも学級通信等を発行し、保護者へ情報提供した。</p>	<p>①地域教育協議会を通して、地域に対して学校運営に関する理解を深める ②学校だよりやホームページ等で学校の情報を広く伝える</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①3年目の取り組みとなる地域教育協議会の運営が円滑になった。学校への理解・協力も進んでいる。 ②継続して情報発信に取り組んでいる。学校だよりも充実してきている。</p>	<p>①地域教育協議会を通して、地域に対して学校運営に関する理解を深める ②学校だよりやホームページ等で、学校の情報を広く伝える</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①地域教育協議会の運営が円滑に進められた。学校への理解・協力が進んでいると感じる。継続して取り組みたい。 ②学校だよりを地域に回覧することにより、本校の教育活動等の理解が地域にも広がってきたと感じる。ホームページの更新を定期的に行うことができなかったため、次年度に向けて改善を図りたい。</p>
② 地域教育力の活用	<p>①継続 ②芝生管理等の作業をサポートシステムの協力を得て行う。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①学習ボランティアの活用により学習支援を進めることができた。発展として豆腐作り・味噌作り等の活動ができ、地域との交流が深まった。 ②芝生化2年目となり継続的な取り組みを進めた。維持管理について市教委・地域と連携し、より良い方法を検討することが課題である。</p>	<p>①久木小サポーターシステムを活用し、学習支援・学校環境整備支援活動を進める。 ②芝生管理等の作業をサポートシステムの協力を得て行う。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①大豆作り・稲作りは継続して取り組み、発展的な活動も生まれている。昨年度できなかった「わくわくフェスティバル」も開催でき、地域・保護者との連携が深まった。 ②芝生化への取り組みが無理なくできるようになった。課題は昨年同様、冬から春にかけての維持管理である。市としてのバックアップ体制を望みたい。</p>	<p>①久木小サポーターシステムを活用し、学習支援、学校環境整備支援活動を進める ②校庭の芝生管理等の作業をサポートシステムの協力を得て行う</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①大豆作り、味噌作り、稲作は継続して取り組んだ。教職員と保護者・地域とのコミュニケーションを目的とした「わくわくフェスティバル」は、大盛況で目的を十分果たすことができたと感じる。次年度も実施したい。 ②課題は多いが、地域との協力・連携は十分に取れるようになっている。維持管理に関わって、より良い方法の研究・試行を進めたい。</p>
③ 学校評価を生かした学校の改善	<p>①継続</p> <p>(評価) ① 達成した</p> <p>成果と課題 ①年間3回の学校関係者評価委員会を開催し、評価をいただいた。それに基づき学校運営の改善を進める。</p>	<p>①学校関係者評価委員会の評価を学校運営に生かす。</p> <p>(評価) ① 達成した</p> <p>成果と課題 ①年間3回の学校関係者評価委員会を開催し、学校運営についての助言を受けた。 児童の学習・生活の様子が分かるように開催時間を工夫したため、具体的な助言を受けることができた。</p>	<p>①学校関係者評価委員会の評価を学校運営に生かす ②学校づくりアンケートを実施し、保護者・地域の意見・感想を踏まえ、学校運営の参考とする</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①年間3回の学校関係者評価委員会を開催し、学校運営についての助言を受けた。児童の学習・生活の様子が分かるように開催時期を工夫したことで、より具体的な助言を得ることができた。 ②学校づくりアンケートを11月に実施し、次年度への課題を整理することができた。 また、教育活動で大切にすること、連携を図ることなどについて、学校・保護者・地域で確認を図ることができた。</p>

Ⅲ 教員の指導力向上 — 1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
① 授業研究の充実	<p>①委託研究推進校として取り組んだ成果を研究発表会において発表する。</p> <p>(評価) ① 達成した</p> <p>成果と課題 ①委託研究発表会を開き、2年間の研究成果と課題を発表することができた。次年度も授業研究を中心とする校内研究を継続する。</p>	<p>①前年度までの研究成果と課題を踏まえ、研究を発展させる</p> <p>(評価) ① 達成した</p> <p>成果と課題 ①これまでの研究成果を踏まえ、研究を継続した。今年度より算数科に取り組み、授業研究を行った。全担任が公開授業を実施した。研究を進めるに当たり、次年度は外部講師を招きたい。</p>	<p>①委託研究推進校として、取り組んだ成果を研究発表会において発表する ②外部講師の活用を積極的にを行う</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①全担任が算数科を中心に公開授業を実施した。研究を通して確認できた子どもの姿をもとに、次年度への課題を明確にすることができた。 ②外部講師の研修を受けることで、授業づくりの具体について学ぶことができた。</p>
② 授業評価の活用	<p>①評価規準を活かした授業実践に取り組み、評価規準の見直し、検討を行う。</p> <p>(評価) ① 達成した</p> <p>成果と課題 ①引き続き実践・検討を進める。「あゆみ」については、観点別評価項目とし、評価規準を一層意識した授業づくりをすすめる。</p>	<p>①評価規準を活かした授業実践に取り組み、評価規準の見直し、検討を行う。</p> <p>(評価) ① 達成した</p> <p>成果と課題 ①観点別評価項目による「あゆみ」を作成することができた。次年度は実践を通して評価規準の検証を行うことが課題である。</p>	<p>①評価規準を活かした授業実践に取り組み、評価規準の見直し、検討を行う ②外部講師による授業評価の生かした授業づくりを行う</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①指導と評価の一体化を踏まえ、評価規準を意識した授業づくりを進めることができた。 ②研究授業の際の指導助言を授業に生かすように取り組んだ。</p>
③ 研修事業の充実	<p>①継続 ②継続 ③継続</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①計画的な研修が実施できた。 ②研究所夏季研修等に積極的に参加する教職員が増えている。地域を知るための研修にも参加し、素材開発に有効であった。 ③臨任・非常勤の授業力向上のため、今後も積極的に活用したい。</p>	<p>①初任研、年次経験者研修において校内協力体制を作り、研修指導にあたる ②校内及び校外の研修会、研究会への参加を促進する ③逗子市教育指導員を積極的に活用する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①計画的な研修が実施できた。 ②教育研究所の各種研修会に積極的に参加した職員が増加した。特に支援教育関係の研修が充実していた。次年度の研修計画も期待したい。 ③臨任・非常勤だけでなく経験の少ない教員への指導にも活用の範囲を広げたい。</p>	<p>①初任研、年次経験者研修において、校内協力体制を作り、研修指導にあたる ②校内及び校外の研修会、研究会への参加を促進する ③逗子市教育指導員を積極的に活用する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①計画的な研修が実施できた。 ②校内研究において全担任が算数科を中心に研究授業を行った。教育研究所の各種研修会に積極的に参加した職員が増加した。しかしながら、校内における還流が課題である。 ③臨任・非常勤だけでなく経験の浅い教員への指導にも活用することができた。</p>

平成23年度～平成25年度 学校による点検及び評価の推移(小坪小学校)

I 子どもたちの学力向上

1 個に応じた指導の充実

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
① 「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実			①校内研究で得られた成果を具体的な授業の中で活かす実践を積み上げる ②基礎・基本の習得のための指導の工夫に取り組む
			(評価) ① 達成した ② 達成した
			成果と課題 ①「コミュニケーション力の育成」を目指した研究の成果を授業実践に活かすことができた。 ②基礎・基本の習得に向け、児童の実態把握から、指導法の工夫・改善に努めた。
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
② 「読解力」向上の取り組みの推進	①「PISA型読解力」の育成を図る授業に取り組む。	①「PISA型読解力」の育成を図る授業に取り組む	①各教科等における「言語活動の充実」のあり方について再確認する ②コミュニケーション能力の育成に取り組んできた成果を授業を通して検証する
	(評価) ① 達成した	(評価) ① 達成した	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した
	成果と課題 昨年度に引き続き、高木教授を講師として招き、職員全体でPISA型読解力についての授業を行い、理解を深めた。 ・新しい学力観について、評価の考え方について検討することができた。今後は、授業づくりの充実を通し継続的に取り組んでいく。 ・新しい学力観に基づき、従来の評価の考え方を変えていく必要がある。	成果と課題 ①今年度は、職員全体でPISA型読解力についての授業実践を行い、内容の充実を図ることができた。新しい学力観に基づき、多くの研究実践校を視察し、講師を招き評価の在り方について追求した。	成果と課題 ①研究のまとめとして成果と課題を共有するため、提案授業の教科を絞ったため、各教科における「言語活動の充実」については全体で確認することができなかった。 ②2年間の研究のまとめとして成果を授業を通して検証することができた。
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
③ 読書活動の推進	①朝読書の継続と、読書ノートの充実を図る。 ②小坪選定図書の数を増やし、読書週間を設けて取り組みをする。 ③家庭との連携を図り、日常的な家庭での読書習慣をつけさせる。	①読書が日常の習慣として身につくように、学年間での交流に取り組む ②蔵書数を増やし、身の回りに本がある環境から自分なりの読書習慣を見つけさせる ③家族で読書する取り組みを行う	①読書活動につながる教育内容・指導方法を工夫し実践する ②家庭との連携を図り、読書の習慣づけを図る
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ・学校図書館指導員と協力し、どの学年も取り組み、読書活動が定着してきた。 ・市立図書館や地域の方々との連携を図ったり、子どもたちが活発に図書室を活用したりできるよう期間や読みやすい場を提示することができた。 ・図書室より図書だよりを出し、家庭へ情報提供をしたり、学級担任による読書の取り組みを進めたりすることにより、本を読む機会が増えてきた。	成果と課題 ①学校図書館指導員と協力し、どの学年も取り組み、読書活動が定着している。 ②市立図書館や地域の方々との連携を図ったり、子どもたちが活発に図書室を活用したりできるよう夏期休業期間や読みやすい場や時間を提示することができた。 ③図書室より図書だよりを出し、家庭へ情報提供をしたり、学級担任による読書の取り組みを進めたりすることにより、本を読む機会が増えてきているので継続していきたい。	成果と課題 ①朝の一斉読書等、読書活動の充実については計画的に取り組んだ。 ②読み聞かせボランティアの活動を通して保護者にも読書の習慣づけの重要性を啓発した。
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
④ 校内支援体制を活用した支援教育の推進	①教育相談コーディネーターの活用を中心として、校内支援体制の見直しと充実を図る。 ②対外機関との円滑な連携をめざし、ネットワークを確立する。 ③校内支援シートの充実	①校内組織各部連携による校内支援体制の充実 ②他機関、他校種との情報の共有化、活用をめざす ③校内支援シートの見直し	①支援教室立ち上げ、教育相談コーディネーターを中心に校内支援体制の機動性を高める ②スクールカウンセラー・支援教育推進巡回指導員・うらおいフレンドの活用をすすめ、保護者と学校が子どものニーズに対して共通理解を深め、協働して支援の充実を図る
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ・教育相談コーディネーターを中心とした小坪小学校の支援体制が確立できた。 ・教育相談コーディネーターを中心に、対外機関との連携を図り、支援を積極的に進めることができた。 ・校内支援体制が定着し、担任や保護者との連携も密になり、個々の児童の持つ課題について共有できるようになった。支援シートが完成し、支援シートの具体的な活用ができるようになった。 ・職員の構成に合わせて、毎年体制を見直し、柔軟に対応できるようにする。	成果と課題 ①教育相談コーディネーターを中心とした小坪小学校の支援体制が確立でき、機能してきた。 ②教育相談コーディネーターを中心に、対外機関との連携を図り、児童への支援を積極的に進めることができた。 ③校内支援体制が定着し、担任や保護者との連携も密になり、個々の児童の持つ課題について共有できるようになった。支援シートが完成し、支援シートの具体的な活用を行っている。	成果と課題 ①教育相談コーディネーターを中心とした支援教育の組織的な取り組みの充実を図ることができた。 ②支援教育推進巡回指導員による各教室の見取りを充実させ、必要に応じて支援会議を行い、組織的な支援の充実を図った。

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成	<p>①行動目標達成に向けた、家庭での取り組みをめざす。 ②保護者、地域との双方向の取り組みをめざす。 ③講演会等を開催し、発達段階に応じた家庭での取り組みを促す。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ・学校目標やめざす子ども像などを学校便りや懇談会等で積極的に情報を伝えてきた。その成果について、保護者に周知されている事が学校評価アンケート結果から読み取れる。 ・保護者・地域に向けて学校便りやホームページ、掲示板等で積極的に情報発信を進めることができた。 ・今年度のめざす子ども像について各家庭に学校便り、学年便り等で伝えてきた。講演会では、発達段階に応じた家庭での育て方について話し合い、情報交換を得る機会を持つことができた。</p>	<p>①行動目標達成をめざし、地域と共に取り組む ②児童自ら生活習慣を振り返ることができる取り組みを行う ③地域と一体となった生活習慣作りに取り組む</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①学校目標やめざす子ども像などを学校便りや懇談会等で積極的に伝えてきた。 その成果について、保護者に周知されている事が学校評価アンケート結果から読み取れた。 ②保護者・地域に向けて学校便りやホームページ、掲示板等で積極的に情報発信を進めることができた。 ③今年度の目指す子ども像について各家庭に学校便り、学年便り等で伝えてきた。 講演会では、発達段階に応じた家庭での育て方について話し合い、情報交換を得る機会を持つことができた。</p>	<p>①あいさつ運動を推進し、規律正しい生活の中で基本的な生活習慣の向上をめざす ②家庭と連携し、食習慣や家庭学習を含めた生活習慣の確立をめざす</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①あいさつの重要性を折りに触れて指導し、行動目標としてあいさつの定着に取り組んだ。 ②給食便り、保健便り等を定期的に発行し、基本的な生活習慣の定着の重要性を伝え、意識の向上を促した。</p>
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	<p>①道徳全体計画を見直しながら、指導の充実をめざす。 ②体験的な学習や校外学習の中で、計画的に取り組む。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ・道徳教育の日常化を目指し、学年ごとに発達段階に応じた取り組みを進めた。 ・縦割り行事の年間計画を立て、学校行事や児童会活動を通して、発達段階に応じた役割を設定し、楽しみながら異年齢交流を工夫している。</p>	<p>①全体計画の改善を図りながら取り組む ②実施計画の中に目標として位置づける</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①道徳教育の日常化を目指し、学年ごとに計画的に取り組むを進めることができた。 ②縦割り行事の年間計画を立て、学校行事や児童会活動を通して、発達段階に応じた役割を設定し、楽しみながら異年齢交流を工夫してきた成果もあり、たいぶ活動が定着してきた。</p>	<p>①道徳の時間を要として様々な学習活動の中で、発達段階に応じた人権意識の育成に取り組む ②異年齢集団の活動を通して、規範意識の向上を図り互いに思いやる心情や、奉仕的な心情を養う</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①道徳の時間を要として人権に関わる指導を意図的に進めてきたが、教育活動全体に関わる必要があるため、今後さらなる充実を目指していく。 ②全校で「たてわり班」を構成し年間をととして「たてわり活動」に取り組み、成果を上げた。</p>
③ 豊かな体験活動の推進	<p>①小坪の自然・人等地域とのふれあい活動の充実を図る。 ②様々な体験活動を通して、問題解決的な学習を進める。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ・小坪小の行事や体験学習等を活用して全学年で地域とのふれあい活動を展開した。 ・体験活動を年間計画に位置づけ、各学年で取り組んだ。</p>	<p>①小坪の自然・人等地域とのふれあい活動の広がりをめざし、いっそうの充実を図る ②様々な体験活動を通して、問題解決的な学習を進める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①行事や体験学習等を活用してふれあい活動が計画的に展開できた。 ②計画通りの体験活動を実施した。全学年の年間計画に位置づけ、活動の定着を図っている。</p>	<p>①たてわり集団を組織し、学校行事の中で活用していく ②学校行事・児童会行事を通して育てたい力を明確にし、内容の充実を図る</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①たてわり班を活用し、運動会、遠足等の学校行事を企画することができ、リーダーシップとフォローアップの育成に取り組んだ。 ②学校評価の充実を目指す中で、学校行事での「つきたい力」を学校全体で共通理解するように努めた。</p>
④ 食育と体力づくり・健康教育の推進	<p>①食育の年間計画の改善を通していっそうの充実をめざす。 ②発達段階や児童の実態に応じた性教育の年間計画の改善を図る。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ・食の指導の年間計画を作成し、各学年とも計画に即した取り組みを進めてきている。 ・全学年で性教育の指導計画を示すことができ、各学年とも発達段階に応じた取り組みを進めた。</p>	<p>①教科や総合的学習との関連を図る ②家庭との連携を視野に食育、性教育の取り組みを進める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①全学年で食の年間指導計画を作成し、各学年とも計画に即した取り組みができてきた。 ②全学年で性教育の年間指導計画を作成し、各学年とも計画通りに取り組みを進めることができた。</p>	<p>①食に対する正しい知識と望ましい食生活・食習慣を身に付けるための食育指導に計画的に取り組む ②発達段階に応じた禁煙・薬物・性教育等の健康教育を推進し、家庭へも情報発信する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①各教科の指導内容から食育に関するものを洗い出し、意図的に取り組むことはできたが、学年ごとの段階等まだ、今後さらなる充実が必要である。 ②養護教諭を中心に発達段階に応じた健康教育を推進することができた。</p>

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり

1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
① 学校安全の推進			①児童自らが体験を通して危険予測・危険回避の能力を培うため、安全教育を計画的に実施する ②児童の安全な学校生活の確保と緊急避難所としての機能向上のため、環境整備に努める
			(評価) ① 達成した ② 達成した
			成果と課題 ①訓練だけに終わらない防災教育のあり方を意識し日々の教育活動の中に位置づけてきた。 ②PTAと連携し、避難路の整備、非常食の備蓄に取り組んだ。
② 問題行動等への対応の推進	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
			①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制を確立するとともに、様々な場面をとらえ、児童の規範意識や温かい人間関係作りを推進する ②児童理解を深めるための研修を実施し、問題行動への対応について、教職員の共通理解を図る
			(評価) ① 達成した ② 達成した
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
	①生活科・総合的な学習の時間を活用した子ども同士の交流や授業体験を推進する。 ②幼稚園、保育園、中学校との指導上必要な情報の共有化に取り組む。	①教科、総合的な学習の時間を活用した子ども同士の交流や授業体験を推進する ②幼稚園、保育園、中学校との指導上必要な情報の共有化に取り組む	①個人情報の保護に十分配慮しつつ、幼保小中の連携を進め、学校生活の安心安全の向上を図る ②小中連携では、体育や外国語活動、行事等で交流を推進する中で、中1ギャップの解消をめざす
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった
④ 国際教育の推進	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
	①授業実践を通して外国語活動の年間計画の改善に取り組む。 ②国際教育指導手の効果的な活用を進める。	①年間指導計画に基づく外国語活動の授業実践の充実を図る ②「IEA」と連携し、異文化に対する理解を深めコミュニケーション能力の向上を図る	①多様な文化を理解するための学習活動を各学年の発達段階に応じて取り入れる ②IEA(国際教育指導手)の効果的な活用をはかり、諸外国の文化や歴史・自然等に関心を深めるような取り組みをする
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ・年間計画を作成し外国語活動の授業実践を進めることができた。 ・国際教育指導手と協力して日常的な交流や教材開発を進めることができた。	成果と課題 ①年間計画を作成し外国語活動の授業実践を計画的に進めることができた。 ②国際教育指導手と協力して日常的な交流や教材開発を積極的に進めることができた。	成果と課題 ①IEA(国際教育指導手)を活用し、各学年の発達段階に応じた国際教育の推進に努めた。 ②海外の行事について学習の中に取り入れ、楽しみながら諸外国の文化への理解を深めた。

【小坪小学校】

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
⑤ キャリア教育の推進	①日頃の授業をキャリア教育の視点で見直し、学年の発達段階に応じたカリキュラムを作る。 (評価) ① 達成できなかった 成果と課題 ・学校生活全般を意図的に活用しているとはいえなかった。	①授業実践を通して、キャリア教育のカリキュラムを改善する (評価) ① 達成できなかった 成果と課題 ①小学校におけるキャリア教育の視点を確認し、授業実践を行う事ができたが、全体の年間計画作成には至らなかった。	①キャリア教育について、研修を実施し、子どもの発達段階に応じて、自己の生き方について考える学習を体験的に取り入れる ②総合的な学習の時間の全体計画を見直す (評価) ① 達成した ② 達成できなかった 成果と課題 ①総合的な学習の時間等で自己の生き方について考える取り組みはなされてきたが学校全体での共通理解を図るための研修の設定は今後の課題である。 ②3～6年の取り組みは全体計画に沿って実践されたが、小規模校の中で、組織的な見直しを図ることは難しかった。
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
⑥ 福祉教育の推進	①小坪の自然・社会・人的環境を生かした、単元開発を行う。 ②関係諸機関との連携を図りながら福祉教育の体験的な活動を計画的に推進する。 (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ・小坪地区を生かした年間計画に従って各学年の発達段階に応じた取り組みを行った。 ・福祉学習の計画・実施に関わって連携して進めることができた。	①小坪の自然・社会・人的環境を生かして、年間計画のいっそうの充実を図る ②関係諸機関との連携を図りながら福祉教育の体験的な活動を推進する (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①小坪の自然・社会・人的環境を生かした、単元開発を行った。 ②福祉学習の計画・実施に関わって連携して進めることができた。	①市の社会福祉協議会等の機関と連携を図り、発達段階に応じた体験的な福祉教育を実施する ②学校生活のあらゆる場面で、発達段階に配慮した人権教育を実施し、人権感覚の醸成を図る (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①総合的な学習の時間において、各学年の発達段階に即した福祉学習の取り組みが推進され地域、外部団体との連携が深まった。 ②日頃から教職員の人権意識の向上に努め、教育活動全体の中で人権教育がなされるよう努めた。
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
⑦ 環境教育の推進	①4年生の総合的な学習の時間を中心に、その活動への協力等を通して、環境に対する意識を育てる。 ②地域の人と連携した活動を通して多様な環境教育に取り組む。 (評価) ① 達成した ② 達成できなかった 成果と課題 ・総合的な学習全体計画に基づき、計画的に環境学習に取り組んだ。 ・地域との連携を深め、地域の講師を招くことができた。	①4年生の総合的な学習の時間を中心に、その活動への協力等を通して、環境に対する意識を育てる ②多様な環境教育に計画的に取り組む (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①教科・総合的な学習の時間等を通して環境学習に計画的に取り組むことができた。地域との連携について積極的に進めることができた。 ②環境に関する授業を教育課程上に位置づけし計画的に取り組んだ。	①各学年の年間指導計画の中で環境教育に関わる活動を洗い出す ②地域教育力を活用し、環境に係る体験的な活動を取り入れる (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①総合的な学習の全体計画の中で、環境教育については4年生に特設されているが、他学年の教科・道徳指導の中でも実施されていることを全体で共有した。 ②支援地域コーディネーターを活用し、ワカメの刈り取り等地域の特性を活かした体験的な活動が設定された。
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
⑧ 情報教育の推進	①「ICT」を活用した授業の単元開発に取り組む。 ②情報の発信者としての発達段階に応じたモラルの育成を図る。 (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ・外部講師の出前授業や講習会でより専門性の高い授業を行うことができた。 ・情報リテラシーの育成とともに、校内研修を開催しネット上での情報交換の場における、エチケットやモラルの教育の推進を積極的に進めた。	①「ICT」を活用した授業のカリキュラムの作成改善に取り組む ②情報の発信者としての家庭との連携を図り、モラルの育成を図る (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①外部講師の出前授業や講習会で、より専門性の高い授業を行うことができた。 ②情報リテラシーの育成とともに、校内研修を開催しネット上での情報交換の場における、エチケットやモラルの教育の推進を図り、職員の共通理解ができた。	①教員が積極的にICTを活用した授業に取り組むことにより、発達段階に応じた情報リテラシーの育成に取り組む ②情報を取捨選択し、正しく利用する能力を養うとともに、情報の発信者としてのモラルの育成を図る (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①各教室のICT環境を活用し、授業場面で多くの実践がなわれた。 ②携帯電話・スマートフォンなど新しい情報機器における情報モラルの醸成について課題を把握し、保護者の意識向上に努めた。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
① 地域への情報発信と 学校公開の工夫	①ホームページの内容を精選し継続的な更新を図る。 ②研究会や授業公開を通して学校運営に対する理解を図る。 (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ・ホームページについては、情報担当を中心として積極的に校内外へ情報発信をしてきている。内容の精選と更新について、継続していきたい。 ・保護者の授業研究会の参加者が昨年よりも増えている。学校教育への理解を深めることができた。	①ホームページの内容を精選し継続的な更新を図る ②研究会や授業公開を通して学校運営に対する理解を図る (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①学校便りの他、個人情報の保護に十分配慮しつつ、ホームページにおいて情報の発信ができた。ホームページの更新は2週間に1回定着した。 ②保護者の授業研究会への参加により学校教育への理解が図られ、より理解・協力が得られるようになった。	①学校の教育活動を積極的に公開し、保護者・地域と課題を共有することで学校運営の充実を図る ②個人情報の保護に十分配慮しつつ、学校だよりやホームページで情報の発信を進める (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①行動目標について具体的な実践からの実効性について話し合いをもち、今後の方向性を決めることができた。 ②学校評価のためのアンケートを今後の教育実践の中で活かすことができるように工夫・改善を図った。
② 地域教育力の活用	①地域コーディネーターとの連携を図り、小坪地域の特色を生かした人材活用を計画的に進める。 ②地域の方々、児童、教職員が共に育ち合う活動に計画的に取り組む。 (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ・地域支援本部の内容の再確認を行った。また、地域コーディネーターとの連携を密にするため、年間計画の確認や取り組み方の連絡を取り合い、事業を円滑に進めることができた。 ・年間を通して多くの地域講師に来ていただけるよう校内で活動計画づくりをして取り組んだ。	①地域コーディネーターとの連携を図り、小坪地域の特色を生かした人材活用を教育課程に位置づける ②地域の方々、児童、教職員が共に育ち合う活動に取り組む、成果を交換し合う (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①学校支援地域本部の内容の精選を行った。また、地域コーディネーターとの連携を密にするため、定期的に年間計画の確認や取り組み方の連絡を取り合い、事業を円滑に進めることができた。 ②年間を通して多くの地域講師に来ていただけるよう校内で活動計画づくりをして取り組み、より活動の幅を広げることができた。	①地域コーディネーターを中心に、学校支援地域本部と連携を図り、学校教育の一層の充実をめざす ②保護者や地域にボランティア登録をすすめ、地域本部のネットワークづくりを推進する (評価) ① 達成した ② 達成できなかった 成果と課題 ①学校支援地域協議会の充実を図り、積極的な問題提起を行い、コーディネーターを中心に積極的な活動を行った。 ②地域人材の積極的な活用は図ったがボランティア登録の働きかけには至らなかった。
③ 学校評価を生かした 学校の改善	①評価結果を公開し、広く意見を求め学校の改善につなげる。 ②活動を公開し、改善の取り組みに理解や支援を求める。 (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ・児童・保護者・教職員のアンケートをとり、その結果を学校関係者評価委員会、学校評議員会、職員会議等で、今後の課題として話し合った。また、その結果を学校便り、ホームページ等で積極的に伝えることができた。 ・学校評価のあり方やアンケート内容について教職員で話し合い、課題解決に向けてさらに工夫改善を図ってきたい。	①評価結果を公開し、広く意見を求め学校の改善につなげる ②活動を公開し、改善の取り組みに理解や支援を求める (評価) ① 達成した ② 達成した 成果： ①児童・保護者・教職員からアンケートをとり、その結果を学校関係者評価委員会、学校評議員会、職員会議等で、今後の課題として話し合った。また、その結果を学校便り、ホームページ等で積極的に伝え、家庭からの協力をいただけるよう情報発信を積極的に行った。 ②学校評価のあり方やアンケート内容について教職員で話し合い、アンケート内容を改修すると共に課題解決に向けてさらに工夫改善を図ってきた。 課題：評価結果から課題を明確にし、さらに学校全体で学校改善に取り組む必要がある。	①学校教育目標における重点目標や行動目標の自己評価を活かし、学校評価の実効性を高める ②学校評価を生かして改善点を把握し、教育条件の整備を行い、それを保護者・地域に発信していく (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ②行動目標について具体的な実践からの実効性について話し合いをもち、今後の方向性を決めることができた。 ③学校評価のためのアンケートを今後の教育実践の中で活かすことができるように工夫・改善を図った。

Ⅲ 教員の指導力向上

1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
① 授業研究の充実	<p>①校内研究に取り組み、教師の授業力の向上をめざす。 ②人権教育の指定研究に取り組む。 ③外部講師の活用を積極的に行う。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ・昨年度に引き続き、校内研究では「コミュニケーション力」の向上を目指して取り組んだ。お互いの研究授業を見合い、研究討議を重ね内容を深めることができた。 ・人権教育の指定研究発表に向けて全学年で取り組み、子ども達が「人権感覚」を身につける事ができるような授業を実施した。また、それらの実践内容を指定研究「人権教育発表会」で報告することができた。 ・外部から講師を計画的に招へいし、児童の見方や具体的な指導法について学ぶことができた。</p>	<p>①教育目標との関連を明確な校内研究に取り組む ②人権教育の研究成果を生かした授業研究に取り組む ③外部講師の活用を積極的に行う</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①昨年度に引き続き、校内研究では「コミュニケーション力」の向上を目指して取り組んだ。全教員が研究授業を行い、研究討議を重ね内容を深めることができた。また、他地区の研究の取り組み方を学ぶために研究発表会等に積極的に参加し、本校の研究に役立てた。 ②次年度の市委託研究発表に向けて全学年で計画的に授業研究を行い、子ども達の「聞いて・考え・伝える」授業の在り方を追求し研究討議を行った。 ③外部から講師を計画的に招聘し、研究授業をサポートしていただき研究が深まった。</p>	<p>①学習指導案の事前研究、研究授業、事後研究など、校内研究の充実を図る ②これまでの取り組みを検証し、成果と課題を明確にし、次につながるまとめをする</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①学年・ブロックを主体とした授業研究が活発に行われた。 ②市内だけでなく、近隣の地区にも呼びかけた研究全体会を実施し研究の成果と課題を発表することにより、次につながるまとめをすることができた。</p>
② 授業評価の活用	<p>①視点や協議の観点を明確にした授業研究に保護者の参加を促す。 ②児童相互の授業参観を行い、児童の評価活動を授業改善に生かす。 ③外部講師による授業評価の計画的な実施</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ・年間を通じた取り組みを通して、授業研究方法の充実を図ることができた。また、研究授業に保護者の参加を促し、より多くの方に参加いただき、本校の取り組みを説明することができた。 ・昨年度に引き続き、児童相互の授業参観を実施し、児童の評価活動を授業改善に活かす取り組みができた。 ・外部講師の計画的な招聘により、適宜、授業の指導講評をいただくことができた。</p>	<p>①保護者の評価を授業改善に生かす ②児童相互の授業参観を行い、教師と児童が一体となった授業改善に取り組む ③外部講師による授業評価の日常的な実施</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①年間を通じた取り組みを通して、授業研究方法の充実を図ることができた。また、研究授業に保護者の参加を促し、より多くの方に参加いただき、本校の取り組みを説明することができた。今後もより多くの参加者に授業評価をしていただき、授業力の向上を図りたい。 ②昨年度に引き続き、児童相互の授業参観を実施し、児童の評価活動を授業改善に活かす取り組みができた。 ③外部講師の計画的な招聘により、適宜、授業の指導講評をいただくことができた。</p>	<p>①指導と評価の一体化について教員の共通理解を深め、授業改善に努める ②校内研究を通じ、授業評価を教員同士で行うことにより、研究に対する参画意識を高める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①日々の授業参観や校内研究への取り組みにより、指導と評価の一体化については共通理解が図られ授業改善につなげることができた。 ②学年、ブロックでの研究推進に意図的に取り組み、事前研、事後研の中で相互の授業評価が行われた。</p>
③ 研修事業の充実	<p>①校外の研修への参加を促し、専門的力量的の向上を図る。 ②現職教員の資質を生かした校内研修を計画的に行う。 ③児童指導に関する研修を継続する。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ・校内外の研究を充実することにより、研究内容も深まり、計画的な研究ができた。 ・特に他校の研究発表会に参加し、それらの内容を共有できたことは、校内研究を進める際に参考となった。 ・児童指導・支援については、計画的な研修会を設定し、全教職員で取り組んできた。今後さらに、支援教育を必要とする子ども達についての研修を深めていきたい。</p>	<p>①校外の研修への参加を促し、専門的力量的の向上を図る ②現職教員の資質を生かした校内研修を計画的に行う ③児童指導に関する研修を継続する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①校内外の研究に積極的に取り組み、研究協議を重ねたことにより、研究内容も深まり、計画的な研究ができた。 ②他地区の研究発表会に全職員が積極的に参加し、それらの内容報告し、情報を共有できたことは、校内研究を進める際に参考となった。 ③児童指導・支援については、計画的な研修会を設定し、情報の共有を図り全教職員で取り組むことができた。今後さらに、支援を必要とする子ども達についての研修を深め、支援体制を定着していきたい。</p>	<p>①自主的な教員研修が行われるよう、支援体制づくりをすすめ、時間の確保や機材等、環境の整備を図る ②OJTを組織的に推進し、「チーム小坪」の協働を推進する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①各分掌の中から必要な研修について自主的に設定するようになり、必要な環境の整備に努めるようになった。 ②年齢・経験年数のアンバランスから、ミドルリーダーの育成が難しく、組織的にOJTを推進するには至らなかった。</p>

平成23年度～平成25年度 学校による点検及び評価の推移(池子小学校)

I 子どもたちの学力向上		1 個に応じた指導の充実		
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	
① 「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実			①学習状況調査などのデータや日々の見取りに基づいて子どもの実態を把握し、授業研究の取り組みを通して指導方法の工夫と改善を図る ②少人数やチームティーチング等、多様な学習形態を工夫し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る	
			(評価) ① 達成できなかった ② 達成した	
			成果と課題 ①児童の実態を見ながらブロック間でも情報交換し、研究授業を通して指導方法の改善を図った。今後も学力向上を目指し、学習状況調査などのデータも活用し、学校全体で取り組みたい。 ②多様な学習形態を活用し、学習の定着を図った。	
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	
② 「読解力」向上の取り組みの推進	①「読解力」の向上に関する年間計画および実践内容を学年ごとに集約する。 ②学力調査などの客観的なデータを分析し、コミュニケーション能力育成の指導の改善を図る。	①読解力向上に向けて、学年ごとに授業実践のあり方を検討し、改善を図る ②コミュニケーション能力育成について、活動場を広げる取り組みを行う	①学習状況調査などの結果を踏まえ、本校児童の特性を分析し、読解力向上のために各教科や教科外の活動において言語活動の活性化を図る ②すべての教育活動の中で、コミュニケーション能力の育成を意識して取り入れることをめざす	
	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	
	成果と課題 ①読解力の育成に向けた各学年の取り組みを集約することはできた。今後の課題は年間計画を毎年見直し、ねらいを達成するためにより充実した指導内容にしていくことである。 ②学力調査が実施されなかったことにより、データを分析して活用する機会がなかった。	成果と課題 ①各教科、総合的な学習の時間等の年間計画を見直し、ねらいや目標を達成するために授業実践の改善を図った。 ②各教科の授業内容に、思考したことをグループや学級全体に伝える活動や交流を多く取り入れ、活動場を広げる取り組みを行った。	成果と課題 ①学習状況調査などの結果から、本校児童の特色を知り、各学年で言語活動の活性化に努めた。 ②各学年、各学級で行う教育活動の中で意識的に言語活動の場を設け、コミュニケーション能力の育成をめざした。	
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	
③ 読書活動の推進	①図書室の環境向上のため壁面の塗装を行うとともに、エアコンの設置を市に要望していく。 また、蔵書のデータをパソコンに入力し検索を容易にするため、校内でのデータベース化を目指す。	①市立図書館との連携を進め、図書室の機能向上を目指す ②発達段階に応じた読書活動のあり方を検討し、多様な活動を展開する	①図書室の利用指導を行うと同時に、各教科の中で、図書室を利用した学習を推進する ②蔵書のよりよい充実を図り、学習情報センター及び読書センターとして、学校図書館の機能向上をめざす	
	(評価) ① 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	
	成果と課題 ①学校支援地域本部で図書室壁面の塗装を行うことができた。また市教委の事業でエアコンが設置されたことで環境面の改善が大きく進んだ。 書籍のデータベース化は、校内の蔵書のデータの一部をパソコンに入力している段階である。	成果と課題 ①学校図書館指導員が各学年の学習内容に沿った図書を担当や教科担当からの希望を集約して、市立図書館から多くの本を取り寄せ活用した。 ②各学年の発達段階に合わせて、ボランティアによる「池小お話し」を年間計画に位置づけ、読み聞かせや素話の機会を、計画的に展開した。	成果と課題 ①各教科の学習における調べ学習で図書室を積極的に利用した。図書室でそろわない資料については、図書館での団体貸出しや図書館のバックでの貸出しなどを活用した。 ②絵本、理科や社会、総合的な学習の時間等の調べ学習に活用できる資料まで整理、購入し、図書室の整備、充実にも努めた。	
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	
④ 校内支援体制を活用した支援教育の推進	①支援教育に関する研修の機会を増やし、児童理解を深め、情報の共有に努める。 ②保護者・地域に対して校内支援体制についての情報を発信し、理解を深める。	①校内支援体制のさらなる充実を目指し、外部組織との連携を深める ②学校評議員会、地域協議会などでも支援体制の理解を得られるよう、情報の発信に努める	①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制の充実を進め、組織の連携を図るとともに、児童のニーズを適切に把握し、ケース会議・チーム会議等を開いて支援に向けた具体的な対応を進める ②支援教育推進巡回指導員を中心とした支援教室を確立させる	
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	
	成果と課題 ①講師を招いての研修の機会を多く持ち、具体的な事例から児童理解を深めることができた。また、事例検討では、配慮が必要な児童の情報共有の場につながり、対応について共通理解を図ることができた。 ②学校説明会、地域教育協議会等の機会に教育相談コーディネーターを中心とした本校の支援教育のあり方について説明し理解を深めた。	成果と課題 ①逗子市の教育研究所や子育て支援課等と連携し、児童の支援を進めた。学習支援が必要な児童には個別指導を行い、また巡回指導員による支援教室も始動した。 ②学校評議員会や学校支援地域協議会等で本校の支援教育の活動について説明し、理解・協力を仰いだ。	成果と課題 ①年に2回児童指導研修会を実施し、支援や配慮が必要な児童理解ができた。何か問題が起きたときに、早急・適切に対応できた。 ②支援が必要な児童に支援教育推進巡回指導員による支援教室で学習することによって、ソーシャルスキルが高まった。教材も増え、活用できた。	

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成	<p>①あいさつ運動を継続して行なうなど、基本的な生活習慣の充実を図る。</p> <p>②幼稚園・保育園との情報交換を密にしていこう。</p>	<p>①幼・保との連携において、基本的な生活習慣の充実を図る。</p> <p>②学校だより、保健だより、給食だより等を通じて、家庭教育力の向上を図る</p>	<p>①あいさつ運動を推進し、規律正しい生活を心がけることで基本的な生活習慣の育成をめざす</p> <p>②保護者・地域・関係諸機関と連携し、情報交換や協同事業を通して家庭教育力・地域教育力の向上を図る</p>
	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>
	<p>成果と課題</p> <p>①学校評価アンケートの中でも、児童のあいさつについては評価されている。昨今の社会状況を考えると、今後は、校内での来校者へのあいさつを徹底するように指導を徹底していきたい。</p> <p>②新入学児童の観察と情報交換のため、今年度からは、教頭になり、教育相談コーディネーター、養護教諭、1年担任が幼稚園訪問を行うようになり、より具体的な情報交換ができるようになった。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①入学予定の幼稚園や保育園を訪問し、情報交換を行った。これにより、クラス分けの参考になり、基本的な生活習慣を含めて入学後の学校生活がよりスムーズにおくることができるようになった。</p> <p>②学校からのお便りを通して保護者に情報を提供し、家庭教育の向上を図った。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①正門前で朝の交通指導で、校長があいさつ運動を推進することにより、学校全体のあいさつ運動も活性化したと考える。</p> <p>②学校支援地域本部事業など、保護者・地域・関係諸機関との連携も密に行い、特に地域教育力を十分に活かすことができた。</p>
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	<p>①道徳の全体計画を見直し、その要としての道徳の授業の充実を図る。</p> <p>②学校支援地域本部と連携し、地域の人材・環境を生かした道徳の授業実践を展開する。</p>	<p>①教育課程全体を見直し、様々な教育活動におけるねらいを明確にする中で道徳授業の充実を図る。</p> <p>②6年間の全体計画を見直し、地域との連携の中で、道徳教育を推進する。</p>	<p>①道徳の授業を要として、様々な学習活動の中にも道徳的な内容を積極的に取り入れることで、道徳教育の充実を図る</p> <p>②各種体験活動の充実を図り、その活動を通じた心に響く道徳教育を実践する</p>
	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成できなかった</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>
	<p>成果と課題</p> <p>①年間指導計画の中で、各教科と道徳との関連が示されるように担当が働きかけ、道徳の授業だけでなく、様々な学習場面の中で、道徳的価値を見直すように努めた。</p> <p>②学校支援地域本部との連携は進んだが、道徳だけではなく学習面での新たな人材の掘り起こしまでは至らなかった。今後は様々な地域の人材・教材の掘り起こし、支援を求めていきたい。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①教育課程全体の見直しと、道徳資料の充実を行った。</p> <p>②各学年の年間指導計画の見直しを継続して実施した。6年間を通じた見直しでは十分ではなかったが、道徳の授業を保護者に公開するなど、学校全体としての意識向上に努めた。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①各教科と道徳との関連が示されるように担当が働きかけ、道徳の授業だけでなく、様々な学習の場面の中で、道徳的価値を見なおすように努めた。</p> <p>②様々な体験の中で、心に響き生活に活かされる授業の充実を図っていく。</p>
③ 豊かな体験活動の推進	<p>①学校支援地域本部と連携し、地域教育力を活用した体験活動の充実を図る。</p> <p>②授業時数確保の中で、集団宿泊活動の内容を精選し、指導計画の改善に取り組む。</p>	<p>①学校支援地域本部の活動のさらなる充実を図り、体験活動を推進する</p> <p>②体験活動で育てたい力を明確にし、6年間の指導の体系化を図る</p>	<p>①地域の特性を生かした体験活動(自然体験、福祉体験、勤労体験、遊び体験等)を通して、社会性や協調性を育成する</p> <p>②社会見学・校外学習・宿泊行事・異学年との交流行事などを通して、集団生活のマナーや責任感を育むとともに、思いやりや信頼関係を育成する</p>
	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>
	<p>成果と課題</p> <p>①学校支援地域本部が1年生の学習にズンブ(老人会)が協力し、昔遊びや紙飛行機飛ばしなど、体験活動が充実した。</p> <p>②キャンプ・修学旅行の実施場所を、実地踏査するなどして検討し内容の充実と安全確保を図り、体験活動の充実をめざした。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①学校支援地域本部を活用して、校庭の植物観察や地域の教育力を活用した福祉活動など、体験活動を充実させる取り組みを行った。</p> <p>②ふれあい遠足、キャンプ、修学旅行を体系的に検討し、内容の充実と安全確保を図り体験活動のさらなる充実を目指した。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①地域の教育力を活用し、社会性や協調性を育成することができた。</p> <p>②ふれあい遠足・ふれあい集会・たわり活動などを通して異学年が交流しお互いに思いやり、信頼関係を育成することができた。</p>
④ 食育と体力づくり・健康教育の推進	<p>①食育の年間計画を見直し実践する力を育成する。</p> <p>②健康的な生活に関心を持たせるような取り組みをし、家庭と共に推進する。</p>	<p>①各学年の食育に関するこれまでの取り組みを体系化していく</p> <p>②健康教育を推進する中で、健康の意義について保護者の理解を深める</p>	<p>①食育に関する全体計画に基づき、食教育を計画的に推進する</p> <p>②健康教育について、児童の体力や健康状態を把握し、教職員間で共通理解を図るとともに、家庭や関係行政機関等との連携しながら計画的に推進していく</p>
	<p>(評価)</p> <p>① 達成できなかった ② 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成できなかった ② 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>
	<p>成果と課題</p> <p>①前年度の継続として、様々な教科の中で食育への取り組みは見られたが、年間計画の見直しには至らなかった。年間反省の中でも教育課題に対する取り組みについて検討しているため、今後の課題としていきたい。</p> <p>②給食だより、ほけんだより、廊下の掲示物等を通して、児童の食に対する関心を深める働きかけはできた。食の安全に対する意識が社会的に高まる中、今後食育の重要性は増すと考えられるので、さらなる取り組みを検討していきたい。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①昨年度以上に食育への取り組みを行ったが、体系化には至らなかった。</p> <p>②給食だより、保健だより、廊下の掲示板等を通して、児童の健康に対する保護者の関心を高める働きかけを行った。さらに、保護者対象の講演会も実施した。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①食育に関する全体計画に基づき、栄養士による食育の授業や、給食指導を計画的に行うことができた。今後も各学年と連携をとり継続して実施していく。</p> <p>②児童の発達段階に応じた健康教育を様々な場面を通じて実践することができた。今後も教職員間の共通理解をはかりながら実践を継続していく。</p>

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり

1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
① 学校安全の推進			①児童自らの危機予測・危機回避能力の育成を目指し、安全教育を計画的に実施し、日々の教育活動の中で意図的に取り組む ②交通安全教室・誘拐防止教室・自転車教室・安心安全教室実施し、地域と連携し、児童の安全に対する意識の向上を図る (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①防災・安全指導年間計画に基づき、避難訓練や道徳活動の中で危機予測・危機回避能力を培う指導を行ってきた。さらに、様々な場面を想定した避難訓練を実施し、実際の行動に結びつけるようにしていきたい。 ②警察等の外部機関と連携し、安全教室等を開催した。また、教職員の研修も行い安全に関する意識を向上することができた・今後も継続して実施していきたい。
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
② 問題行動等への対応の推進			①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制を確立し、スクールカウンセラー・巡回指導員・うらおいフレンド等を活用しながら組織的対応を図る ②個人情報の保護に配慮しつつ、幼稚園・保育園や中学校との連携を深め、支援に役立てる (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①スクールカウンセラーや巡回指導員、うらおいフレンド、外部機関等と連携し早急・適切に対応ができた。 ②幼稚園や保育園との連携を深め、入学予定の支援体制の充実に努めた。また、中学校とも連携を強化し、入学後の支援に役立つようにした。
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	①幼・保連携では行事での交流だけでなく、児童に対する共通理解、情報の共有も図る。 ②小・中連携でも行事や授業だけでなく、児童指導、生徒指導でも理解と連携を推進する。 (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①「学校へ行こう週間」での生活科学習の交流など、行事で交流するだけでなく、幼稚園訪問も教育相談コーディネータ、養護教諭、1年生担任で実施するように改善し、より児童に対する共通理解も進んだが、一部の幼稚園から個人情報の扱いの点で情報の提供を拒まれる事態を生じ、今後検討していく必要がある。 ②中学校訪問も2年目となり、ねらいを明確にした取り組みに改善されてきている。教員同士の交流が今後の課題である。	①幼稚園・保育園と相互の参観等を推進し、課題を共有しつつ個々の役割の明確化を検討する ②9年間を見通したカリキュラム上の連携や児童指導の情報交換を推進する (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①「学校へ行こう週間」で生活科の交流を今年度も行った。幼保との連携を行事を通してより一層推進できた。役割の明確化は今後の課題である。 ②小中学校の研究の連携を始め、今年度はお互いの研究会に参加した。今後は児童指導の情報交換等もさらに推進していく。	①幼稚園・保育園と相互の参観等をさらに推進し、課題を共有しつつ個々の役割の明確化を検討する ②9年間を見通したカリキュラム上の連携や児童指導の情報交換を推進する (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①幼・保・小担当者会において、情報交換や公開行事参観などを通して、教育内容等の相互理解と幼児・児童間の交流を推進することができた。今後も継続的な連携をはかりたい。 ②中学校の学校訪問や出前授業など連携をはかり、中学校入学に向けて、支援体制の充実に努めた。今後も、継続的な連携をはかっていく。
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
④ 国際教育の推進	①池子ヒルズから通学している児童、保護者を含め、池子ヒルズとの交流の推進を図る。 ②学校支援地域本部と連携し、地域の教育力の掘り起こしを進め、国際教育の推進を図る。 (評価) ① 達成できなかった ② 達成した 成果と課題 ①東日本大震災以降、池子ヒルズ児童の転出が続け、またフィールドデイ等池子ヒルズからの呼びかけもなくなり、交流が困難となった。今後は計画を見直す必要がある。 ②上記のような実態から、地域の教育力の掘り起こしはなかなかすすめられなかったが、国際教育指導助手を活用し、国際理解のための学習を計画したり、講師を招いて、モンゴルの話を聞くなど、可能な限り国際教育の推進に努めた。	①池子ヒルズの保護者の協力を得て、国際教育の充実を図る ②池子小学校の国際教育のあり方をまとめ、教育課程に組み込み、学校の特色としていく (評価) ① 達成できなかった ② 達成した 成果と課題 ①今年度も働きかけを行ったが、池子ヒルズとの交流は困難であった。 ヒルズから通学する児童はいるが、以前のような交流ができないため、計画の見直しが必要である。 ②国際教育指導助手と担任が協力して、各学年で英語を中心とした国際教育の学習を充実させることができた。	①多様な文化に触れる内容の学習活動を各学年の発達段階に応じて取り入れる ②IEA(国際教育指導助手)の効果的な活用をはかり、諸外国の文化や歴史・自然などに関心を高めるような取り組みをする (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①それぞれの学年の発達段階に応じて、IEA(国際教育指導助手)との協力の下、全学年が国際教育に取り組んだ。 ②IEA(国際教育指導助手)と事前に話し合い、IEA(国際教育指導助手)の出身国の話から、様々な国の文化や特徴について取り上げ、授業づくりをした。

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
⑤ キャリア教育の推進	①キャリア教育に対する研修を実施し、教職員の共通理解を図り、指導力の向上を図る。 ②調べ学習や体験学習のねらいを明確にし、地域教育力の効果的な活用を図る。	①教育活動全体をキャリアの視点で見直し、キャリア教育の充実を図る ②地域教育力のさらなる活用を図り、調べ学習や体験学習の取り組みの充実を図る	①子どもの発達段階に応じて、自己の生き方について考える学習を体験活動を通して取り入れる ②保護者や地域の協力を得て、調べ学習や体験学習を充実させる
	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①様々な学習活動の中で、キャリア教育の視点は意識されているが、研修を実施したり、職員の間で共通理解を図るまでには至らなかった。今後の課題である。 ②調べ学習や体験学習のねらいを明確にするように努め、活動そのものの見直しを進めてきた。地域教材のさらなる掘り起こしが課題である。	成果と課題 ①体験活動を通して児童が自己の生き方や自分の将来について前向きに考えることはできたが、教育活動全体でキャリア教育を行うことは今後の課題である。 ②昔遊び、田植え等様々な教育活動で地域教育力を活用し、学習ボランティアの支援により調べ学習や体験学習を充実させることができた。	成果と課題 ①4年生での2分の1成人式 6年生のラーメン作り・八景島シーパラダイス飼育員体験・市長との話をとおして自己の生き方や今後の職業選択について考えることができた。 ②保護者や地域のお店(畳店 豆腐店)の協力を得て調べ学習や体験学習が充実した。
⑥ 福祉教育の推進	①各学年の福祉体験活動を整理し、発達段階に応じた学校全体としての福祉教育の推進を図る。 ②日常的な人権教育を推進し、人権感覚の向上に意識的に取り組む。	①体験からの学びを重視し、体験だけに終わらない日常に生きる福祉教育の推進をめざす ②人権に対する研修を継続し、人権意識の向上を図るとともに、地域・保護者への発信も充実させる。	①市の社会福祉協議会等の機関と連携を図り、発達段階に応じた体験的な福祉教育を実施する ②NPO等の外部団体や保護者と連携し、発達段階に配慮した福祉教育・人権教育を推進する
	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①4年生で地域講師を招き「福祉」について深く考える機会を持つことができたが、学校全体としての福祉体験活動の整理には至らなかった。今後は各教科の中で実施している「福祉に視点を当てた授業」を整理するとともに、「福祉体験学習」の充実を図っていきたい。 ②日常的な人権意識の啓発には学校全体で意図的に取り組んだ。指導者が人権感覚を磨くための研修参加をさらに促していきたい。	成果と課題 ①車いすでの生活について考えさせたり、視覚障害者体験を学習に取り入れたりとすることで、体験的に学ぶだけでなく、地域教育力を活用して日常に生きる福祉を学ぶ機会を増やした。 ②学級指導や朝会等で、いじめや暴力について児童自ら考えるような指導や講話を実践し、人権意識の向上を図った。	成果と課題 ①市の社会福祉協議会と連携する活動はなかったが学年ごとに体験的な福祉教育を実施した。 ②学年の発達段階に応じた様々な活動とおして地域教育力を生かして日常に生きる福祉を学ぶ機会を増やした。
⑦ 環境教育の推進	①各学年の年間指導計画の中で環境教育に関わる活動を行う。 ②地域や外部団体との連携を深め、環境教育の充実を図る。	①環境教育の全体計画を作成し、各学年での取り組みを整理する ②環境保護への体験的な取り組みが日常化するような学びの手だてを構築する	①環境教育の全体計画を作成し、各学年での取り組みを整理し、積極的に活動を行う ②環境教育担当者会での情報交換や、関係諸機関との連携を進め、日常的な活動として環境教育に取り組む
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①環境教育担当を中心として、各学年の環境に関わる活動を洗い出し、見直すことができた。 ②PTA活動で「アースデイ池子」など、環境に関する積極的な取り組みがなされ児童の環境に関する関心を高めると同時に、地域や外部団体との連携を深めることができた。	成果と課題 ①環境教育の全体計画の作成には至らなかったが、各学年の環境に関わる取り組みは継続して行った。 ②身近なものを通して7Rを学習し、ごみの分別に意識を持って取り組めるようになった。	成果と課題 ①全体計画に基づき、各学年や委員会・全校で活動を行った。 ②関係機関と連携し学習を行ったり、全校行事などで日常的に環境教育に取り組んだ。
⑧ 情報教育の推進	①学校教育全体の中で、情報の取捨選択能力を養う方法を検討する。 ②ICTに関する研修を実施し、授業でのICTの活用を推進する。	①情報活用能力の発達段階に応じた指導のあり方を検討し、学校全体で取り組む ②ICTの効果的な活用について研修の機会を増やす	①教員が積極的にICTを活用した授業に取り組むことにより、発達段階に応じた情報リテラシーの育成に取り組む ②情報を取捨選択し、正しく利用する能力を養うとともに、情報の発信者としてのモラルの育成を図る
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①情報の取捨選択は図書室での資料活用などICT以前の段階から育成が必要な能力であることを共通理解し、各教科、総合的な学習の時間の中で意識的に取り組んできている。 ②PCルームの活用、各教室でのプロジェクター、教材提示装置などの活用について研修した。さまざまな学習場面で活用が進んでいる。	成果と課題 ①図書室やICT機器を活用していく中で、情報モラルを含めた情報活用能力の指導のあり方を研修し、学校全体で意図的に取り組むことができた。 ②職員間で、各教科・行事の中でのICT機器の活用方法の情報交換を行うなど、研修の機会を増やすことができた。	成果と課題 ①情報教育の推進と、教職員の共通理解を図るため、来年度の「情報教育年間指導計画」の作成を行った。 ②今後はできあがったものを基に単元研究に取り組んでいきたい。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり

2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
① 地域への情報発信と 学校公開の工夫	<p>①学校の教育活動を積極的に公開し、保護者・地域と課題を共有することで、学校運営の充実を図る。 ②情報発信の手段の特性を生かした、より効果的な発信を行う。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①学校だよりの地域への配布を継続し、情報発信を積極的に行った。 ②「学校へ行こう週間」案内を市内掲示したり、幼稚園に配布するなど取り組みを拡大した。</p>	<p>①様々な公開において、意見を集約し、次の3年計画の策定に生かしていく ②ホームページでは、パスワードを設定するなどを工夫することで、より安全に、かつ迅速な情報発信を行う。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①様々な行事において地域に公開する機会を増やし、その都度感想・意見をいただき、今後の改善の参考資料とした。 ②ホームページ更新の回数を増やし、より迅速な情報発信に努めた。パスワードの設定はしなかったが個人情報には配慮し、多くの目で確認してから発信するようにした。</p>	<p>①学校、学年、学級等による保護者、地域への適正な情報発信の改善を図る ②学校支援地域本部事業の継続性の確保と改善</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①学校からの情報は、各学級・学年・学校・分掌からのたよりを通して発信することができた。学校だよりは、発行日にほぼ地域へも配付することができた。 ②学校支援地域本部事業は、様々な活動が活発に実施された。しかし、学校が主導で動いているので、今後は、地域コーディネーターなどと密に連携し、地域コーディネーターが主体的に動ける場も増やしていきたい。</p>
② 地域教育力の活用	<p>①学校支援地域本部と学校との円滑な連携を目指す。 ②保護者や地域に求める活動の見直しを図り、より意義のある連携を推進する。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①学校支援地域本部に新たに老人会の方に入っていたくなど、連携を深めることを意図したメンバー構成に努めた結果、活動がさらに充実した。 ②地域特性から活動を見直し、地域の活性化は十分なので、学校の環境整備を中心に活動していただき、結果として、より意義深い活動が展開された。</p>	<p>①学校支援地域本部と学校との連携を点検し、より効果的な活用を図る ②地域教育力の活用を年間計画の中に位置づける</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①学校支援地域本部のコーディネーターの役割を見直し、学校と支援地域本部の連携のあり方を再点検した。その結果、学校が求める支援が明確に伝わり、内容の充実度が増した。 ②支援地域本部担当が年間計画を作成し、計画的な活動になるよう推進することができた。</p>	<p>①地域コーディネーターを中心とした地域支援活動の調整と改善 ②地域ボランティアの活動の充実と、学校との双方向の交流の検討</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①地域コーディネーターを中心に、ふれあい作品展の展示を呼びかけていただき、展示を積極的に協力していただいた。 ②学校の環境整備を中心に活動していただき、結果として、よりよい意義深い活動が展開された。</p>
③ 学校評価を生かした 学校の改善	<p>①学校教育目標との関連という視点から、引き続き評価項目や評価方法の改善に取り組む。 ②学校評価に基づく改善点を明らかにし、保護者・地域と課題を共有できるようにする。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①評価項目については地域対象の評価項目を検討し、配布方法を工夫した結果、昨年を上回る回答を得ることができた。しかし、学校教育目標との関連という視点は学校関係者以外には難しいようであった。今後もさらに、学校改善につながるような評価項目を検討していきたい。 ②学校関係者評価委員の方々に具体的な取り組みを説明し、忌たんのないご意見をいただく中で、学校の課題が共有できた。</p>	<p>①学校評価をもとに学校改善が図られるような方策を検討する ②学校評価に基づき、明らかになった課題を次の3年間の計画に盛り込む</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①学校評価アンケートの項目をさらに工夫改善し、児童・教職員・保護者の振り返りが次年度の学校教育の充実につながるようとした。 ②学校評価アンケートの活用方法も含め、具体的な助言・指導を頂くことができ、学校の課題が明確になった。</p>	<p>①重点化した目標設定と、学校評価アンケートの実施場面と内容の検討 ②学校評価アンケートを生かした教育活動の点検と見直し</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 児童・保護者・地域による学校評価の他、学校関係者評価委員会での助言をもとに、教育活動の点検と見直しを図ることができた。今後は、児童・保護者による授業評価など、様々な評価方法を検討し工夫改善に努めたい。</p>

Ⅲ 教員の指導力向上 — 1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
① 授業研究の充実	<p>①研究テーマに基づき、6年間で育てたい力を明確にする。</p> <p>②校内研究を通して教員個々の指導力の向上を目指すとともに、チームとしての協働の意識を深める。</p>	<p>①中学校との連携による授業実践と6年間の指導体系の見直しを図る</p> <p>②学校全体としての指導力向上に向けた取り組みの成果を検証し、改善を図る</p>	<p>①中学校との連携による授業実践と6年間の指導体系の見直しを図る</p> <p>②学校全体としての指導力向上に向けた取り組みの成果を検証し、改善を図る</p>
	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①研究テーマについて再度共通理解を図る場を設け学校全体として6年間で取り組む方向性を再確認することができた。</p> <p>②ブロックを研究の単位とすることで、学年のつながりを意識した単元計画の設定や指導のあり方が検討されるようになってきた。</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①学校関係者評価委員に校内研究講師を兼ねていただくことにより、校内研究の成果を具体的に授業改善につなげる道筋ができ、指導体系の見直しを図ることができた。</p> <p>②新しい評価の考え方についての研修を行い、それをもとに指導計画を見直すことにより、指導力の向上を図ることができた。</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①学年ブロックごとにめざす子どもの姿や達成のための手立てを設定してブロックごとの事前研究を行い、縦のつながりを重視した校内研究をすすめた。</p> <p>②外部の講師を招いて校内研究の内容に具体的な指導を受け、指導力の向上を図ることができた。</p>
② 授業評価の活用	<p>①保護者・地域と連携しながら、学校の教育力の向上につながるような評価のあり方を引き続き検討していく。</p> <p>②授業改善につながるような評価のあり方を引き続き検討していく。</p>	<p>①多様な観点から授業評価を行い、学校改善につなげていく</p> <p>②新しい評価をもとに、授業評価を行い、指導力の向上を図る</p>	<p>①授業評価に対する、教員の共通理解を深め、授業の改善に努める</p> <p>②校内研究の中で、授業の評価を教員同士で行い、研究に全員で取り組む意識を高める</p>
	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①学校関係者評価委員の方に、研究授業や研究全体会に参加していただき、「保護者や地域の方」からの視点で授業を評価していただくことができた。数値化という点では難しかった。</p> <p>②今後の授業改善につなげていけるよう、保護者・地域から頂いた意見を共有した。</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①学校関係者評価委員に校内研究講師を兼ねていただくことにより、校内研究による授業改善を学校改善につなげる道筋ができた。</p> <p>②新しい評価の考え方についての研修を行い、それをもとに授業評価し、授業改善と指導力の向上を図ることができた。</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①学校関係者評価委員に校内研究の講師を兼ねていただくことにより、校内研究による授業改善をさらに進めることができた。</p> <p>②校内研究に取り組む意識が以前に増して高くなり、ブロックでの話し合いを活発に行うことができた。</p>
③ 研修事業の充実	<p>①新学習指導要領を実施する中で、さらに研修の時間確保を工夫し、確保する。</p> <p>②校内研修の成果が学校全体の指導力の向上につながるように、組織的に取り組む。</p>	<p>①研修による指導力の向上が核となるような学校運営組織の改善に取り組む</p> <p>②教員の自主的な研修が、授業に活かされ、学校全体の指導力の向上につながるような人材育成を目指す</p>	<p>①学校内のOJTを機能させ、自主的で活発な教員研修が行われるよう、時間の確保を図る</p> <p>②授業づくりに直接つながるよう、研究研修部を中心に計画的に研究・研修を実施する</p>
	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①学年会の中でできる限り、ブロック研究の時間を取り、校内研究について学びを深めたり、2学年にわたる教材研究を行ったりする機会を設けることができた。</p> <p>②研究授業のための研究ではなく、研究テーマについて日々の授業の中で取り組む意識が醸成されてきた。今後はさらにねらいを明確にした授業を心がけたい。</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①研修による指導力の向上のため、授業の参観や研究会への相互参加を行った。学校運営組織の改善については今後の課題である。</p> <p>②児童の実態から指導の手立てを考え共通理解することで、学年のつながりを意識した研究を進めることができた。このような研修を通して人材育成につながる取り組みを進められた。</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①初任者に対しては、学校全体で指導・支援していく体制が作られている。</p> <p>②他校の授業参観や発表会に参加することを通して、校内研究で課題となることや参考にしたいことを明確にできた。また、研修会を設定し学力向上に向けてこれからの課題を明確にできた。</p>

平成23年度～平成25年度 学校による点検及び評価の推移(逗子中学校)

I 子どもたちの学力向上		1 個に応じた指導の充実		
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	
① 「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実			①指導法の工夫改善を図り、効果的な少人数・習熟度別・チームティーチングの実践・検証 ②学習支援情報(個人学習カルテ)の作成と、教科相談等の支援活動の実施 ③校内研究と連動した研修の実施と授業改善	
			(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	
② 「読解力」向上の取り組みの推進	H23(2011)年度取組内容 ①様々な文章や資料を読む機会や、自分で意見を述べたりする機会を作り、コミュニケーション能力の育成を図る。 ②各教科で、言語活動の充実を年間計画の中に取り込む。	H24(2012)年度取組内容 ①言語活動の充実を重視した各教科での年間計画の作成 ②様々な文章や資料を読む機会や、自分で意見を述べたりする機会を充実させ、コミュニケーション能力を育成する。	H25(2013)年度取組内容 ①言語活動の充実を重視した各教科での年間指導計画の作成 ②社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力の育成(生徒の自己評価) ・言語、シンボル、テキストを活用する能力 ・知識や情報を活用する能力 ・テクノロジーを活用する能力	
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	
③ 読書活動の推進	H23(2011)年度取組内容 ①学校図書館指導員(司書免許所有者)と各教科との連携を推進していく。 ②一人ひとりの読書量を増やすため、新たな読書実践を探索していく。	H24(2012)年度取組内容 ①学習情報センターとしての学校図書館の高機能化 ②市立図書館との連携の推進	H25(2013)年度取組内容 ①学習情報センターとしての学校図書館機能の充実 ②朝読書を中心とした読書活動の充実 ③市立図書館との連携	
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	
④ 校内支援体制を活用した支援教育の推進	H23(2011)年度取組内容 ①校内支援体制の運用を通じて、教育相談コーディネーター中心に個に応じた課題の共通理解を図り、解決に向けての手だてを工夫していく。 ②ボランティアによる学習支援の推進を図っていく。	H24(2012)年度取組内容 ①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制を確立 ②学習支援員 SC うるおいフレンド ボランティアなど個に応じた支援を確立	H25(2013)年度取組内容 ①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制の充実 ②学習支援員、スクールカウンセラー、心の教室相談員、ボランティア等の人的リソースを有効に活用した、支援教室等、個に応じた支援の実施 ③学習環境・授業のユニバーサル化を図るための、スクールスタンダードの検討	
	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった	
	成果と課題 ・個に応じた指導計画につき、教育相談コーディネーターをはじめとする諸担当から、支援を要する生徒およびその具体的な指導が提示され、全教職員の協力で、チームティーチングや個別指導などの方策を投じていった。 ・支援教育の充実が、現教職員の取り組みで運営していくのが精一杯であり、学習ボランティアを募る余裕がなかった。 ・多くの多種多様な生徒を抱えているために、外部者となる学習ボランティアを授業に入れることは、生徒の個人情報遵守の観点から考え、今後慎重に考えていきたい。	成果と課題 ①教育相談CDを二人体制にし、5月をSCやSSWS・SVなどによるアセスメント月間と位置付けて、不登校生徒及び普通教室で困惑している生徒を特定し、個別の指導を行ってきた。その結果、登校できるようになった生徒も多くなった。(関係機関は、見相、研究所、なぎさ、子育て支援課などと連携してきた)大学生ボランティア(4名)を募り、人的リソースも確保した。 ②10月からは、支援教室を開設することができた。	成果と課題 ①二人の教育相談コーディネーターを中心に、毎月の校内支援委員会及び関係諸団体とのネットワーク会議等機能した。 ②取り組みの成果として不登校生徒数の減少(18名から14名)をみた。 ③教室前面の掲示板にカーテンを設置し、教室環境の構造化を図ったが、まだ縮についたばかりである。	

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成	<p>①小学校との連携において、基本的な生活習慣の育成を果たしていく。 ②学校だより・保健室だより等で、積極的に学校から家庭に向けて情報発信をしていく。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ・小学校との連携の柱は、授業参観したり直接授業を行ったりすることで、生徒個々の実態を把握することができた。それは教育相談コーディネーターや、スクールカウンセラーの訪問参観や英語の出前授業が主な事業であった。基本的な生活習慣の確立を目指すために、小学生時代からの基礎づくりを見直し、中学生時代へ発展したものへとつなげていけるよう、一つひとつの事業が活かされた。 ・生徒への励みと、小学校時代に比した成長度やその逆などもうかがえ、基本的な生活習慣の確立につとめた。 ・学級(各担任の実態は様々である)・学年・学校・保健室だよりは定期的に発行されていて、十分な役割を果たしている。 ・特に学校だよりの内容については、各学年の折々の活動が伝えられるよう計画・実行することができた。 ・各家庭への情報提供の深化を図るためにプリント配付時には、その補助的な役割として、下半期</p>	<p>①保護者等と連携をした、基本的な生活習慣の育成 ②学校からの情報発信を一元化し、各種お便りを統合</p> <p>(評価) ① 達成できなかった ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①PTA総会や教育課程説明会などを通じて、基本的な生活習慣の確立が、学習の深化及び大人になるという自立の途につくために、不可欠なものであることを訴えてきた。そのために、毎朝の食事を摂ることや家庭学習の定着が、基本的な生活習慣の育成を推進する上で、最も必要なことを訴えたが、成果は把握できていない。しかし、家庭への連絡手段として、電話連絡は密にとっていた。 ②様々な立場から、保護者及び生徒への発信が、各種お便りとしてなされていた。発信力の向上は昨年度よりも増して、内容も充実していた。各種お便りの特徴を掌握し、学校として一つのねらいに迫るために、様々な角度から情報の発信が一元化できるよう教頭が調整を行い、各種お便りの統合を図っていった。 ○「Treasure Student褒章制度」を設置し、生徒をプラスのストロークで評価した。</p>	<p>①保護者等と連携した、生徒の基本的な生活習慣の育成 ・毎日の朝食を必ずとる(80%以上) ・「孤食率」の低下を呼びかける(35%未満) ・家庭でルールをつくり、子どもに家族の一員としての自覚を促す ②学校からの多様な手段による情報発信と、保護者・地域との密な連携</p> <p>(評価) ① 達成できなかった ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①朝食は全校生徒の9割以上がほぼ毎日取っているが、他は半数以下であった。 ②学校便り、学年便り、学級通信に加え、校長通信を月2回程度発行し、ホームページにも掲載した。</p>
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	<p>①全校道徳等、道徳の時間を充実を図っていく。 ②学校支援地域本部の協力による、地域人材活用の授業を発展させていく。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった</p> <p>成果と課題 ・全校道徳の存在と意義は学校の特色として定着し、効果も上がっている。 ・地域教育力の活用については、その人材発掘をデータベース化できることが、最優先として取り組んでいくべきものと思っている。担当者への指導・助言を深めていくことにする。</p>	<p>①道徳の時間における指導と、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育との関連を密接なものとする。 ②生徒間に思いやり・感謝する人間関係を構築する ③道徳観について保護者との共通理解を深める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①各教科及び特別活動、総合的な学習の時間など、具体的に道徳のどの内容項目に関連しているかを、年間計画作成の段階で確認した。 ②個性の尊重のもとに、お互いの存在感を認め合う、仲間づくりの大切さは、各学年の発達段階の中で伝統的にも根付いている。年間二回の全校道徳で、「いのちの授業」を実施した。 ③学年及び学級通信を通して、道徳観なるものが取り扱われてはいるものの、それで保護者との共通理解が深まったとまでは言い難い。</p>	<p>①道徳の時間における指導と、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育との関連 ②全校道徳等、道徳の時間の新たな手法についての検討(全校道徳年間3回以上実施) ③地域人材活用の授業実践(年間2回以上)</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①学習情報で連携を図っている。今後、一覧表を作成する。 ②年間3回の全校道徳を実施した。 ③全校道徳で地域人材を活用した。</p>
③ 豊かな体験活動の推進	<p>①逗子の豊かで恵まれた自然にふれるとともに、自然のすばらしさや大切さを学ぶ、自然体験学習を推進していく。 ②発達段階に応じた勤労体験(職業体験)に取り組む、働くことや学ぶことの意義について地域の方から学習をしていく。</p> <p>(評価) ① 達成できなかった ② 達成した</p> <p>成果と課題 ・学校の立地条件や環境から考えて、自然の恵みについては十分に意識できている。それだけに改めてという場面を設定するところまで、指導者が必要に迫られるイメージが持てていない感がある。 ・その分、二年生の自然体験学習には、課題解決型の工夫のある取り組みがなされている。 ・各学年におけるキャリア教育が進められている中で、実体験となると二年生の職業体験学習だが、年々保護者・地域の協力により、生徒の主体的な見地から、幅広い選択が成されるようになってきた。</p>	<p>①生徒がボランティア活動等の社会奉仕活動に、その意義を知って自ら参加し、社会性や協調性を育むようにする。</p> <p>(評価) ① 達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①ボランティア活動及び社会への奉仕活動について、その意義は十分に知りながらも、実践参加するまでには至っていない。しかし、各学年の発達段階の中で、社会性や協調性を身につける取り組みは進められている。特に二年生職業体験学習においては、主体的な意識のもとで、社会性を意識した事前及び事後学習が進められている。 Z～Learningとして本校の総合的な学習の時間の中で、市民性教育の充実を図るために、次年度に向けて基盤作りに取り組んできていく。</p>	<p>①キャリア教育・市民性教育を柱として、総合的な学習の時間や特別活動を中心に、地域に根ざした体験活動の実施 ・現代的な教育課題 ・学校行事の縦割りブロック活動 ・自然体験活動 ・職業体験 ・修学旅行</p> <p>(評価) ① 達成した</p> <p>成果と課題 ①次年度3年生が、市への提言を行う予定。</p>

【逗子中学校】

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
④ 食育と体力づくり・健康教育の推進	①体力づくり、健康教育を授業や行事の中で実践し、充実を図っていく。 ②PTAとの連携による、食育の体系化を推進していく。	①授業や行事の中での体力づくり、健康教育の実践の定着化 ②地域の協力やPTAとの連携した、食育の体系化	①体力づくり、健康教育を授業や行事の中で実践、充実 ・体育授業のチームティーチング(教員3名による指導) ・ラジオ体操 ・マラソン大会 ②地域やPTAと連携した食育の推進
	(評価) ① 達成できなかった ② 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった
	成果と課題 ・学年ごとに健康教育として位置づけられていたが、今年度においては未消化(三年生の性感染症予防のみ実施)の学年があった。 ・熱中症対策として、水分補給のすすめの取り組みが定着してきたのは大きな成果の一つとらえている。 ・教育課程の中で、重点項目の一つにされているにもかかわらず、なかなか具体的な取り組みが滞っているのが実態である。家庭科の授業として一・二年生を対象に、管理栄養士を招いて一時間の食育の授業を行い、生徒たちの興味・関心を促してきた。この実績を起爆剤にして、PTAと連携した活動につなげていけるように次のステップとして考えていく。	成果: ①学年ごとにテーマを定着させ、それぞれのねらいを果たすために、年間計画の中に位置づけ定着がなされた。保健体育を3Tで実施し、ラジオ体操や集団行進の徹底をはじめとした体力づくりを推進した。 ②食育の実践化として、各教科及び特別活動などを通じて、果たされているものの、具体的な実践として昨年度から取り組み始めた一・二年生を対象に管理栄養士を招き家庭科の授業を通して、本校の食育学習の根幹をなすものと、共通認識を持ち実践化が図られている。 課題: ○地域の協力を得ながらPTAとの連携につなげていくことは、文化祭時の「餅つき」は実施したものの、次年度への課題としている。 ○PTAとの食育における連携については、成人教育委員会との活動の中に計画できるよう検討していく。	成果と課題 ①三つの具体例をすべて取り組んだ。 ②1・2年生の技術家庭科で食育の授業を行ったが、PTAを巻き込むには至っていない。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
① 学校安全の推進			①CAP(子どもへの暴力防止プログラム)等を活用した不審者対策、安全教育の充実と逗子中学校防災計画の見直し ②大地震・津波を想定した避難訓練・災害時伝言ダイヤル訓練等の充実 ③地域と連携した防災訓練における、中学生が主体的に活動する場面設定 (評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
			成果と課題 ①CAP(子どもへの暴力防止プログラム)以外にも県警の安全教育を実施し、本校の防災計画も見直した。 ②年間3回の避難訓練、年間3回の災害時伝言ダイヤル訓練を実施した。 ③池子小学校で行った「避難所運営訓練」に中学生がボランティアとして参加した。
行動プラン	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
② 問題行動等への対応の推進			①スクールカウンセラー、うるおいフレンド(心の教室相談員)、学習支援員の効果的な活用と、継続的な校内相談体制の再検討 ②いじめ・不登校への予防的な相談の実施と研究所等他機関との密な連携 (評価) ① 達成した ② 達成した
			成果と課題 ①教育相談コーディネーターを中心に、人材の活用と情報の共有化を推進した。 ②研究所にお願いして「構造的グループエンカウンター」の手法による学級づくり、研究所スーパーバイザーによる研修会を実施した。
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	①小学校と中学校間で、「保健体育」、「外国語活動」や「国際教育」を活用した、授業などの交流を推進していく。 ②小学校・中学校の連携では、教職員の授業等における交流や、9年間を見通したカリキュラムの共同研修などの工夫・改善をしていく。 (評価) ① 達成した ② 達成できなかった	①小学校と中学校間で「体育」や、「外国語活動」などだけではなく、授業や行事などの交流の推進を検討。 ②小学校・中学校の連携では、教職員の授業等における交流や9年間を見通したカリキュラムの共同研修などを発展 (評価) ① 達成した ② 達成できなかった	①小・中学校間で、教員の授業交流の実施 ②小・中学校、9年間を見通した「学び方」のカリキュラム作りの検討 ③湘南保育園との連携の模索(職業体験) (評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	成果と課題 ・外国語活動については、今年度計画されていた全研修に必ず最低一人は参加し、その内容伝達を行った。英語科としては、これまでの認識とは変わって、逗子市外国語活動ガイドラインを真に理解した上で、中学校英語の授業に入れる実感を持つことができた。 ・他教科でも同じような取り組みが理想とは考える一方で、時間的な工夫や融通は難しいものがあると思っている。共同研修という設定で、まずは年間に数回、無理のないところから着手していく。	成果と課題 ①小中連携事業の中で、外国語の授業を中心とした事業は定着してきた一方で、その他の教科に広がっていない現状はある。しかし、お互いの研究会に参加することを、研究主任同士を通じて共通理解をとり、実際に2～3回の交流を行なうことができた。今後は多くの教員に、広がっていくように企画していく。 ②それぞれの研究主任及び教頭を通じて、9ヶ年を見通した「学び方のカリキュラム作り」の、基本的な考え方について共同研修の場を設けたが、それを発展させていくまでには至らなかった。	成果と課題 ①池子小学校で体育教員が、逗子小学校で英語教員が授業を行った。 ②モデルを提示した。 ③湘南保育園をはじめ、沼間愛児園、桜山保育園、双葉保育園、聖マリア幼稚園で職業体験を実施した。
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
④ 国際教育の推進	①異文化を理解し、多文化と共生するために、各教科の授業を通して、コミュニケーション能力の育成を図っていく。 ②IEAの、効果的な活用を発展させていく。 (評価) ① 達成した ② 達成した	①異文化を理解し、多文化と共生するために、授業や行事を通して、コミュニケーション能力の育成 ②国際教育指導助手の、効果的な活用による生徒のコミュニケーション能力の育成 (評価) ① 達成した ② 達成した	①異文化を理解し、多文化と共生するために、地域人材の活用を図りながら、授業や行事を通じた、コミュニケーション能力の育成 ②IEA(国際教育指導助手)の効果的な活用による生徒のコミュニケーション能力の育成及び国際教育の実施 (評価) ① 達成できなかった ② 達成した
	成果と課題 ・異文化理解や多文化共生については、どうしても英語科が中心にはなるものの、コミュニケーション能力の成長を知るために、各教科ならびに特別活動や総合的な学習においてプレゼンを行い、自己表現活動の向上を認めることができた。 ・今年度の国際教育指導助手からは、国際理解教育のための資料提供が活発に行われていて、それを生徒がしっかりと受けとめることができていた。 ・今後はその企画・実行が、更に他教科へと広げ	成果と課題 ①異文化理解や多文化との共生を図るには、英語科が中心になりがちなもの、他教科及び特別活動を盛り込んだ取り組みがなされている。 ②英語の授業において、国際教育指導助手の効率的な活用は充実した役割を果たしている。異文化理解とともに、コミュニケーション能力の育成にも、大きな力を尽くしている。	成果と課題 ①地域人材の活用まで及ばなかった。 ②IEA(国際教育指導助手)を活用し、「日本の学校、オーストラリアの学校」を紹介した。

【逗子中学校】

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
⑤ キャリア教育の推進	<p>①職業体験学習を実施(体験場所の拡大)していく。 ②学校行事・生徒会活動の充実を図り、社会性や集団性を育成していく。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった</p> <p>成果と課題 ・二年生で職業体験学習を実施していく中で、生徒の主体性を大切にできたために、その希望範囲が広がってきたが、保護者や地域の協力を得ながら、体験場所の拡大につとめてきた。 ・生徒会活動では、生徒の企画力や行動力、そしてリーダー性が求められる中で、生徒会がより力を発揮できるようにするためには、一層の研修時間を要するものとする。</p>	<p>①職業体験学習の実施による社会性の育成 ②学校行事・生徒会活動の発展を図り、社会性や集団性を育成</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①職業体験の取り組みにおいて、その事前事後の学習を通じて、一般社会の中で不可欠となる礼儀や作法などを学んでいる。それはアポ取りに始まって当日の実習、そして事後のお礼状書きなど、一連の流れの中で貴重な社会性を育むことができていた。 ②生徒会活動の充実には、生徒会の企画力及び実行力が問われる中で、生徒にそうした力を育成していくため、特に夏季休業期間中を利用して何らかのリーダー研修が企画できるよう、中長期的な見地に立って考えているところである。</p>	<p>①職業体験学習の実施等によりキャリア教育の推進 ②学校行事・生徒会活動の充実 ③キャリア教育・市民性教育のカリキュラムづくり</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①例年通り59箇所以上の事業所の協力で職業体験を実施した。 ②PTA及び学校支援地域本部の協力の下、取り組んだ。 ③取り組みの2年目ということで、カリキュラム作りを行った。</p>
⑥ 福祉教育の推進	<p>①体験種目を増やした、福祉体験学習を実施していく。 ②社会福祉の理解を深め、他者への思いやりの心育成していく。</p> <p>(評価) ① 達成できなかった ② 達成した</p> <p>成果と課題 ・福祉体験学習については、その位置づけを再確認することで、本校としての出直しを図る必要がある。 ・特に道徳の授業で、一番多く取り扱われていた。本校の重点目標である「3あい(認め合い、学び合い、高め合い)」にあるように、他者への思いやりの心が持てるよう、日々の学校生活における様々な場面で意識させ、校内での実践は果たしている。 ・その実践の一般化となると別であり、校外での個々の実生活の中で言動に出せるよう育成していく。</p>	<p>①福祉体験学習の実施により心の育成 ②社会福祉の理解を深め、社会性の伸長を図る。</p> <p>(評価) ① 達成できなかった ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①実体験型の学習計画を、総合的な学習の時間の中で企画・実施していけるよう、また、三年間を見通した系統的な位置づけが果たせるよう、今年度は次年度以降実施に向けて話し合いをこどもってしまつた。 ②社会福祉に目を向けさせ、思いやりの心を育むためとして、特に本校教育目標の重点である「3あい(認め合い、学び合い、高め合い)」にあるように、様々な場面で社会性となってその力が発揮されている。</p>	<p>①福祉体験学習の実施による豊かな心の育成 ②市民性教育の一環として、社会福祉の理解を深め、地域と協働した生徒の社会性の伸長</p> <p>(評価) ① 達成できなかった ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①社会福祉協議会と連携して中学生にできるボランティアを模索したが、実現に至っていない。 ②市役所福祉部の協力の下、1年生を対象に講演会を実施した。</p>
⑦ 環境教育の推進	<p>①生徒会活動で、ホテルの里づくりの推進を図る。 ②牛乳パックリサイクルの実践を通して、環境教育の視点を重視していく。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった</p> <p>成果と課題 ・学校支援地域本部事業の一環でもあり、ホテルの里づくりの基盤構築として、川の生息物を示す掲示板を設置した。生徒会活動においても、川の定期的な清掃や見守りを行っていた。 ・リサイクルのための洗浄処理として、十分にその意識を感じて見守っている。毎月の牛乳パックリサイクル結果(重さ)について、学校だよりなどを通じて知らせた。</p>	<p>①生徒会活動で、ホテルの里づくりの推進 ②総合的な学習の時間で環境教育の重点化</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①学校支援地域本部事業としても、ほたるの里作りに必要な生態状況を知ることで、それを守るために環境整備が必要であることを知り、そのために川の清掃活動などを積極的に取り組んだ。 ②地域清掃を含めた美化活動を、総合的な学習の時間の中で進めていく中、環境教育の第一歩として今年度は、一年生を対象にした講演や、夏季休業中に行なわれた特別講座などで重点的に取り組んだ。</p>	<p>①生徒会活動を中心とした、ホテルの里づくりの推進 ②市民性教育の一環として、地域と協働した環境教育の実践</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①6月に本校裏の川で合計十数匹の蛍を確認した。 ②学校支援地域本部及び池子地区の住民と一緒に地域清掃を実施した。</p>
⑧ 情報教育の推進	<p>①映像を活用したプレゼンテーションを学年ごとに実践し、情報活用能力の育成を目指していく。</p> <p>(評価) 達成した</p> <p>成果と課題 ・本校の重点指導項目の一つでもあるプレゼンテーション能力の向上につき、実物投影機及びプロジェクターの活用によって、自己表現活動が身近な取り組みとして定着してきている。</p>	<p>①映像を活用したプレゼンテーションを取り入れた授業を学年ごとに編成し、発達段階に応じた情報活用能力の育成</p> <p>(評価) ① 達成した</p> <p>成果と課題 ①各教科及び道徳や特別活動などで、プレゼン能力の向上を目指すために、先輩たちの言動を自分たちと比較することによって、よき励みや自信につなげていけるようにした。</p>	<p>①市民性教育の一環として、ICTを活用したプレゼンテーションを取り入れた授業を学年ごとに編成 ②ICTの「光と闇」に関する情報セキュリティについて、生徒・保護者の理解促進</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①1年生はデジタルカメラ、2年生はオーバーヘッドカメラ、3年生はパワーポイントを活用して発表会を実施した。 ②県警の協力の下、7月に全校生徒を対象として携帯電話の危険性について講演会を実施した。</p>

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
① 地域への情報発信と 学校公開の工夫	<p>H23(2011)年度取組内容</p> <p>①学校公開日(本校では毎日)の位置づけやねらいを明確にし、保護者及び地域に対して、学校との連携の重要性を呼びかけていく。 ②研究授業の保護者・地域への公開を実施する。 ③情報を積極的に発信し、学校だよりの工夫:目で見える教育活動を実施していく。</p> <p>(評価) ① 達成できなかった ② 達成できなかった ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ・本校では毎日が公開日としている中で、実際には生徒の特別な活動や発表などがなく、保護者の来校はほとんどない。(PTA活動があった日には、ご案内の声をかけし、授業参観を促している。) ・今年度の具体的な試みとしては、学校・学年だよりによる情報提供が中心となっている。保護者が、来校・参観の必要性までに至っていない現状を、どのように受けとめ分析していくべきかが課題である。 ・学校だよりは、内容も発行数も安定している。今年度は、結果・記録報告よりも、諸活動の進捗状況について重点をおいた記事を掲載した。タイムリーさを大切に取組んできた。</p>	<p>H24(2012)年度取組内容</p> <p>①毎月初日の「学校公開日」を設定し、家庭・地域との連携 ②研究授業の保護者・地域への公開を実施 ③情報を積極的に発信し、学校だよりの工夫:目で見える教育活動の実施</p> <p>(評価) ① 達成できなかった ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①学校公開日の周知について、お便りなどでお知らせをしてきた実績を上げることができなかった。公開日の意義やねらいを改めて明確に伝えることから、次年度の改善の糸口にしていきたい。 ②研究授業開催の折に、近隣の学校や評価委員の参加があった。授業力向上を目指している意図を、もう一度、保護者・地域に理解してもらい、参加者増につなげたい。 ③内容も発行数も充実していて、常に各学年の様子や行事の取り組み状況を盛り込んだもので、学校全体の動きを象徴するものとして定着している。</p>	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①毎日を「学校公開日」と設定し、家庭・地域との連携を図る ②授業を保護者・地域に授業公開する機会を年間5回以上設定 ③情報を学校寄り、ホームページ、校長通信等で積極的に発信し、「信頼される学校づくり」の推進</p> <p>(評価) ① 達成できなかった ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①毎日を学校公開日としたが、実際には参観者はいなかった。 ②年間5回の授業公開を実施した。 ③事例として挙げたものすべてに取り組んだ。</p>
② 地域教育力の活用	<p>H23(2011)年度取組内容</p> <p>①地域の担い手としての生徒の育成を図り、地域行事に参加させていく。 ②学校関係者評価委員・学校評議員・PTA役員との連携を強化していく。 ③学校支援地域本部における、地域コーディネーターの役割を明確化していく。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった</p> <p>成果と課題 ・地域における存在感を自覚した学校生活のもと、様々な地域行事に参加することができた。地域の方から、お褒めの言葉をいただく場面もあった。 ・各会ともその主旨を重んじた中で、学校運営に直接活かしていけるよう、次回への課題解決につとめてきた。 ・事業としては、生徒が主体となって担当教師がまとめて形に残していく方式だったので、地域コーディネーターの方に企画・運営を手がけてもらうために、十分な話し合いを継続的に持てていなかった。</p>	<p>H24(2012)年度取組内容</p> <p>①地域の担い手としての生徒の育成を図り、地域行事に積極的に参加 ②学校関係者評価委員・学校評議員・PTA役員との連携を強化 ③学校支援地域本部における地域コーディネーターの役割の明確化</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果: ①地域に共存している自覚のもとで、様々な地域行事に参加し、生徒たちの意識を高めることができた。 ②各会とも充実した運営及び連携を図ることができた。「地域教育協議会」の活動においては、学校のニーズに応じた人選を行い、特に体育祭や文化祭・合唱祭においては、PTAとの連携のもとで、多大な協力を得ることができた。 ③地域コーディネーターを新たな方に依頼し、様々な場面で尽力いただけた。明確な役割のもとに、学校側担当者とも綿密な連携が保てていた。 課題:地域人材を利用した授業が、あまり開発されていないため、その取り組みが課題である。</p>	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①地域の担い手としての生徒の育成と、地域行事への積極的な参加(参加者数50人以上) ②学校関係者評価委員・学校評議員・地域教育協議会・PTAとの連携の強化・学校支援地域本部における地域コーディネーターの目的別複数配置・小、中、高連携の模索</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①避難時運営訓練や地域の運動会、せせらぎ祭りに延べ100人以上が参加した。 ②事例として挙げたものすべてに取り組んだ。</p>
③ 学校評価を生かした 学校の改善	<p>H23(2011)年度取組内容</p> <p>①学校目標との関連を明確にしつつ、視点や重点を明らかにした目標や、評価項目を設定して評価のポイントを絞り、実効ある評価活動を実施していく。 ②学校の自己評価に基づいた、学校関係者評価を生かし、具体的な学校改善を行うとともに、開かれた学校づくりの推進</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ・学校目標とどのように関連しているのか、その達成のためにどのような手立てをとっていく必要があるのか、その評価が必要と考えられる場面において、実効を求めた積極的な取り組みを実施してきた。 ・助言・指導を受けたことについては、次回までを最短目標にして、その一方では年間を通じて計画的な具体策を投じ、実効を果たしていけるように、開かれた学校づくりの推進につとめてきた。</p>	<p>H24(2012)年度取組内容</p> <p>①学校目標との関連を明確にしつつ、目標や評価項目を設定して評価のポイントを絞り、実効ある評価活動を実施 ②学校の自己評価に基づいた学校関係者評価を生かし、具体的な学校改善を行うとともに、開かれた学校づくりの推進</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①学校目標を具体的に実現させていくため、各場面において目標との関連付けを確認し、実効ある評価活動を目指して取り組んできた。その結果を、次年度に活かせるよう活動してきた。 ②学校の自己評価を基準にした中で、学校関係者評価からの指導・助言を活かし具体的な学校改善に努めてきた。年間を通じて計画的な取り組みを重ね、開かれた学校づくりの推進を図った。</p>	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①年度の重点を明確にして評価のポイントを絞り、アクションにつながる学校評価を実施する</p> <p>(評価) ① 達成した</p> <p>成果と課題 ①年度の重点を校長通信でお知らせし、保護者へのアンケートも実施した。</p>

③ 教員の指導力向上

1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
① 授業研究の充実	<p>①研究授業の積極的実践(1人年2回)を実施していく。</p> <p>②保護者・外部者による授業評価を実施していく。</p> <p>③教科会の充実を図っていく。</p>	<p>①研究授業の積極的実践(1人年2回)を実施</p> <p>②保護者・外部者による授業評価を実施</p> <p>③教科会の充実</p>	<p>①学習評価の工夫による授業改善</p> <p>②授業研究の積極的実践(1人年2回以上)の実施</p> <p>③スーパーバイザー、横浜国立大学附属横浜中学校を活用した研究の充実保護者・学校関係者による授業評価の実施</p> <p>④教科会を中心とした組織的授業研究</p>
	<p>(評価)</p> <p>① 達成できなかった ② 達成した ③ 達成できなかった</p> <p>成果と課題</p> <p>・今年度においては、次年度からの新学習指導要領全面実施の準備のために後れをとってしまったのか、各自が年に二回という回数は達成できていない者が多かった。</p> <p>・授業参観日は勿論のこと、外部評価を積極的に求めてそれを集約し、個々の授業者および教職員全体へ課題提起を試みてきた。</p> <p>・毎週一時間ずつ、各教科における打ち合わせが時間割内で保障される中、授業内容の充実と指導力の向上を目指した情報交換などが行なわれ、有効に活用することができた。</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①授業力の向上を目指した取り組みで、逗子市委託研究の充実を図るものでもあり、全員が年間二回の「授業公開」という形で達成した。次年度は、研究にかかわるスーパーバイザーの重要性を感じているため、市の委託研究を受けて年間を通してスーパーバイザーを依頼したい。</p> <p>②各学校行事において、アンケート形式で授業評価を積極的に求め、その集約結果を学校運営に活かしていくとともに、次年度への改善に役立てている。</p> <p>③時間割の中で、毎週一時間ずつ各教科会を設定・保障しており、授業力の向上及び指導法の改善などにつながる、情報交換を含めた充実した話し合いを持つことができた。</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した ④ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①校内研究の中で取り組んだ。</p> <p>②一人年間2回の研究テーマに沿った授業公開を実施した。</p> <p>③すべて取り組んだ。</p> <p>④週1回の教科会を時間割に組み込んで取り組んだ。</p>

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
② 授業評価の活用	<p>①多様な観点から授業評価を行い、評価の幅や精度の向上を図っていく。</p> <p>②「生徒による授業評価」と「教員相互による授業評価」から、視点や観点を明確にし、授業研究を充実させていく。</p>	<p>①授業評価の再検討を行い、評価の幅や精度の向上</p> <p>②「生徒による授業評価」と「教員相互による授業評価」から、課題を明確にし、授業研究を充実</p>	<p>①保護者・関係者による授業評価の実施と授業改善</p> <p>②「生徒による授業評価」と「教員相互による授業評価」の実施と、課題を明確にした授業改善</p>
	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>・言語活動や自己表現活動の充実を目指すために、各教科内で有意義な取り組みが進められていた。特に少人数担当教科においては、指導案の検討や実践例の工夫・改善に向けた話し合いがなされていた。</p> <p>・授業は生徒の協力と授業者の創意工夫がなされた結果、その相互関係が良好であった、充実した授業創りが果たせるものと意識し合っている。授業に対して事前・事後評価までを充実させることにより、更なる深化が果たせるものとする。</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①自己表現及び言語活動の充実を図るために、特に少人数授業担当者の中で、指導法の工夫・改善について、具体的に実践化した。</p> <p>②授業評価の深化を図るため、生徒による授業評価の方法に新しい方式(過年度までのマークシート方式に加えて記述項目を増やした)を取り入れ、具体的な工夫・改善点を検証した。「評価を意識した授業展開の工夫」という観点では、新学習指導要領の完全実施を契機として進めていくために、大変有意義なものとなった。</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①授業公開日に実施した。</p> <p>②校内研究と関連させて、すべて取り組んだ。</p>

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
③ 研修事業の充実	<p>①校内研修会を通して、研修内容の報告の共有化を図っていく。</p> <p>②研修・研究会・担当者会等での情報を職員で共有する取り組みを行うよう、教職員の意識の高揚を図っていく。</p>	<p>①校内研修会を通して、研究と修養の内容の共有化</p> <p>②研修・研究会・担当者会等での情報を共有する方法の研究の実施</p>	<p>①計画的な校内研修会を通じた人材育成</p> <p>②校内の人材育成(OJT)の取り組み強化・メンター制、BS制</p>
	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>・毎月一度行なわれる校内研修会において、全体主題に迫るために、四つのグループ活動で共同研究を進めた。今年度末には、それを一つの冊子にまとめることができた。</p> <p>・希望参加の研修会については、能率よく迅速に取り組みを進めるようになって来ている。連絡事項などについても、その他についてもグループウェア利用の充実と徹底を図ってきた。</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①逗子市の委託研究の研究主題に迫るために、研究主任を中心とした組織の中で模範授業の実施や指導案の書き方、授業研究につなげていく指導書の提供など、OJTを意識した運営を果たすことができた。横浜国大附属横浜中学校との連携が図れた。</p> <p>②研修及び研究会の紹介や資料の提供などにつき、グループウェアの利用や自主的研修会「ミニ研究会」の開催・実施(5回)により、特に若年層教員のレベルアップを図ることができた。</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①1月に「コミュニケーション能力の向上」を目的に研修会を実施した。</p> <p>②教員個々との面接を通して、メンター及びBS(Brother and Sister)を確認するとともに、メンタリングシートを対象者に配付した。</p>

平成23年度～平成25年度 学校による点検及び評価の推移(久木中学校)

I 子どもたちの学力向上 — 1 個に応じた指導の充実

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
① 「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実			①指導法の工夫改善を図る(わかったから定着・活用へ) ②少人数指導での習熟度別指導の充実(成果の明確化) ③個人カルテ(学習支援シート)の利用の推進
			(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
			成果と課題 ①年間を通じて教科毎に計画的に授業研究を行い授業改善を行った。 ②数学は2,3年生で少人数指導を行った。外国語では全学年で少人数指導とチームティーチングを効果的に用いることができた。 ③支援を要する生徒について作成・活用ができた。
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
② 「読解力」向上の取り組みの推進	①久木中学校としての言語活動の充実を計画的に進める。 ②様々な文章や資料を読む機会や、自分で意見を述べたりする機会を充実させ、コミュニケーション能力を育成する。	①久木中学校としての言語活動の充実を教育活動全体を通じて計画的に進める。 ②様々な文章や資料を読む機会や、自分で意見を述べたりする機会を充実させ、コミュニケーション能力を育成する。	①久木中学校としての言語活動の充実を教科指導全体を通じて計画的に推進する ②様々な文章や資料を読む機会や、自分で意見を述べたりする機会を充実させ、コミュニケーション能力の育成を図る(教科の課題としてレポート作成、プレゼン発表を推奨する)
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①、②ともに日常的に意識して進めることが重要である。	成果と課題 ①②予定通りに実施した。さらに研究授業の際など意識的に進めることができた。	成果と課題 ①朝学活から教科等において定期的に取り組むことができた。 ②総合的に学習や行事等において計画的に取り組むことができた。
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
③ 読書活動の推進	①学習情報センターとしての学校図書館の機能を高める。(ICT、市立図書館との連携) ②学校図書館指導員、学校支援ボランティアを活用し学校図書館の機能を活性化させる。(カウンター業務など) ③朝の読書を推進する。(読み聞かせを進める。)	①学習情報センターとしての学校図書館の機能を高める。(ICT、市立図書館との連携) ②学校図書館指導員、学校支援ボランティアを活用し学校図書館の機能を活性化させる。(カウンター業務など) ③朝の読書を推進する。(読み聞かせを進める。)	①学習情報センターとしての学校図書館の機能を高める ②学校図書館指導員、学校支援ボランティアを活用し学校図書館の機能を活性化させる ③朝の読書を推進する(学校支援地域本部事業の活用)
	(評価) ①一部達成できなかった ② 達成できなかった ③ 達成した	(評価) ① 達成できなかった ② 達成できなかった ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	成果と課題 ①学習情報センターとしての利用は十分に行った。しかし外部との連携については今後の課題である。 ②学校支援ボランティアの活用はできなかった。 ③朝読書は着実に実施した。教職員による読み聞かせを計画的に行なった。	成果と課題 ①学習情報センターとしての利用は十分に行なった。しかし外部との連携については今後の課題である。 ②学校支援ボランティアの活用はできなかった。 ③朝読書は着実に実施した。教職員による読み聞かせを計画的に行なった。	成果と課題 ①学習利用としての学校図書館の機能は高まった。 ②指導員を中心として読書指導や調べ学習の場として活性化ができた。 ③年間を通じて計画的に取り組むことができた。
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
④ 校内支援体制を活用した支援教育の推進	①生徒の状況に応じた支援方法、指導法、指導体制の研究の成果に基づき支援教育を進める。 ②生徒が安心して学べる学習集団を形成し、授業に意欲的に参加できる授業づくりを進める。 ③学校支援地域本部との連携を進め、学校支援ボランティアの協力を得る。(①②③は研究1との連携により進める。)	①生徒の状況に応じた支援教育を進める ②研究成果に基づき、より良い学習集団を形成し、生徒が安心して学べ、意欲的に参加する授業づくりを行う ③学校支援地域本部との活動に基づき、教職員、学校支援ボランティアの協働による個に応じた指導を進める。	①生徒の正しい見立てに基づき、一人ひとりの生徒の状況に応じた支援方法、指導体制の研究を進める ②生徒が安心して学べる学習集団を形成するとともに、生徒が授業に意欲的に参加できる授業づくりを進める ③学校支援地域本部などとの連携を進め、学校支援ボランティアの協力を得る
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	成果と課題 ①生徒の見立てや、情報の共有化を日常的に確実に行い、支援教育を実践できた。特に地域講師による研修会などで、委託研究の目的の一つである教職員のパフォーマンス能力の向上が進められた。 ②委託研究の実践の中で着実に進めた。 ③地域の方々から様々な支援を得て教育活動を進めることができた。	成果と課題 ①生徒の見立てや、情報の共有化を日常的に確実に行い、支援教育を実践できた。特に今年度は、委託研究の成果に基づき学校全体のシステムとして実施できた。 ②研究テーマを「理解から定着へ」として授業づくりをさらに進めた。 ③地域の方々から様々な支援を得て教育活動を進めることができた。	成果と課題 ①支援教育委員会を中心に全職員が生徒理解できる体制を作っている。 ②授業のユニバーサル化に絡めて取り組んでいる。 ③地域との連携に計画的に進めることができています。

I 子どもたちの学力向上	—	2 健やかな心と身体の育成
--------------	---	---------------

	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
行動プラン ① 基本的な生活習慣の育成	①生徒指導マニュアルに基づき、全教職員の共通理解、保護者との連携のもと生徒指導を進める。 ②学校からの積極的な情報発信により、保護者・地域との情報の共有化、課題の明確化により、家庭・学校・地域の協働の取り組みを進める。(PTA、地区健全育成会、青少年指導員、学校評議員会) (評価) ① ほぼ達成した ② 達成した 成果と課題 ①マニュアルが明文化できていないが、あらゆる連携のもとに生徒指導を行った。 ②地域教育協議会や青少年育成会などを通じて、地域と密接な連携が進められた。	①生徒指導マニュアルに基づき、全教職員の共通理解、保護者との連携のもと生徒指導を進める。 ②学校からの積極的な情報発信により、保護者・地域との情報の共有化、課題の明確化により、家庭・学校・地域の協働の取り組みを進める。(PTA、地区健全育成会、青少年指導員、学校評議員会) (評価) ① ほぼ達成した ② 達成した 成果と課題 ①今年度は、反社会的な生徒指導が多く対応に苦慮したが教職員、保護者、関係機関との連携の元に取り組んだ。 ②地域教育協議会や青少年育成会などを通じて、地域と密接な連携が進められた。	①家庭・学校・地域との連携を基に基本的な生活習慣の育成を図る ②学校からの情報発信をはじめとする保護者・地域間での情報の共有化、課題の明確化により、課題解決のための家庭・学校・地域の協働の取り組みを進める (評価) ① 達成した ② 達成できなかった 成果と課題 ①学年、学級懇談会を通して家庭との連携で基本的な生活習慣の育成が図れた。 ②メールサービスや各便りによる共有化は図れたがホームページの更新が今後の課題である。
行動プラン ② 豊かな心を育む道徳教育の推進	①道徳教育の全体計画の整備、実践・活用しやすい道徳の時間の年間指導計画の作成・見直しを行う。 ②体験活動を中心として道徳的心情、判断力、実践力を育てる。また地域講師の活用を進める。 (評価) ① 達成した ② ほぼ達成した 成果と課題 ①実践・活用しやすい年間指導計画の見直しを行った。 ②様々な体験活動を通じて、指導を進めたが、さらに地域講師の活用を進める必要がある。	①道徳教育の全体計画、道徳の時間の年間指導計画に基づき道徳の指導を行う ②体験活動を中心として道徳的心情、判断力、実践力を育てる。また地域講師の活用を進める。 (評価) ① 達成した ② ほぼ達成した 成果と課題 ①年間指導計画に基づいて実践した。 ②様々な体験活動を通じて、指導を進めたが、さらに地域講師の活用を進める必要がある。	①道徳教育の重要性を共通理解して全ての教育活動を通じて道徳性を養う ②発達段階に応じた指導内容の重点化を行い、道徳教育推進教師を中心に全教師が全教育活動の中で協力して道徳教育を推進し、規範意識の向上に努める ③学校が保護者・地域の協力を得ることにより地域社会や家庭において、相手の立場に立って考え、人を思いやれる心を育てる (評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した ①学校生活の流れの中で教科を絡めて取り組むことができた。 ②各学年毎に年齢に合わせて3年間の見直しを持って取り組んだ。 ③学年に応じて地域講師を呼び、生徒の興味関心を持つよう取り組んだ。
行動プラン ③ 豊かな体験活動の推進	①行事、生徒会活動等の特別活動、総合的な学習の時間における体験的な学習を進める。 ②地域との連携による体験的な学習を積極的に進める。また各団体の行事等に積極的に参加する。(保育士体験、ディベート大会、職業体験、避難所訓練その他) (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①職業体験など、地域との連携による体験学習を進めた。 ②計画通りに進めることができた。	①行事、生徒会活動等の特別活動、総合的な学習の時間における体験的な学習を進める。 ②地域との連携による体験的な学習を積極的に進める。また各団体の行事等に積極的に参加する。(保育士体験、ディベート大会、職業体験、避難所訓練その他) (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①職業体験など、地域との連携による体験学習を進めた。 ②計画通りに進めることができた。	①行事を通して生徒会活動や、総合的な学習の時間における体験的な学習を進める ②地域との連携による社会奉仕活動やボランティア活動の体験的な学習を積極的に進め社会性や協調性を育てる (評価) ① 達成した ② 達成した ①学年行事や生徒会地域行事を通じて進めることができた。 ②職業体験学習・進路学習に加えて地域清掃等での協力を得ることができた。
行動プラン ④ 食育と体力づくり・健康教育の推進	①食育全体計画に基づき、具体的な指導内容についての検討を行い、効果的な指導を行う。また外部団体との連携を進める。 ②健康教育について、学習すべき内容、教科での取り組み、総合的な学習の時間の活用など、全体的な見直しをする。 (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①外部団体との連携を進められた。 ②各学年で計画的に実施できた。	①全体計画、各教科の指導計画に基づき適切な食育が進められている。また外部団体との連携を進める ②3年間を見通した指導計画に基づき、教育活動全体の中で効果的に進める (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①外部団体との連携を進められた。 ②学年で計画的に実施できた。	①食育の推進のために特別委員会を設置し、従来より行っている各教科の学習に基づき久木中学校としての食教育について指導方針を明確にし健康・体力作り等の発達段階に応じた推進をする ②飲酒・喫煙、薬物乱用に関する問題など家庭と学校との連携を基にして外部機関等と連携して健康教育を積極的に進める ③性教育について発達段階を踏まえた正しい指導を進める (評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した 成果と課題 ①全体計画に基づいて取り組み推進ができた。 ②外部機関との協力連携により推進することができた。 ③全体計画に基づいて取り組み推進ができた。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
① 学校安全の推進			①CAP(子どもへの暴力防止プログラム)をはじめとする安全教育や防犯教室などに加え携帯電話、PCに関する新たな課題に関して積極的に取り組んでいく ②学校防災計画を見直し、市の防災マニュアルに連携できるよう取り組んでいく ③校内の防災訓練を計画的に実施し、地域避難所訓練や地域機関との連携を深める
			(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
			成果と課題 ①年間計画に基づいて各教室を実施した。 ②市防災計画に基づき見直しを進めた。 ③地域保育園等や市地域防災訓練と連携した訓練を行う事ができた。
② 問題行動等への対応の推進			①生徒指導を充実させ、生徒の規範意識や温かい人間関係づくりを高め、全教職員が意図的・組織的に教育活動を進める ②生徒指導担当・教育相談コーディネーターが中心となって管理職・全職員が連携を取りながら組織的な指導体制を確立し対応していく
			(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
			成果と課題 ①、②支援教育委員会を中心に学校全体での取り組みを行い生徒・職員の意識の向上を図れた。 ③地域諸機関との連絡連携を計画的に取り問題解決を図ることができた
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	H23(2011)年度取組内容 ①義務教育9年間での児童・生徒の成長を図るため、継続的なカリキュラムの工夫、授業交流、部活体験などの体験活動などを進めるなど、小・中学校の密接な連携を進める。 ②小学校から入学してくる児童が、中学校にスムーズに適應できるよう必要な情報の共有化を進める。	H24(2012)年度取組内容 ①義務教育9年間での児童・生徒の成長を図るため、継続的なカリキュラムの工夫、授業交流、部活体験などの体験活動などを進めるなど、小・中学校の密接な連携を構築する。 ②小学校から入学してくる児童が、中学校にスムーズに接続できるよう必要な情報の共有化を進める。	H25(2013)年度取組内容 ①入学してくる生徒がスムーズに中学校生活のスタートができ、安心して学校生活が送れるよう、子ども一人ひとりの成長を支え、個に応じた指導を進めるため情報の共有と連携を推進する ②小学校と協働して義務教育9年間を見据えたカリキュラムの工夫、授業体験、部活体験などの活動を進める
	(評価) ① 一部達成した ② 達成した	(評価) ① 一部達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①情報交換は行ったが、その他については今後も努力しなければならない。 ②十分に行ったが、今後も継続する必要がある。	成果と課題 ①日常的な情報の共有を教育相談CDが行った。その他については今後も努力しなければならない。 ②十分に行ったが、今後も継続する必要がある。	成果と課題 ①教育相談コーディネーターを中心に小学校との情報交換を行い中学校の指導に結びつけることができた。 ②各小学校の研究授業・研究発表などへの参加を積極的に行うことと小学校への出前授業を行う事ができた。
④ 国際教育の推進	H23(2011)年度取組内容 ①現在派遣されている国際教育指導助手を様々な教育活動において積極的に活用する。 ②総合的な学習の時間や特別活動において、外国人留学生や海外の団体等との交流を行う。	H24(2012)年度取組内容 ①現在派遣されているIEAを様々な教育活動において積極的に活用する。 ②総合的な学習の時間や特別活動において、外国人留学生や海外の団体等との交流を行う。	H25(2013)年度取組内容 ①国際社会に生きる日本人としての資質の向上を目指し、学校に派遣されているIEA(国際教育指導助手)を様々な教育活動において積極的に活用を推進する ②総合的な学習の時間や特別活動において、外国人留学生や海外の団体等との交流を行い国際社会に生きる子ども達の育成を進める
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① ほぼ達成した ② 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった
	成果と課題 ①外国語の指導が中心であったが、さらに積極的な活用を進めたい。 ②2学年の総合的な学習の時間に、フェリス女子大学の韓国大学生と交流を行った。	成果と課題 ①外国語の指導が中心であったが、さらに積極的な活用を進めたい。 ②今年度は行えなかった。	成果と課題 ①外国語の学習だけでなくIEA(国際教育指導助手)を活用して外国の生活習慣なども学習した。 ②対外的団体などを活用して国際教育を図る必要がある。

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
⑤ キャリア教育の推進	①総合的な学習・学級指導の時間を効果的に使い、「生き方の学習」について自ら体験的に学ぶ事も含めた指導計画にそってキャリア教育を実践している。 ②市民・保護者などの講師による授業、地域での職業体験学習を学校支援地域本部との協働の中で進めている。	①総合的な学習・学級指導の時間を整理し直し、「生き方の学習」について自ら体験的に学ぶ事も含めた指導計画にそってキャリア教育を実践し、さらなる改善を進めている。 ②市民・保護者などの講師による授業や、職業体験学習を地域支援本部との連携・協力により実践している。	①職業の選択を始めとし、自分の将来を見据えた有意義な人生のあり方を自らが体験し学ぶための中学校での指導計画を作成する ②地域・保護者・関係諸機関との連携を図り職業についての理解を図り、発達に応じて地域での職業体験を行う
	(評価) ① 達成した ② ほぼ達成した	(評価) ① 達成した ② ほぼ達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①計画通りに行った。 ②学校支援地域本部との関わりを深める必要がある。	成果と課題 ①計画通りに行った。 ②学校支援地域本部との支援・協力をさらに進めていきたい。	成果と課題 ①3年間を見通した進路指導計画を作成し推進できている。 ②職業体験学習やキャリア学習会などを地域・保護者を活用して取り組んだ。

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
⑥ 福祉教育の推進	①教育活動全体において計画的な福祉教育や人権教育を進める。 ②地域と連携した体験活動を通じて、人を思いやる心、温かい人間関係を築く心を育てる。(保育体験、地域行事への参加、地域清掃など)	①教育活動全体において計画的な福祉教育や人権教育を進める ②地域と連携した体験活動を通じて、人を思いやる心、温かい人間関係を築く心を育てる(保育体験、地域行事への参加、地域清掃など)	①発達段階に応じた福祉教育を推進し体験学習を通して理解を深める ②地域・仲間との活動を通して思いやりの心、社会奉仕の精神などを育成する
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①人権移動教室や福祉体験学習などを計画的に行った。 ②隣接の保育園での保育士体験、地域の方々との地域清掃などを行い豊かな心の育成に努めた。	成果と課題 ①計画通りに行った ②計画通りに行った	成果と課題 ①福祉体験学習を計画的に行い理解・関心を深める取り組みをした。 ②生徒会活動の一つとして地域清掃活動や餅つき大会・募金活動を通じて育成できた。

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
⑦ 環境教育の推進	①生徒会活動の中で身近な環境保護の実践活動をする。(ミックスペーパーの回収、エコキャップ回収、募金活動) ②地域講師による環境学習の実施。 ③身近にある太陽光発電についての理解を進める。	①生徒会活動の中で身近な環境保護の実践活動をする。(ミックスペーパーの回収、エコキャップ回収、募金活動) ②地域講師による環境学習の実施 ③身近にある太陽光発電についての理解を進める	①地域・保護者との連携から環境に対する意識、熱意、見識を育てる ②環境学習の指導計画に基づき目標を明確にし積極的に推進する ③身近にある太陽光発電の施設を利用し、それを理解し環境に対する意識の向上を図る
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ ほぼ達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ ほぼ達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	成果と課題 ①計画通りに実施できた。 ②計画通りに実施できた。 ③地域講師による環境学習で学ぶことができた。	成果と課題 ①計画通りに行った ②計画通りに行った ③総合学習や理科の授業の中でさらに積極的な活用を進めたい。	成果と課題 ①ずし市環境会議会員を講師に環境教育を計画的に取り組んだ。 ②リサイクルセンター見学やミックスペーパー等計画的に取り組んだ。 ③ずし市環境会議会員の環境学習においてデータを活用する取り組みを行った。

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
⑧ 情報教育の推進	①指導計画に基づき「情報活用能力」を育成するとともに指導するシステムを作成する。 ②教職員が講習会等により最新の情報を学び指導を進める。 ③情報機器が整備された学習環境を十分に把握し、ICTを利用した授業を行う。	①「情報活用能力」を指導計画に基づき育成している ②学校全体で情報モラルの育成が行われている ③各教科で適切な指導計画に基づいた、ICTを活用した授業を進める	①ICT機器を用いた授業や映像を活用したプレゼンテーションを取り入れ、発達段階に応じた「情報活用能力」を育成する ②情報モラル教育の育成を図り、あふれる情報を取捨選択し正しく活用できる力を育てる
	(評価) ① ほぼ達成した ② 達成できなかった ③ 達成	(評価) ① ほぼ達成した ② 達成した ③ ほぼ達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①教科学習を中心に進めている。 ②最新の情報を学ぶことが個々に任されている。 ③委託研究と並行して進められた。	成果と課題 ①すべての教科で取り組めるように進めたい。 ②学年・教科で計画通りに行った ③全ての教科で計画的に積極的な活用を進めたい。	成果と課題 ①各学習計画の中で計画的に機器利用を取り入れ育成している。 ②技術の授業及び地域機関を利用して情報モラル・携帯電話の学習を実施した。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
① 地域への情報発信と 学校公開の工夫	①情報発信の内容や方法について地域の方々からのご意見・感想を集め、改善に努める。 ②定例会や各団体主催の行事などに積極的に参加していく。また地域清掃等の地域との協働も進める。	①情報発信の内容や方法について地域の方々からのご意見・感想を集め、改善に努める ②定例会や各団体主催の行事などに積極的に参加していく。また地域清掃等の地域との協働も進める。	①学校だよりを地域へ配布する。また、ホームページの構成を見直すとともに、更新を定期的に行う ②青少年育成推進の会を始めとする地域の団体との関係を深め、学校への理解を深め支援・協力を得る
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した
	成果と課題 ①、②地域教育協議会、地域の会などから意見・感想をいただき改善に努めた。地域行事に積極的に参加するとともに、様々な協働に努めた。	成果と課題 ①②地域教育協議会、地域の会などから意見・感想をいただき改善に努めた。地域行事に積極的に参加するとともに、様々な協働に努めた。	成果と課題 ①たより等については計画的に行う事ができているがホームページの更新等できていない。 ②各地域の青少年育成推進の会、地域行事に計画的・積極的に参加できている。
② 地域教育力の活用	①学校支援地域本部が学校支援、地域連携の中心として確立し、地域コーディネーターと学校側の連携が進められている。 ②学校支援地域本部の活動について積極的に情報発信して、地域・保護者等から具体的な学校支援や協力を得られている。	①学校支援地域本部が学校支援、地域連携の中心として確立し、地域支援コーディネーターと学校側の協働が進められている。 ②地域支援本部の活動について積極的に情報発信して、地域・保護者等から具体的な学校支援や協力を得られている。	①学校支援地域本部に組織を統合して地域コーディネーターを中心とした学校支援の具体的な活動を進める ②学校関係者評価委員会、学校評議員会、地域教育協議会、保護者・地域の個々の意見を十分に把握し、教育活動に反映していく
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①、②地域コーディネーターとの連携、支援本部の活動を進めた。教員側が中心で行っている部分を改善していきたい。	成果と課題 ①②地域との連携を、積極的に進めた。地域からの支援を受けるとともに、協働を進めることができた。	成果と課題 ①地域コーディネーターを中心に地域と学校が連携協力して活動を取り組めた。 ②多くの意見を戴くことができ、次年度の計画に反映していく。
③ 学校評価を生かした 学校の改善	①生徒・保護者向けアンケートの内容や、回数などを検討するとともに公開の方法を改善する。 ②学校評価の作成について年間の日程を再検討し、自己評価の作成時期、改善方法の作成、学校評価委員などの外部からの意見を取り入れ学校評価としてまとめる時期を確定する。	①生徒・保護者向けアンケートの実施を定常的なものとし、自己評価の構成に取り入れる ②学校評価がより良い学校づくりの方法として確立し、地域・保護者の信頼を得て学校運営が進められている。	①生徒・保護者にアンケートを適宜実施し、自己評価に取り入れる ②自己評価に対する保護者・地域、学校評価委員会、学校評議員会等からの改善等の指摘を次年度の校運営(計画)に反映していく
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①公開の方法として、ホームページなども利用した。 ②例年と同じ時期となったが、教職員の反省の時期を受けて実施すると、速く進めることは難しい。	成果と課題 ①公開の方法として、ホームページなども利用する。 ②例年と同じ時期となったが、教職員の反省の時期を受けて実施すると、早く進めることは難しい。	成果と課題 ①行事を行う毎に生徒・保護者・地域の方々にアンケートを実施し取り入れている。 ②意見を踏まえて次年度の計画実施に反映している。

Ⅲ 教員の指導力向上 — 1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
① 授業研究の充実	①わかりやすい授業への取り組みを校内研究、課題研修の実践により進めている。 ②研究会が充実し、指導助言により授業力を向上する。 ③教科会により教科ごとの授業改善を進める。	①わかりやすい授業のあり方について学校としての方向性を確立している。 ②研究会が充実し、指導助言により授業力を向上する。 ③教科会により教科ごとの授業改善を進める。	①研究授業の積極的な実践を推進し指導方法の工夫改善にや課題研修レポートの作成に役立てる。 ②指導助言に適切な講師を依頼し、研修の充実と指導力の向上を図る。 ③研修、研究会の成果を共有し教職員全体の資質向上を図る。
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	成果と課題 ①、②、③、委託研究を進める中でそれぞれの目標に向けて、十分努力できた。	成果と課題 ①②③委託研究は終了したが、引き続き取り組みを継続している。	成果と課題 ①研究授業後に授業案を見直し訂正したレポートの提出を義務化した。 ②外部講師を招いての実践的研修会を計画的に行った。 ③全体研修やグループ研究会を計画的に実施し成果の共有を図った。
② 授業評価の活用	①授業評価を積極的に進め、授業改善に反映している。 ②授業公開等の機会を利用して、多くの方々からの授業評価を得て、よりよい授業づくりを進めている。	①授業評価を積極的に進め、授業改善に反映している。 ②授業公開等の機会を利用して、多くの方々からの授業評価を得て、よりよい授業づくりを進めている。	①校内研究における授業を中心として授業評価・改善活用を進める。 ②生徒、保護者、外部関係者による授業評価を行い、より良い授業づくりに取り組み教育活動の向上につなげる。 ③保護者・地域と連携した授業評価の取り組みを行い教育活動の向上につなげる。
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	成果と課題 ①、②それぞれ実践できた。しかし今後も継続していくことが重要である。	成果と課題 ①②内容をさらに充実させていく。	成果と課題 ①全教職員が授業のユニバーサル化を意識して取り組むことができた。 ②、③授業アンケートを行い、評価を真摯に受け止め授業改善に繋げる取り組みをした。
③ 研修事業の充実	①学校で行う教育活動全体において、教師が身につけておく必要性の高いものの校内研修を計画的に進める。 ②市、県の主催する研修について個々の経験、職務に応じた研修会への参加を促す。 ③校内での自主的な研修会の実践を促す。	①学校で行う教育活動全体において、教師が身につけておく必要性の高いものの校内研修を計画的に進める。 ②市、県の主催する研修について個々の経験、職務に応じた研修会への参加を促す。 ③校内での自主的な研修会の実践を促す。	①学校で行う教育活動全体において、教師が身につけておく必要性の高いものの研修を計画的に進め教職員の力量の向上を進める。 ②久木中「教師のスタンダード」づくりを推進する。
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② ほぼ達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった
	成果と課題 ①委託研究を通じて実践できた。 ②指定研修を受講する教職員が多く、自主的なものは少なかった。 ③十分ではないが実践を進めた。今後の継続が重要である。	成果と課題 ①研究の継続を通じて実践できた。 ②指定研修を受講する教職員が多く、自主的なものは少なかった。 ③実践を進めた。今後の継続が重要である。	成果と課題 ①授業のユニバーサル化と関わって計画的に進め全教師の力量につながった。 ②小中学校の教職員にアンケートを実施し、まとめている途中であり、来年度に向けて取り組んでいる。

平成23年度～平成25年度 学校による点検及び評価の推移(沼間中学校)

I 子どもたちの学力向上		1 個に応じた指導の充実		
行動プラン	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	
① 「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実			①夏季休業中に実施する発展的・補充的学習(サマーチャレンジ)を保護者・生徒に周知し、参加を促す ②少人数学級での指導が有効となるよう指導の工夫・改善を行い、検証する	
			(評価) ① 達成した ② 達成した	
			成果と課題 ① 定着してきた。 ② 次年度も継続して研究する必要がある。	
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	
② 「読解力」向上の取り組みの推進	①各教科における「読解力」とはどのような能力が確実に周知する。各教科での実践計画を作成し、授業実践する。 ②教科外での「読解力」育成が可能な内容を洗い出す。教科外での指導計画を作成し、実践する。	①各教科での授業実践・検証する ②教科外での実践・検証する	①各教科指導の場で、言語活動を基に思考力・判断力・表現力等を身につけさせる取り組みを実践するように、全校体制で研究していく ②総合的な学習の時間や特別活動の場で、「読解力」向上の取り組みを取り入れるよう、全校体制で研究していく	
	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成した	
	成果と課題 ①については、校内研究会テーマとなっている言語活動と絡めて各教科ごとに授業実践することができたが、実践計画作成は次年度の課題である。 ②については、次年度は教科外での指導計画も教科での実践計画と併せて作成し、実践していきたい。	成果と課題 ①校内研究会テーマとなっている言語活動と絡めて各教科ごとに授業実践することができたが、実践計画作成は次年度の課題である。 ②次年度は教科外での指導計画も教科での実践計画と併せて作成し、実践していきたい。	成果と課題 ①研究授業を全員実施し、研究テーマにせまり全校体制で研究することができた。 ②各自課題解決学習を実施し、資料活用能力を発達し、まとめ学習などで発表する力を培う。	
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	
③ 読書活動の推進	①保護者や地域との連携をとりながら、図書委員会を中心とした読書活動を実施する。 ②「学校版子どもの読書活動推進計画」を策定する。 ③司書教諭・学校図書館指導員・学校支援ボランティアを活用した学校図書館機能を活性化させる。	①保護者や地域との連携をとりながら、図書委員会を中心とした読書活動を実施し、その見直しを年度末に行い、次年度につなげ推進する。 ②「学校版子どもの読書活動推進計画」を策定し、その見直しを年度末に行い、次年度につなげ推進する。 ③司書教諭・学校図書館指導員・学校支援ボランティアを活用した学校図書館機能を活性化し、その見直しを年度末に行い、次年度につなげ推進する。	①図書委員会を中心に、読書活動の活性化のための新企画を提案し、実行を図る ②市立図書館等との連携・協力の下に、カリキュラムのねらいを把握し、学習情報センターとしての機能の充実に努める	
	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	
	成果と課題 ①については、年2回の読書週間の取り組みを通して、図書委員会が中心となって全校体制で読書活動を実施することができた。 ②については、検討中の段階なので、今後も継続する。 ③については、学校支援ボランティアにご協力いただき毎日の開館を実現し、学校図書館の機能を活性化することができた。	成果と課題 ①図書委員会が中心となり、放送委員会と連携し「TVおはなし会」を行ったり、ポスターを作成したりして、年間を通じて読書推進活動を行った。 ②検討中の段階であり今後も継続する。 ③学校支援ボランティアにご協力いただき、毎日の開館を実施できた。来年度も学校図書館の機能を活性化すべく、図書委員会と学校支援ボランティアの連携を深めていきたい。	成果と課題 ①、②市立図書館等の連携・協力の下、学習情報センターとしての機能の充実はさらに確立していくよう努める。	
行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容	
④ 校内支援体制を活用した支援教育の推進	①生徒・保護者・学校の共通理解のもとに、個別支援・共同学習を必要とする生徒に行っていく。	①生徒全員が、自己肯定感をもつことができるような支援が何らかの形態で行われている。	①支援を必要とする生徒について校内リソースを活用しながらの支援プランを作成検討し、実行に移せる方法を確立させる ②困り感を持つ生徒と特別支援学級との共同学習のあり方を検討していく	
	(評価) ① 達成した	(評価) ① 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	
	成果と課題 ①支援ファイルを作成し、支援キャビネットに保管し職員の間で共通理解を図った。また、「気になる生徒一覧」を作成し、職員会議で情報を共有することができた。今後は支援教室をより有効に使えるよう努めていきたい。	成果と課題 ①テスト前の補習の充実を図るなど、生徒の学力向上を図った。また、外部から講師を招き、校内研修会を開くなど、主に気になる生徒への対応を研究した。	成果と課題 ①、②学年職員や支援時間担当が対応しても同時に複数の生徒に支援が必要な場合人材不足だったので人的リソースの再配置を考える必要がある。	

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成	①生徒による学級、学年の達成目標として位置づけ、自ら検証させるよう継続指導していく。 ②学校だより等を利用し、生徒の意識向上と家庭・地域の協力を促す。 (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①については、「学校生活のきまりプリント」を作成し、生徒に配布し、基本的な学校における生活習慣を徹底できるように努めた。 ②に関しては、学校生活の様子、朝会等での校長・教頭の話が学校便りに載せ、家庭・地域に情報を提供することによって、協力を促した。	①生徒による学級、学年の達成目標として位置づけ、自ら検証させるよう継続指導することで、その充実・定着を図る。 ②学校だより等を利用し、生徒の意識向上と家庭・地域の協力を促すことで、その充実・定着を図る。 (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①昨年同様「学校生活のきまりプリント」を生徒に配布し、基本的な学校における生活習慣を徹底できるように努めた。 ②サイバー犯罪や薬物乱用防止教室を開くなど、地域講師を利用し、生徒の意識向上に努めた。生徒指導の対応マニュアルを職員で周知徹底し、指導に努め、同時に家庭への協力も要請した。	①各種おたより、保護者会等で家庭での基本的な生活習慣を依頼する情報発信していく。 ②学校生活で睡眠不足等で体調が悪い生徒については、保護者と密に連絡をとりあう ③教職員からすすんであいさつをする (評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した 成果と課題 ①、②、③基本的な生活習慣の育成については、特別活動や総合的な学習なども活用していけるとよい。
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	①道徳推進担当教諭がリーダーシップを取り、豊かな心を育む道徳教育を全教科・領域において実践する。 ②学校支援地域本部の協力による地域人材活用の授業がカリキュラムに位置づけられる。 (評価) ① 達成した ② 達成できなかった 成果と課題 ①については、学年のその時の状況に合わせて、年間指導計画をもとに、臨機応変に教材設定ができた。次年度に向けて使用教材の共有をするための準備を行なった。 ②に関しては、なかなか実施できなかったため、次年度は、年間計画に明記する必要がある。	①道徳推進担当教諭がリーダーシップを取り、豊かな心を育む道徳教育を全教科・領域において実践することで、その充実・定着を図る。 ②学校支援地域本部の協力による地域人材活用の授業がカリキュラムに位置づけることで、その充実・定着を図る。 (評価) ① 達成した ② 達成できなかった 成果と課題 ①学年のその時の状況に合わせて、年間指導計画をもとに、臨機応変に教材設定ができた。 ②なかなか実践できなかった。	①行事や体験学習の関連を利用しねらいの深化が可能な、道徳教育カリキュラム及び教材の情報共有を図る。 ②地域講師や地域機関等との連携を利用した授業や体験学習の情報共有をしていく (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①道徳教育カリキュラム及び教材の情報共有を図る。 ②地域講師や地域機関等との連携を利用した授業は、計画的に実施し研究することができた。
③ 豊かな体験活動の推進	①様々な活動を通して、課題をみつけ、解決が自らの学習において図れるような企画・立案をしていき、学習を進める。 (評価) ① 達成した 成果と課題 ①3年生修学旅行・2年生自然体験学習・1年生横浜めぐりなど、生徒組織を中心に自らの学習を進めることができた。	①従来の行事の見直しを図り、精選をしていく。 (評価) ① 達成した 成果と課題 ①昨年度の取り組みを学年進行とともに進めるようにし、校外活動とその内容の定着を図ることができた。	① 自然体験学習、修学旅行がより有効な課題解決学習の場となるように深化を図る ②職場体験の2日間を継続し、これまで以上にキャリア教育のねらいの深化が可能なよう工夫・改善する (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①課題解決学習の場として取り組み、まとめ学習の形態を工夫した。 ②職場体験学習の定着をはかりキャリア教育のねらいにせまるよう工夫改善することができた。
④ 食育と体力づくり・健康教育の推進	①心身の健康と食事の関係を理解させる。 ②新体力テストの結果を活用しながら、自己の体力を伸ばす意識を持てるようにする。 (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①技術・家庭科、保健体育の授業内で扱い、理解を促すことができた。 ②保健体育の授業内で扱い、意識付けができた。	①将来的な自らの食生活に、これらの学習を活かそうとする意欲がもてるようになる ②中学期だけでなく将来的な体力作りを発達段階に応じて展開できる意欲が持てるようになる (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①技術・家庭科の授業内で扱い、意欲を持てるように指導した。 ②保健体育の授業内で扱い、意欲を促すことができた。	①薬物乱用・喫煙防止等、発達段階に応じて学習させることと並行して、普段の食生活についてよりよく改善しようとする意識を持たせる ②部活動や家庭でのスポーツ体験に対する意欲を喚起し、自らの健康管理が大切な能力であることを知らせていく (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①体育科としては授業で適切に扱い、普段の食生活については保健委員会などとタイアップし行なった。 ②部活動において部活協議会を通じ、それぞれの部活動における意欲を喚起できた。自らの健康管理は保健体育科とし、適切に指導をおこなった。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
① 学校安全の推進			①防災アドバイザー、遑子警察等の連携の下に、事故防止及び安全点検、危険箇所の除去を定期的・継続的に行う ②沼間小学校区避難所運営委員会との連携下、生徒が自らの命を守ろうとする危機管理意識の向上を図る
			(評価) ① 達成した ② 達成した
			成果と課題 ①生徒の手による防災マップの取り組みをおこなうことができた。 ②継続的に実施したい。
② 問題行動等への対応の推進			①共生社会に向けて生徒が互いの困り感を認め合い助け合える温かい学級づくりに努める ②道徳の時間や生徒会活動を通して、規範意識を培い生徒自らがいじめを許さない集団を作っていけるよう指導していく
			(評価) ① 達成した ② 達成した
			成果と課題 ①生徒会活動を通して規範意識を高める指導は課題である。 ②教員だけでなく社会福祉協議会などの関係団体にも協力してもらおう。
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進			①教職員研修等で小中連携を深め、学びの連続性を追及し家庭学習の定着を図っていく ②学校間の信頼関係を構築し、9年間の学習や生徒指導を意図的、効果的に行っていく ③授業参観等に参加していく
			(評価) ① 達成した ② 達成できなかった
			成果と課題 ①については、2回実施した。 ②については、「かながわ学びづくり推進地域研究委託事業」で沼間小との共同研究を受けて、小学校の意見も考慮し、授業参観形式、新入生・保護者学校見学を実施した。
④ 国際教育の推進			①国際教育指導助手を積極的に活用する方法を实践検証することにより、授業のねらいの深化を図る。 ②教科や総合の時間での年間指導計画に、地域講師を迎えての授業実践等位置づけ、推進する。
			(評価) ① 達成した ② 達成できなかった
			成果と課題 ①については授業づくりの際に国際教育指導助手が生徒たちとコミュニケーションをとる機会を多く持つよう心がけた。 ②については、年間カリキュラムの中で時間確保が難しかった。
① 学校安全の推進			①教科毎の小中一環カリキュラムを完成させる ②小中合同研究会を共同企画し、全教職員が参加する ③全教科で小学校のカリキュラムを学び、小学校での交流授業や新入生対象体験学習を実践する。
			(評価) ① 達成できなかった ② 達成した ③ 達成した
			成果と課題 ①お互いのカリキュラムを知り、課題を共有できた。 ②合同研修会を1回実施したほか、お互いの研究発表会に参加したり、授業などを参観したりすることができた。 ③6年生の児童・保護者対象の授業参観と学校説明会を実施することができた。
① 国際教育の推進			①国際教育指導助手を積極的に活用する方法を实践検証することにより、授業のねらいの深化させることで、その充実・定着を図る。 ②教科や総合の時間での年間指導計画に、地域講師を迎えての授業実践等位置づけ、推進させることで、その充実・定着を図る。
			(評価) ① 達成した ② 達成できなかった
			成果と課題 ①今年度も授業づくりの際に国際教育指導助手が生徒たちとコミュニケーションをとる機会を多く持つよう工夫できた。 ②昨年度同様に年間カリキュラムの中で時間確保に課題を残した。
① 国際教育の推進			①多様な文化を理解し共生できるよう小学校外国語活動との連携の下に、意識を育てていく ②IEA(国際教育指導助手)のより効果的な活用を研究していく
			(評価) ① 達成できなかった ② 達成した
			成果と課題 ①、②、③中学校へ授業参観にきてもらうことはできたが小学校の授業参観をすることはなかなか時間調整が難しかった。

【沼間中学校】

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
⑤ キャリア教育の推進	①地域講師を迎えての授業を通して、働く人々の生きた教材により学習のねらいを深化させる。 ②職業体験学習の2日間の実施を実現させる。 ③体験学習に対する発表の場を設け、全体で共有する。	①地域講師を迎えての授業を通して、働く人々の生きた教材により学習のねらいを深化させることで、その充実・定着を図る。 ②職業体験学習の2日間の実施を実現させることで、その充実・定着を図る。 ③体験学習に対する発表の場を設け、全体で共有することで、その充実・定着を図る。	①1年「将来の夢」、2年「職場体験」、3年「義務教育終了後の進路」と、段階的に自分の生き方を考えさせる ②職場体験2日間実施し、よりねらいを深化していく
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①については、地域講師を迎えての授業を行い、学習のねらいを深化させることができた。 ②については、2日間の実施ができた。 ③については、発表の場を設けて、各学年実施できた。	成果と課題 ①地域講師を迎えての授業を行い、学習のねらいを深化させることができた。 ②2日間の実施ができた。 ③発表の場を設けて、各学年実施できた。	成果と課題 ①学年別に計画的に自分の生き方を考えることができた。 ②職場体験は定着し、ねらいにせまることができた。
⑥ 福祉教育の推進	①小学校でのカリキュラムとの連携を図り、福祉体験学習を定着させる。 ②地域講師を迎えての授業実践を推進する。 ③体験学習に対する発表の場を設け、全体で共有する。	①小学校でのカリキュラムとの連携を図り、福祉体験学習を定着させ、その充実・定着を図る。 ②地域講師を迎えての授業実践を推進し、その充実・定着を図る。 ③体験学習に対する発表の場を設け、全体で共有し、その充実・定着を図る。	①学校生活のあらゆる場面で実践することで、福祉・人権への意識を高め、差別、偏見を許さない集団をつくっていく ②外部機関を積極的に導入し、性教育、精神障害やストレス回避について学習をさせる
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①、②については福祉体験はこころの教育という視点で3年生で試行した。 ③今年度は震災支援活動やピースメッセンジャー体験等、全校集会の場で共有することができた	成果と課題 ①②3学年福祉体験学習はこころの教育という視点で実施することができた。 ③3年生の福祉体験学習だけにとどまらずピースメッセンジャー等、集会の場で共有することができるようになった。	成果と課題 ①、②外部講師を招いて授業を実施し福祉・人権への意識を高めることができた。
⑦ 環境教育の推進	①3R(リサイクル・リユース・リデュース)運動を生徒会活動中心に徹底する。 ②環境に対する意識を高め、自ら環境に対する活動を行おうとする姿勢を育てる。	①環境改善に向けての提言を発信する。(環境パネル展等を利用) ②学校版ISO取得を目指す。	①環境委員会中心に、学校の自然環境を自らの手で守っていく姿勢を育てる ②学校支援地域本部、P&T(本校保護者と学校との連携組織)の方々の協力を仰ぎ、地域の大人たちが自然を守ろうとする姿勢をみせることで、自然を守る大切さを知らせる
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①については、牛乳パックの回収と分別を学校全体で定着させた。 ②については、1学年のビーチコーミングや、2学年の自然体験学習を通して、環境に関する課題を見つけ出し学ぶことができた。全校での取り組みとしては、地域清掃を年2回行った。次年度への課題は、学校全体で取り組めるような環境に関する活動を、もっと増やすことである。	成果と課題 ①逗子市環境ウィークの環境パネル展に提言を発信することができた。 ②総合的な学習の時間に環境に関する課題解決学習ができた。これについては、学年の進行に従って課題をみつけそれから学校全体への取り組みとしていく必要がある。それぞれの学年での環境の取り組みが、全体への活動に結びついていない。	成果と課題 ①環境委員会の生徒の手により生物の飼育や学校の自然環境を大切にする取り組みをおこなった。 ②学校支援地域本部、P&T(本校保護者と学校との連携組織)の方々との連携をとり、学校の自然環境づくりに努めることができ、生徒に自然を守る大切さを知らせることができた。
⑧ 情報教育の推進	①ICTを活用した授業計画を推進する。 ②小学校と連携し、小学校での情報機器の活用能力を図る。 ③情報の発信者として被害者・加害者ともにならないように指導する。	①ICTを活用した授業を日常的に積極的に行う ②中学校における発達段階に合わせた情報機器の活用能力を図る ③情報の発信者としてのモラルを育成する	①ICTを活用した指導の充実を図り、「分かる授業」を研究する ②教科におけるICTを活用した生徒の発表を指導していく
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 概ね達成した ② 概ね 達成した
	成果と課題 ①校内研修を行った結果、書画カメラの活用が多く見られた。電子黒板はソフト面が課題となっている。 ②1年の初めに文書処理ソフトウェア、インターネットなどの使い方を確認。ローマ字入力ができない生徒が多いことがわかったので、次年度からの新学習指導要領全面実施に向けて、より小学校との連携を密にしていきたい。 ③全校生徒対象に警察のサイバー犯罪に関する講演を行った。	成果と課題 ①プロジェクターや実物投影機等多くの授業で活用された。 ②技術家庭科の授業で扱っている。 ③全校生徒対象に神奈川県警察のサイバー犯罪防止講演会を行った。	成果と課題 ①ICTを活用した授業は継続して取り組む必要がある。 ②ICTを活用した生徒の発表は継続指導が必要である。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
① 地域への情報発信と 学校公開の工夫	①P&T(ペアレント&ティーチャー)活動をさらに活性化するにはたつきかけ、PTAへの移行を具体的に検討する。 ②諸課題への具体的対策の実践、公開および協力の呼びかけを行う。 ③情報発信(学校だより、ホームページ等)の充実を図る。	①P&T(PTA)と地域連携のもとでの具体的実践を始める ②学校公開の内容充実と活性化、及び、検証を行う ③情報発信における実践と充実、活性化、及び、検証を行う	①P&T(本校保護者と学校との連携組織)として、逗P連(逗子市PTA連絡協議会)に加入すべきか検討する ②学校公開等あらゆる場面での地域・保護者との学校課題の共有を図り、情報発信していく ③青少年育成推進の会、沼間小学校区地域連合会等との外部機関との連携を深める
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した ③ 達成した
	成果と課題 ①については活性化は達成したが、PTAへの移行の課題が新たに認識されたので、その検討に止まった。 ②、③については、ホームページの刷新、学校案内の制作等、大幅に進んだ。	成果と課題 ①活性化は達成したが、PTAへの移行の課題は検討にとどまった。 ②③メール配信の拡大やホームページの刷新などを行った。	成果と課題 ①、②、③ PTAへの加盟については議論が始まったばかりである。
② 地域教育力の活用	①地域講師等地域力による支援体制の整理・充実に向けた計画づくりを行う。 ②地域教育協議会の企画・運営によって、学校支援地域本部が地域主体で活動を始めるよう具体的支援活動を計画・実践する。	①地域講師を含んだ地域力活用計画に基づいた活用の充実を図る ②学校支援地域本部の地域ボランティアが、年間計画に位置づけられた教育活動に日常的に参加できるようなネットワークの定着を図る	①学校支援地域本部の協力で、教科の授業等にも地域講師、学校教育支援ボランティアの活用を積極的に行っていく ②図書館ボランティアを継続し、開館時間を増やすとともに生徒の読書活動を保障する
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①については、支援体制の計画までは進んだが、対象となる生徒がおらず、具体的な計画までには至らなかった。 ②については、地域主導型に返ることができた。	成果と課題 ①ふれあいデーやダンスの授業などは計画的に進んだ。 ②ふれあいスタッフという生徒の組織ができ、計画的に活動ができた。	成果と課題 ①、②図書館ボランティアは継続できたが開館時間を増やすことはできていない。
③ 学校評価を生かした 学校の改善	①視点、重点を明らかにした評価項目設定と、それに基づいた教育活動向上への実践提言による改善を実行する。 ②学校評価に基づいた改善点実践に対するの検証を行い、年度末に評価委員会にて報告し、保護者にも公開する。	①PCDAサイクルを意識した学校評価の充実とそれに基づいた教育活動の向上、活性化の検証を行う。 ②学校評価結果に基づいた次期3年間の教育ビジョンの拡充を行う。	①学校関係者評価委員会での意見は必ず改善策を考え、実行していく ②授業参観保護者授業評価もマークシート方式に改善することで迅速に結果を出せるようにし、改善案を学年会で作成する
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①、②共に、本校の一連のサイクルが定着し、学校経営にも反映できた。	成果と課題 ①本校の一連のサイクルが定着し、学校経営にも反映できた。 ②今後検討していきたい。校内研で学年ごとに課題を共有し次年度のビジョンを明確にした。	成果と課題 ①、②マークシート方式に改善することで多様な集団の集計ができるようになった。

Ⅲ 教員の指導力向上 — 1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H23(2011)年度取組内容	H24(2012)年度取組内容	H25(2013)年度取組内容
① 授業研究の充実	①校内研究会の充実を継続させる。 ②来年度にむけたシラバスを研究する。 ③小中連携の下に、学区内小学校の研究協力者を活用し、授業改善のための研修を行う。	①「分かる授業」の実践や、シラバスの提示により、生徒に自ら学ぼうとする意欲を引き出し、基礎・基本の定着を図る。	①グランドデザインを校内研究会で作成する ②年間1人2回は授業公開する
	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した	(評価) ① 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①については教育課程部と支援部、総務部の連携の下、年間10回の研究会を実施できた。 ②については評価基準の課題を提示することができた。 ③については講師を年間5回招へいし、研究テーマに沿った言語活動を取り入れた授業づくりについて研究・研修した。	成果と課題 ①評価基準の課題を提示し、詳しく説明することができた。教科ガイダンスにより各単元別にさらに詳しく基準を生徒に説明した。	成果と課題 ①グランドデザインについて校内研究会で提案し、作成することができた。 ②全員が授業公開をし、授業力向上に役立てることができた。
② 授業評価の活用	①評価結果の考察から、自らの授業の改善策を講じ、再度、授業評価によって検証する。	①授業評価の結果を活かしたことで、すべての教師が生徒にとって「分かる授業」を行う	①生徒による授業アンケートは教科ごとに集計し、教科の課題として検証・改善をめざす ②授業参観では地域・保護者が「評価しやすいように、新しい書式でアンケートを作成する
	(評価) ① 達成した	(評価) ① 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 授業評価を実施し、その結果から課題を見つけ、その解決方法を考え、授業改善に役立てた。	成果と課題 ①授業評価を全職員で発表し確認できた。また、その結果から課題を考察し授業改善に役立てた。	成果と課題 ①、②アンケート用紙は教員用保護者用と文言をわかりやすくする必要がある。
③ 研修事業の充実	①小・中合同研修会を実施し、相互理解を深める。 ②危機管理意識、情報モラル等の今日的課題について研修会を設定する。	①小中合同研修会を実施し、相互理解を深める ②教員の学校経営・運営に対する参画意識の熟成を図れるような研修も計画する	①支援が必要な生徒へのかかわり方や授業内での指導・支援方法について校内研修を企画し実践する ②研修に適切な日時を設定し、目的に応じて外部講師を活用し、研修の効果を高める
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①については、「かながわ学びづくり推進地域研究委託事業」の共同研究で実施した。 ②については、毎月職員会議前に事故防止会議で実施できた。	成果と課題 ①「かながわ学びづくり推進地域研究委託事業」の共同研究(2年目)で実施した。 ②職員会議前の事故防止会議で実施することができた。	成果と課題 ①夏と年度末の休業中に研修を企画し、実践できた。 ②さらに学校の状況にあわせた研修を企画し、実践したい。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（事務の委任等）

第二十六条 教育委員会は、教育委員会規則で定めるところにより、その権限に属する事務の一部を教育長に委任し、又は教育長をして臨時に代理させることができる。

- 2 前項の規定にかかわらず、次に掲げる事務は、教育長に委任することができない。
 - 一 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること。
 - 二 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること。
 - 三 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること。
 - 四 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
 - 五 次条の規定による点検及び評価に関すること。
 - 六 第二十九条に規定する意見の申出に関すること。
- 3 教育長は、第一項の規定により委任された事務その他その権限に属する事務の一部を事務局の職員若しくは教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員（以下この項及び次条第一項において「事務局職員等」という。）に委任し、又は事務局職員等をして臨時に代理させることができる。

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十七条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第三項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

（教育委員会の意見聴取）

第二十九条 地方公共団体の長は、歳入歳出予算のうち教育に関する事務に係る部分その他特に教育に関する事務について定める議会の議決を経るべき事件の議案を作成する場合には、教育委員会の意見をきかなければならない。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律について（抜粋）
（19 文科初第 535 号 平成 19 年 7 月 31 日 文部科学事務次官通知）

第一 改正法の概要

1 教育委員会の責任体制の明確化

(3) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととしたこと。点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとしたこと。（法第 27 条）

第二 留意事項

1 教育委員会の責任体制の明確化

(3) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

- ① 今回の改正は、教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていく趣旨から行うものであること。
- ② 現在、すでに各教育委員会において、教育に関する事務の管理及び執行の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を議会に報告するなどの取組を行っている場合には、その手法を活用しつつ、適切に対応すること。
- ③ 点検及び評価を行う際、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることについては、点検及び評価の客観性を確保するためのものであることを踏まえ、例えば、点検及び評価の方法や結果について学識経験者から意見を聴取する機会を設けるなど、各教育委員会の判断で適切に対応すること。

逗子市教育委員会 教育部教育総務課

〒249-8686

神奈川県逗子市逗子5-2-16

TEL046-873-1111

FAX046-872-3115

E-mail kyouiku@city.zushi.kanagawa.jp